

異文化理解プロジェクト報告書

2003.11

岐阜大学留学生センター

本報告書の刊行にあたって

今年初めて、留学生と日本人学生による「異文化理解プロジェクト」を企画・実施した。留学生と日本人学生ができるだけ同等の立場で授業に参加し、相互の協力によって授業を作り上げていくような機会を設けたいと考えたためである。

これまで6年余りにわたって留学生センターと教育学部の間には、日本人学生がセンターの会話のクラスに参加するという形態の授業が設置されてきた。参加した日本人学生は、結果的に、異なる文化に触れることによって留学生に親近感を持ち、各自の異なる背景に対する関心・理解を深め、日本語や日本文化を再認識し、自文化を学ばなければならないという必要性を感じるなど、多くのことを学ぶことができたのだが、授業中は、「日本語を教える補助役」という役回りをこなしていたという印象が強かったのではないかと感じている。

そのような経験から、今回は留学生・日本人学生双方にとって意義のある授業ということを考えて計画を立てた。「異文化理解プロジェクト」は、2003年7月30日、留学生センター日本語研修コースAクラスの留学生10名、教育学部の日本人学生14名（「異文化間教育論」の履修生と国語教育講座等からの参加者）、教育学部の留学生2名の計26名が、3グループに分かれ、留学生が時間をかけて作成したプレゼンテーションを聞き、そのトピックに従ってディスカッションを行ない、終了後アンケートに答え、感想を書くという形で進められた。日本人学生に対しては、何の予備知識も与えられない中で初級レベルの留学生のプレゼンテーションを聞いた時、どのような反応・対応をしながら授業に参加していくのかを探りたいという意図があったため、事前の情報としては、留学生の氏名、出身国、プレゼンテーションの題名と簡単な概要のみを与え、各自の関心によって参加グループを選択してもらった。

ここに、当日のセッションの内容およびアンケート結果をもとに報告・考察を行う。

本書は以下の4部を中心に構成されている。

1. 異文化理解プロジェクトについて

本プロジェクトを行なう上での問題意識、手順と目的を記した。

2. 異文化理解セッションの報告

ここでは、3グループで行なわれたプレゼンテーションのスク립ト、ディスカッションの抜粋、及び、ディスカッション部分のテープ起こしを担当した日本人学生の感想を発表者ごとに収録し、各グループの担当教官による考察を記した。

3. ディスカッションにおける日本語母語話者の日本語の分析

日本語母語話者が国際的なコミュニケーションの場で日本語を話す際の問題点を分析した。

4. アンケート結果

留学生、日本人学生に対して行なったアンケート結果を掲載した。

2003年11月

留学生センター 宮谷 敦美
留学生センター 太田 孝子
教育学部国語教育講座 山田 敏弘

異文化理解プロジェクト報告書

2003.11

岐阜大学留学生センター

目 次

1. 異文化理解プロジェクトについて	留学生センター	宮谷敦美	1
2. 異文化理解セッションの報告			3
2.1. 1グループ	留学生センター	太田孝子	3
2.2. 2グループ	教育学部国語教育講座	山田敏弘	22
2.3. 3グループ	留学生センター	宮谷敦美	32
3. ディスカッションにおける日本語母語話者の日本語の分析	教育学部国語教育講座	山田敏弘	44
4. アンケート結果			48
4.1. 留学生に対するアンケート結果	留学生センター	宮谷敦美	48
4.2. 日本人学生に対するアンケート結果	留学生センター	太田孝子	53
5. まとめと課題	留学生センター	太田孝子	60
6. 参加学生名簿			62

1. 異文化理解プロジェクトについて

留学生センター 宮谷敦美

1.1. 本実践の問題意識

岐阜大学留学生センター日本語研修コース A クラスでは、コースの後半に、プロジェクトワークを実施している。これは、1) 研究室で必要となる専門日本語能力の養成、2) 教室の外で自然な日本語に触れる機会を増やすことにより、コミュニケーションストラテジーを高める、3) コンピュータリテラシーを高め、自律学習の方法を習得すること、の 3 点を主目的に行っているものである。しかし、これまでは、日本語学習者（以下、留学生）がアンケートやインタビューを通して日本人と話すことはあっても、それを通して彼らが考えたことについては話し合う機会がないため、留学生が考えたことを日本人学生がどのように思うのかについてはフィードバックを得ることができないという問題があった。

一方、岐阜大学に在籍する日本人学生は、留学生と言葉を交わしたことがほとんどない者が多いというのが実状である。岐阜大学に在籍する留学生は、2003 年 10 月現在 377 人で全学生の 5%にものぼり、数字から見るとキャンパス内の国際化は確実に進んでいるのだが、留学生の多くは研究生や大学院生であるため、研究室に所属しない日本人学部生は留学生と接触する機会がない。これは、国際理解教育を専門にしている学部日本人学生の場合も同じである。

以上のような双方の現状を改善するために、この度、日本語研修コース A クラスでは、プロジェクトワークの終了時に教育学部の日本人学生と討論する時間（以下、異文化セッション）を授業に組み入れることにした。

1.2. 手順と目的

留学生のプロジェクトワークは以下の手順で行った。



テーマ決定、およびインタビュー・アンケート
項目作成（6月下旬～6月末）
教師がプロジェクトワークの手順と目的について

説明した後、これまでに行われたプロジェクトワーク発表会のビデオを視聴させ留学生に全体をイメージさせた。その後で、留学生は自分が興味を持っているトピックについて、その理由と調査に向けての具体的な内容をクラスで発表した。クラスメートである他の留学生も、そのトピックや内容が発表を聞く日本人学生や留学生にとって興味深いものであるかどうか、意見を述べ合い、具体的な質問内容を吟味した。

インタビューおよびアンケートの実施

（7月上旬）

7月上旬に、調査対象者にインタビューとアンケートを実施した。インタビューの前に、留学生はインタビューを依頼する際の会話練習や、インタビューでの日本人との会話で日本語が理解できないときにどのような方法で解決できるかについて話し合い、具体的なコミュニケーションストラテジーを学習した。インタビューでは、コントロールの少ない自然な日本語に触れ、様々なコミュニケーションストラテジーを用いてインタビュータスクを達成することを目的にしていたため、少なくとも 10 名の日本人にインタビューをすることを課した。またインタビューは後に内容を確認したり、分からない箇所を教師が説明できるように、カセットテープに録音するように指導した。

分析及び原稿の文章化（7月中旬～7月下旬）

留学生はインタビューのテープを聞いたり、アンケートに記入された回答を読んだりして、結果を集計した。ここでは、留学生同士が助け合うことを奨励した。また、留学生自身に、自分の発表内容が他者にとって分かりやすいものかどうかを意識させるために、留学生同士で発表内容や日本語の間違いについてアドバイスしあうピア・フィードバックの手法を取り入れた。以上の手法を取り入れることにより、個人作業が中心になりがちな原稿作成においても、留学生間のやりとりを多く持てるように工夫した。

スライドの作成と発表練習（7月下旬）

原稿の文章化に並行して、コンピュータに文章を入力し、マイクロソフト社のプレゼンテーション用ソフトウェア、パワーポイントを用いてスライドを作成した。また、原稿作成後で、スライドを操作しながら、発表する練習を行った。

異文化セッションの実施（7月30日）

～ の手順で完成させたプレゼンテーションを、3つのグループに分かれ、日本人学生の前で発表し、ディスカッションを行った。1グループに3～4名の留学生と5名前後の教育学部の日本人学生、留学生が参加した。参加した日本人学生は、教育学部の「異文化間教育論」を履修する学生9名と、ポスターの呼びかけにより参加した教育学部国語教育講座等の学生5名、計14名と、教育学部の留学生2名（台湾、ミャンマー）である。留学生の発表の後、テーマに基づいて、30分から1時間程度ディスカッションを行い、ディスカッション終了後に、参加者に対してアンケートを実施した。

なお、本報告書においては、留学生を RA ～ RL で、日本人学生を NA ～ NN で表す。

2. 異文化理解セッションの報告

留学生センター 太田孝子

2.1. 1グループ

1グループはAクラスから中国、ミャンマー、オーストラリアの3名の留学生と、教育学部の日本人学生5名（内1名は発表2の途中から参加、また別の1名は発表1のみ参加）がディスカッションに参加した。進行役は留学センター太田が担当した。

2.1.1. 発表1「大学生の今の生活」

キョ タイ ナンダーさん（ミャンマー）

[発表スクリプト]

みなさんこんにちは！ 私はミャンマー人でキョといひます。去年10月に日本へ来ました。教育学部、物理教育の研究生です。指導教官はX先生です。

私は国で大学の教師をしていて毎日大学生といっしょにいました。それが私にとって、大学生の生活が一番楽しかったです。ですから、日本人大学生の今の生活に興味を持っていてこのことについて調べようときめました。

プロジェクトワークの目的は大学生が今の生活でなにを面白いと考へているかを調べることです。

ではこれから調査の方法について説明します。私は日本人大学生20人にインタビューをしました。インタビューの質問は次の6つです。

- ・ どうしてこの専門を選んだんですか。
- ・ 専門が本当に面白いと思ひていますか。
- ・ いつからこの専門に興味を持つようになりましひか。



- ・ 勉強のほかにどんな活動を大学でしていますか。
- ・ 今の生活はどうですか。
- ・ 専門を将来にどうやって活用したいですか。

まず「どうやってこの専門を選んだんですか」という質問について説明します。自分の希望で専門を選んだと答へた人が19人でした。ここしか入れなかつたと答へた人は1人だけでした。「専門が本当に面白いと思ひていますか」という質問に「はい」と答へた人は15人で、まだ分かりませんと答へた人は5人でした。このことから自分の希望で専門を選んだ大学生は本当に専門を面白いと思ひていることが分かります。ですからいい学生になると思ひます。まだ分かりませんと答へた人は1年生と2年生でした。1年生と2年生は専門的なことをまだしてないのひで、専門が本当に面白いかどうかまだ分らないと答へました。みんなが3年生になれば面白くなると思ひているとこたえました。私もそう思ひます。でも1年生と2年生は専門の授業だけじゃなくて、専門の勉強を自分でがんばればもっといいと思ひます。

では、次に「いつからこの専門に興味を持つようになりましひか」という質問についてですが、高校生のときからだと答へた人が15人でした。ほとんどの大学生が高校生のときに自分の希望で好きな専門を決めたことが分かりました。

では、次に「勉強のほかにどんな活動をしていますか」という質問についてですが、7人の1年生と2年生がクラブ活動をしていると答へました。ほとんどの大学院生と4年生はなにもしてないと答へました。1年生と2年生が活動をしながら勉強しています。でも4年生と大学院生になったらもっと勉強したり、研究したりしているのひで活動をする時間がないということが分かりました。

では、次に「いまの生活はどうですか」という質問についてですが、楽しいと答へた人が9人、たいへんですが楽しいと答へた人が7人、まあまあだと答へた人が4人でした。大学生は好きなことに時間を使っているのひで忙しくて大変ですが、楽しいと思ひます。

では、次に「専門を将来にどうやって活用したいですか」という質問についてですが、たくさん子供たちに専門の面白さを教へるために先生になりたいと答へた人が11人、研究者になりたいと答へた人が4人、公務員になりたいと答へた人が3人、まだ分らないと答へた人が2人でした。ほとんどの大学生は専門と

関係がある仕事をしたいということが分かりました。

では、まとめにはいります。ほとんどの学生が高校生のときから好きな専門を自分の希望で決めていきます。1年生と2年生のときクラブ活動をしながら勉強して、4年生になったらもっと専門の勉強をするので、専門がよく分かるようになると思います。インタビューした人に3年生がいませんでしたので、3年生についてよく分かりませんでした。大学院生も一生懸命勉強したり、研究したりしていると思います。大学生は好きなことに時間を使っているので忙しくて大変ですが、今の生活は楽しいそうです。それにほとんどの学生は将来したい仕事を決めて、この仕事につけるようにがんばっています。将来彼らは日本の大切な人になると思います。

これで大学生の今の生活について発表をおわります。ご清聴、ありがとうございました。ご意見や、コメントなど、よろしくお願いたします。

[ディスカッションの抜粋]

1) プレゼンテーションのテーマ選択の意図

NA : あ、インタビューしたのは、全部教育学部の学生ですか？

RA : いえ、ほとんどは教育学部の研究生達と、農学部、工学部、化学...、あ、chemistry の研究生もいます。農学部の学生が5人、工学部の学生が2人、次は、全部教育学部の学生です。私は教育学部の学生ですから、私の友達は教育学部の学生です。

NA : 将来、先生になりたいって人が多かったのは、教育学部の人が多かったから？

RA : はい、もちろんです。

太田 : すみません、もう一度、その質問した人、教えてくださいませんか。

RA : 教育学部が13人、農学部が5人、工学部2人です。

太田 : はい、ありがとうございました。

NB : RAさんは、大学で働いていて、それで大学が楽しかったからこのテーマを選んだといいましたけど、ミャンマーでも、1年生と2年生では専門的なことはしないんですか？

RA : はい、ないです。この理由は日本とミャンマーは同じです。私も、物理学に興味があるので物理学を選びました。でも、1年生と2年生の時、

専門の授業はとても少ないですから、私は専門についてよく分かりませんでした。そして、1年生と2年生の時、私は外で友達と遊びましたから、専門が本当におもしろいかどうか、わかりませんでした。

NB : はあ、一緒なんだ。

RA : はい、私は、この私の気持ちと皆さんの気持ち、同じですか、知りたいですからこの質問をしました。

1 グループのディスカッションは、プレゼンテーションを聞いて確認したかった点、インタビューした学生の内訳と発表者がどうしてこのテーマを選んだのか、その意図を確認することから始まった。これは、発表の内容をよく聞いていて先ずは疑問に思ったことを聞くという、かなり順調なディスカッションの入り方であったといえる。

2) 学問的レベルに対する心配

NC : えっとー、僕物理の学生なんですけど、うちのX先生とか知ってるんですけど、あの人の授業も、専門としてはちょっと低いかと思いますか？

RA : 物理の授業は...

NC : 2年の時に授業あるじゃないですか、X先生の。

RA : 私は、X先生の授業、良くわかりませんでした。私は、今研究生ですから、今授業はないんです。研究ですから、X先生の授業はわかりません。

太田 : じゃ、今のNC君の質問に加えて、その研究をしてる時に、日本の物理と、ミャンマーの物理の授業とでは、違いがありますか？

RA : はい、とても違います。ミャンマーには、研究するの、instruments、instrumental devicesは少ないんです。そして、私のミャンマーの研究室に、私の指導教官をtheoretical physicsですから、実験について良くわかりませんでした。今日本へ来た後で、X先生と一緒に実験をしました。そして、筑波へ行って、物理の研究を日本人研究者と一緒にしましたから、今、私は、実験について良くわかるになると思います。

NB : じゃあ、ミャンマーでは、その、実験の方法と

かは知っていても、instruments は少なかった
ので、日本に来てそれを実際に実験して、良く
わかるようになったと...

RA : はい、良くわかります。

次に出された質問が、唐突とも思えるような岐阜大学の物理のレベルに関する質問であった。質問者としては、大変気になっていた点であったのだと思うが、質問の背景には、「留学生は、選ばれた優秀な人たち」という意識と「留学生と初めて話した」という質問者の素朴な疑問が含まれているように感じる。留学生にとって今置かれている場所や目指している学問のレベルが満足いくものなのか、まるで質問者自身が留学生を迎える代表者であり、その専門の提供者であるかのように感じて発した質問だったといえる。この質問のように「日本」という国が、外国の人々にとって満足を与えうる国なのかどうかを気にする日本人は案外多い。これは、「日本がどのように見られているのか、どのように捉えられているのか知りたい」という不安を含んだ意識の裏返しともいえよう。期せずして発せられたこの質問は、外国人を迎える側の素朴な配慮(心配)の現れとして興味のあるものであった。

また、発表者は、ここで幾つかの英単語を使っているが、この英単語が参加者全員に理解されたかどうかの確認は行わなかった。

3) 専門に対する両親の意見



RA : 私は高校生の時、高校生に物理を教えた先生の教えることがとてもいいですから、物理におもしろい、とてもおもしろかったです。ですから、私は物理を選びました。でも、私が物理学を選

ぶことを私の父と家族が全然好きじゃなかった。私と私の母だけ、私の選ぶことを好きでした。ですから私、いつも専門の勉強を一生懸命勉強した方が、いつもいいと考えました。

太田 : ええと、今 RA さんは、家族の意見があったって言いましたよね。そういうことについてどうでしょうか。それから、今、RA さんの質問にもありましたけど、専門をおもしろいと思ってますか。そして、将来にどうやって活用したいですか。そういうことを全部入れて、ちょっと考えていることを発表して下さいませんか。

NB : 家族の点では、私の母は音楽の先生なんです。その影響もあるかもしれないんですけど、反対はされなくて、別に「やりなさい」とも言われなくて。うーん、あなたが選んだんなら、すれば、っていう感じでした。それで、今おもしろいっていうことなんですけど...。やっぱり、1・2年生の時は全く...全くではないですけどあまり専門の時間がなかったんで、全然自分が音楽科という気がしなくて、その時は面白くなかったんで、ピアノもあんまり練習しなかったんです。でも3、4年生になったら、いろんな他の楽器もできるようになったんですけど、やっぱり先生が少ないので、自分がレッスンを見てもらえる時間が少ないんです。それは少し不満です。あと、将来は、それを自分の仕事に活かすかっていうと、まだわかりません。

NC : 家族は、別に僕の親は教師とか関係なくて、普通に大学も行ってなくて、高卒で働いていて、そういう親の影響とかはないんですけど、別に自分の決めたことだからって言って、大学にも行かしてくれますし、応援してくれてます。で、今の大学なんですけど、物理ははっきり言って本当難しくて、3年になった今も未だに何をやっているのかわからないってことはあって、勉強しても勉強してもわかんなくて。うーん、でも、まあ、好きなことだから楽しいし、勉強しがいもあるんで、で、それが教師になった時に生かせると思うんで、今のうちに勉強して...。あと、子供も好きなので、教師になりたいです。

ND : 私は、親は教育学部に入ることは賛成だったんですけど、私は教育学部でも免許をとらないっ

て決めたので、それには少し反対されました。でも、今は納得してくれてるんですけど。で、心理学っていうのは、なんか、思ったより違って、最近、コンピュータも使うことが多くて、それが難しくて戸惑ってます。なんか、心理学っていうのは、普段の生活とかでも、どこも関係なく使えるから、これからは役に立つと思います。

NE : 私は、両親が共に教師で、小さい頃はそのせいですごく嫌な思いをしたんですよ。やっぱり教師の娘だからってということで、勉強できて当然みたいだったんですけど、私小学校の時オール1とか当たり前で、今その先生たちに会うと、「どこの学校行ってるの？」じゃなくて、「何してるの？ 大丈夫？」って聞かれるんですよ。それを考えると、今自分が教師を目指しているのがすごい不思議な感じがして。で、家庭教師とかで教えてても、やっぱり家庭教師をやるっていう子はわからない子じゃないですか。で、私も自分が勉強してもすごくわからなかったの、その気持ちがすごい良くわかるっていうか…。だから、そういう面でもやっぱり自分は教師がむいているのかなあって勝手に思い込んで、教師を目指してるんですけど。で、親はやっぱり自分たちが教師なので、その辛さも、そういう大変さとか楽しさも知っていて、すごい私が教師を目指すことに対しては賛成してくれてます。で、自分が今英語を勉強して楽しんでるかっていうと、えーと、英語にも文法構造を中心にした授業や、英文学をひたすら追究していくような授業とかあって、興味のもてないものは、ある程度距離をおいて勉強してるっていう感じがします。教師になりたいなっていう気持ちはいろんなことを体験していく中で、日に日に強くなってくので、やっぱり教師を目指して頑張りたいと思います。

NA : 私は大学に入る時に、えっとー、お父さんとかがお金がいっぱい大学は高いから、本当に大学に行く意味があるのかっていうことを言われて、まあ、初めはお金出さなきゃいけないしあんまり賛成してなかったけど、いろいろ親と、先生になりたいって話をしたら、「いいよ」って素直に…、あの、「いいよ」って賛成してく

れました。で、今の専門が教育学で、学校に行ったりとか教育実習とか、いろんなことをやってきて、先生という仕事がすごく大変なことが良くわかって。夜も寝れないし、毎日子供の心配しなくちゃいけないし。子供は好きで楽しいし、やっててすごい楽しいんだけど、大変なものもあって。だから、自分が本当に先生になりたいか、ならないかはまだ迷ってます。はい。

RC : 私は大学に入る時、両親はえっと医者になりたい。でも私は血が嫌いだから医者になりたくない。だから法律選んだ。今、法律は良くてもおもしろいですが、でも、とても難しいと思います。でも法律はたくさん仕事ができます。だから、あの、それはいいと思います。

RB : 私は6歳とまでは、力が弱い、体が悪い、よく病気をしましたから、両親は私に体操をします。だんだん体強くなりました。私の専門は、両親は、今中国の学校の先生の仕事、とてもいいですから、私の両親達は私に、学校の先生になりたいです。私も、学校の先生になりました。国に帰りましたら、大学の先生したいです。

太田 : 体育は楽しいですか？

RB : とても楽しいし、体にいいです。それで、これ、仕事は私、大好きです。

各自がどのように専門を選んだのかをかなり詳しく話した後、しばらく沈黙があった。そこでその沈黙に負け、司会者が質問を発してしまった。発表中、選択にあたって家族の意向があったと述べていたので、これはかなりマンマー的な発言といえるのではないかと感じ、他の学生は家族とどのように相談しながら専門を選ぶのか質問したわけである。このディスカッションからも分かるように、各自が家族ともよく話し合い、最終的には家族の応援を受けながら専門を決定していることが分かった。また、ここで全員が発言したこともあって、全体の雰囲気が変わっていった。参加者の「自己開示」が、相互の緊張感を解いていったものと思われる。

4) なぜ日本に留学したのか

NA : あ、ちょっと発表とはずれるかもしれないんですけど。あの、日本に来たのは、実験をたくさんやりたかったからですか？

RA : はい。私の夢は、子供の時から物理の教師になりたいです。その後で、外国に留学して、外国からたくさんの物理のおもしろさを習って、それから国を帰って、国の大学生に物理のおもしろさをたくさん教えたい...教えることです。ですから、今ミャンマーでは外国に留学することがとても難しいですから、私一生懸命勉強しました。ですから今日本へ来ました。

NA : たくさん国がある中で日本を選んだのはどうしてですか？

RA : 日本を選んだのは、私は子供の時から、日本の映画をたくさん観ました。そして、私の弟は11歳から福岡へ来ました。福岡で、子供の meeting 来ました。その時、私より弟は今11歳ですが、日本語が上手ですから、私はとても日本へ来たいですから。今、ドイツと、マレーシアと、日本と、私のミャンマーの研究生はドイツへ行ったこともできます。日本へ行ったこともできます。マレーシアへ行ったこともできます。この国の中で、私は日本を選びました。

太田 : ミャンマーから行くことができるのは、ドイツとマレーシアと日本と...

RA : はい。今私の友達はドイツで勉強しています。みんなドイツに興味があるけど、私は日本に興味がありました。

NB : 何の日本の映画を観たんですか？

RA : えーと、たくさん子供から...。わたしは、今ちょっと忘れちゃった...。えー、でも、アニメとか、precise photographer...。でも、actress はモモエ・ヤマグチ。古い映画です。弟が今、日本、国へ帰った後で、たくさんの日本のビデオと映画持って来ました。いつもいつも家にこのビデオ観ました。弟は私より日本語が上手です。

NB : 弟さんはどれくらいの期間いたんですか？

RA : 1ヶ月。でも弟さんを教える先生は、ミャンマーの、マンリの人...先生は日本人の先生です。弟の pronunciation は日本人みたいです。今、弟も国で日本語の勉強を続けます。漢字はすごい上手です。私は漢字を下手ですけど、弟は今、私に漢字で手紙を書きました。

NA : 今何歳？

RA : 今11歳です。今、12歳。11歳から日本へ来

ました。

NE : じゃあ、残りの留学生の人たちも、何で日本に勉強しに来ようと思ったのか。私が考えるのは、日本...アジアの人たちって、私も含めてですけど、あの、アメリカとかヨーロッパに憧れるかなあってのがあるんですけど。ヨーロッパとかは考えなかったんですか？

RB : 私は妻がいるんですけど、私の前に日本へ来ました。指導教官、とてもいい先生でした。日本に合っています。

太田 : RBさんの奥さんは教育学部にいます。Aさんといいます。

NB : 二人共、留学してるんですか。二人共、岐阜大学に？

RB : 弟も。

RC : Aさんは英語、とても上手です。私はどうして日本選んだっていうと、最初に、日本とオーストラリアはたくさん business があるんですけど、日本語は私の仕事のためにいいと思います。それから、私のえっと...boyfriend は日本人ですけど、日本語が勉強したいです。日本語はまだまだです。

NB : 今 boyfriend と日本語でしゃべれますか？

RC : いえ、英語で。

RA : boyfriend の英語は上手ですか？

RC : うん。シドニー工科大学で勉強したから。

太田 : あの、二人とも後でそれぞれ発表しますから、その時に二人のことについては聞いてください。

留学生と話すことに慣れてくると、留学生の個人的背景について質問したくなるのは自然なことである。日本人学生にとって最も知りたいことと思われる「なぜ日本に留学したのか」という点でも質問が飛び交った。その質問の背景には一学生が尋ねるように、「アジア人にとっての留学先としてアメリカやヨーロッパに対する憧れがあるのではないか」という素朴な意識があるからであろう。そして、その質問が日本に来たことがある弟やボーイフレンドのことに及ぶとさらに質問が活発になり、初めの質問の意図から離れてしまい、質問を制止しなければならないほどであった。親しくなってくると、関心がさらに個人的なことにまで及び興味ある話題はかなり発展して広がっ

てしまうことをこの例はよく示しているといえる。

5) 留学試験について



RC : RA さんに質問とか、まだ聞きたいこととかどうぞ。

RB : えっと、RA さん日本に来て、行きたい時、えっと、難しいですか。えーと、どうやって勉強、留学するをやって...

RA : ミャンマーから日本へ来たのは、私にとってあまり難しくありません。私の国の指導教官と X 先生が、東京の meeting で会いました。それから、わたしと RE さんにとって、X 先生が日本で準備をしました。そして、国で、私たちと日本へ来る準備を国の指導教官がしましたから、あまり難しくありません。

RC : でも他のことは？ たくさん試験しなくてはなりませんか？

RA : 私たちも試験、文部省の試験をしました。この試験を pass ですから、日本へ来ました。ミャンマー国で、日本の大使館へ行って、試験をしました。

NB : 物理の試験ですか？

RA : いいえ。日本語と英語の試験を。でも、日本語の試験はあまり難しくありません。ひらがなだけです。話すことを難しくありません。「名前は何ですか」とか、これだけ。「どうして日本へ来たいですか」、それだけです。簡単にしました。物理の試験は、国の研究室でしました。

NE : 日本に勉強しに来ることについては、家族の方はどう思っていますか？

RA : 私の父は5年前に亡くなりました。えっと、今日本で私の母と妹といました。母は私に留学したいですから、今大丈夫です。でも時々私に会いたいと手紙を書きました。でもいつも1ヶ月に2回、母に電話をかけますから、今は大丈夫です。

NA : 日本には何年間いる予定ですか？

RA : 私はまずは1年半です。でも今、9月、10月に大学院の試験をしたいですから、この後にどうやって change したいですか、今まだわかりません。国の指導教官と...私の指導教官と discussion をした後で、どうやって日本に私は続けるのですか、国へ帰ったのですか、今まだわかりません。でも本当は1年半です。

「なぜ日本に留学したのか」という質問に続いて、「留学にはどのような試験が必要なのか、それはどのようなものか」という質問がなされたのもごく自然の流れだったといえる。しかし、説明された試験の内容が、あまりにも簡単な内容だったので他の学生は意外だという感じを持ったようだ。実態がよく飲み込めず、あっけにとられたまま、質問は深まらなかった。

6) 大学生の勉強の仕方、語学の勉強について

NB : えっと。ミャンマーで大学の先生なんですよ。ミャンマーの大学生は、日本の大学生より勉強熱心ですか？

RA : 私、そう思いません。だいたい同じですけど、ミャンマーの大学生は、あまりアルバイトをしたくないですから、日本の大学生はミャンマーの大学生以上に本当大変と思います。ミャンマーの大学生は、勉強が好きですけど。授業は朝9時から夜4時まで。ですから、自分で勉強することがないと思います。授業だけで。

NB : でも、日本の大学生はあんまり勉強してないと思いませんか？

RA : いいえ、他の学生はまだわかりませんが、私の今研究室で4年生が5人います。この5人はいつもいつも研究室で勉強、勉強、勉強...。したり、研究したりしましたから、私にとって、日本人大学生が勉強好きだと思います。

NA : ミャンマーの大学も4年間ですか。

RA : ええ、4年です。その後、Master、大学院が

- 2年...
- NB : 日本みたいに、第2外国語とか...。えーと、日本だったら、ここ岐阜大学に入ったら、私たちはドイツ語か、フランス語か、中国語か、ポルトガル語を勉強しなければならないんですけど、ミャンマーでもそういうのはあるんですか？
- RA : ありません。ミャンマーでは、入学試験はない。高校生の点数が一番大切です。高校生の点数が一番いい点の人が、一番です。
- NB : じゃ、もう英語と...
- RA : 英語とミャンマー語だけ。ミャンマーに教科書は全部英語ですから。でも教えることはミャンマー語です。試験も英語です。
- RC : どうして日本の大学は、たくさん、他の言葉勉強しなければなりませんか。選んでできない？
- NA : ...どれか、その中から1つだよ。フランス語か、ドイツ語か、中国語か、ポルトガル語か。1年生の時にね。でも1個は絶対やらないと...やらなければならない。
- RA : どうして？たくさん言葉を勉強しますね。みんなすごいね。
- RC : NAさんは韓国語と、英語と、中国語と...、勉強して...
- NA : でもそれは勝手にやってるだけで、絶対やらなきゃいけないのは、英語プラスその、もう1つ。私は中国語をやったけど、うん。
- RA : NAさんの中国語は上手ですか？
- NA : できません！ オーストラリアの方もあるよね。
- RC : ある。でも1つとかですけど...
- NA : 多分、英語だから。
- RC : えっと、例えば私は日本語を勉強してる。日本語だけ選んだ。それから勉強する。
- NE : それは英語が話せるから。
- RC : たくさん言葉勉強すると、全然わからないと思いますけど。
- NB : まず、NAさんは興味があるからいろいろしてるけど、普通の人...普通の人っていうか、何ていうの？大学生は、英語ともう1つ。日本語、英語、もう1つ。それは英語はしゃべれないとダメ。
- NA : と、言われている。
- NB : 言われているけど、できないんだけど、英語がbaseで。だから、英語がしゃべれて初めて、あの、その native English speaker に追いついて、それプラスだよ。だから一緒だよ。
- RA : NBさんは、英語と何語ですか。他は？
- NB : 私は大学でドイツ語をやったんですけど、今は全部忘れちゃった。
- RA : 私もドイツ語...今習いたいです。友達がドイツにあるから、時々ドイツ語で私にe-mailを送ったら、私は全然わかりませんから、私は日本語でe-mailを送ったけど、彼はミャンマーで日本語を少し勉強しましたから、私のe-mailを彼はわかります。私はドイツ語を習いたいです。
- NB : RAさんはミャンマー語で、英語は教科書が英語で、でも日本語をしたでしょ？
- RA : 教科書？
- NB : 日本語をもう1つ勉強したでしょ？
- RA : 今、国で？ 国で私は3週間だけ勉強しました。私に日本語を教えた先生が、名古屋大学から卒業しました。でも、ミャンマー人です。名古屋に5年間住んでいました。この先生が私に日本語を教えました。3週間だけです。自己紹介だけです。
- NB : そうかー、なるほど。
- NA : 英語話す国だから、あれなんだよ。
- RC : でも私は日本語だけ勉強してる。とても難しいと思います。1つ言葉やるのはもっと難しいと思います。多分、全部勉強しないで忘れた。ややこしい。今時々、英語時々、だんだん別な語は忘れた。
- RA : 私は今、研究室でセミナーの時、日本語と英語がconfuseです。先生は「何語で話しますか」って。時々日本語、時々英語ですから。
- RC : 私にとって、えっと、外国語は勉強する、その国は行った方がいい。国で住んでいる、それからしゃべれる。でもえっと授業行っただけ、しゃべれない。私はシドニーで、日本語は2年間勉強した。でも、全然しゃべられない。うん、日本来た時全然しゃべられない。とても心配した。どうして？勉強した。試験のためだけ勉強した。頭の勉強だけ。後で全部忘れた。
- NB : それと同じことが、日本の英語だと思います。

プレゼンが「大学生の今の生活」という身近なテーマであったために、話題は次々とふくらみ、最後は「語学学習」になった。わずか4ヶ月しか本格的に日本語を勉強していない留学生の日本語での発表は、やはり日本人学生にとってはショックであり、刺激になったようだ。しかし、実際の発言は日常的に留学生や外国人と接し、特に「英語」の必要性を感じている二人の学生間のやり取りに引張られてしまい、留学生(特にRC)の期待した質問や発言を深めていくことにはならなかった。「語学ができる」ことへの憧憬とコンプレックスが背後に見えかくれするやり取りとなった。

[日本人学生の感想]

3人の留学生も含め、それぞれ何故今の学部・学科を選んだのか、その選択は実際どうだったのか、将来は大学で学んだことをどう生かしていくか、を順番に発言していった。初回の発表ということもあってか、自分たちでは要領を上手くつかめず、大半が太田先生に誘導して頂きながら進められたため、ディスカッションとしては自発的な発言が少なかったという感を受けた。

日本人学生の発言は、私自身、以前から感じていたことだが、日本の学生は進路選択を迫られる高校生の時点で、収集できる情報量に限りがあるため、また、大学入学試験の偏差値制限のため、刹那的な興味・関心、またはあろうことが消去法で進路(学部)を決め、その勉強が将来の人生にどう関わってくるのかを良く考えることなく選択をしてしまう恐れがある。そのため、大学入学後に現実との間にギャップが生じ、その後の人生において、大学で学んだことを十分生かすきれない人が多くいるという実態を十分に裏付けているように感じられた。

教師になりたいという希望を胸いっぱい抱き入学はしたが、教育実習を初めとする現場体験し、その楽しさ・やりがいなどプラス要因とともに、責任の重圧感・過労や不規則な生活などマイナス要因も知り、迷いのなかった心に一点の陰りが出てくる。(私自身もそう感じた)。また、このトピックにもあったように、1、2年時のあまりの専門学習コマの少なさから、だんだん入学時の情熱を失い...といったケースもある。勿論、それでも自主的に学習して3、4年に備える学生もいるのであろうが、それにしても環境が十分

でない。短所ばかり挙げるつもりはないのだが、私はどうしてみても、このシステムに賛成できないでいる

その点、キョさんの国・ミャンマーでは進路選択の余地が決して多いとは言い難い状況の最中、その中に自分自身で興味や理由を見出し、多少の迷いは勿論あるであろうが、勉強に打ち込み、そして追々国に貢献していくという、いわばエリートコースが既に出来上がっているようだった。しかし彼女達にしてみれば、少なくとも表面上は「自分の意思」で学部、そしてそれに続く未来を決められる日本・その他の国々の大学制度は新鮮に映っているのかもしれない。

北米などのように、ある程度の基礎能力さえあれば、入試などなく、本当の意味での「自分の意思」で進路を決めることができたらどんなにいいだろうと思う。もしかしたらダンさんのオーストラリアもそうなのかもしれない。彼女は「法律(法学部)・日本語(留学)」ともに、しっかり将来をも見据えての選択のようだ。

秦さんのように、子供の頃から将来の夢がはっきりして、それを目指して着々と手順を踏んできたのであれば、それに勝るものはないのだが。

このディスカッションで最も興味深く進展した話題が、“第二外国語”についてだったように思える。この制度は当たり前なものだとばかり感じていた私にとって、新たな発見であった。母国語に加えて英語もほぼ完璧に操り、日本語も勉強中のキョさんが、「日本人はたくさん言葉を勉強しますね。みんなすごいね」と。ダンさんも同様に思っていたようだ。そう言われてみれば、日本人は話せる、話せないに関わらず、それほどに語学を勉強しているのだろうか。英語は全員義務教育で。そして、大学では新たにもう1つ...。日本語と併せて3ヶ国語になる。

それについて何の疑問も抱いた事はなかったが、目から鱗の落ちる思いであった。太田先生の解説から、日本の教育がそうなった歴史は一応理解したものの、それでも日本人である私にとって、バイリンガル、いや、トライリンガルに向けて邁進中のキョさんがそんな風に感じるなんて驚き以外の何者でもなかった。北米では、高校で第一外国語を習うようだが、それは私たちにとっての英語に等しい。しかし、ネイティブの英語話者である彼らにとって、語学にそこまで本腰を入れなくとも、将来も不便を感じることは少ないであろう。そこが違いなのだ。ダンさんには、私たちの拙

い説明では十分に理解してもらえなかったかもしれないが、私の理解としては、日本人は英語ができてやっと外国人(欧米人)と同じスタートラインに立つ。だから第二外国語なるものを勉強するのが当たり前なのかと、ばかり今まで考えてきた。

このトピックは本当に興味深いものだった。カルチャーショックでもあった。是非、またの機会に改めて討論してみたいと思う。(NB)

2.1.1.2. 発表2「日本の体育教育の特長について」

秦洪さん(中国)

[発表スクリプト]

みなさん、こんにちは。私は今岐阜大学の教育学部の研究生で、秦といいます。専門は体操です。今日は日本の体育教育の特長について発表させていただきます。

では、はじめに調査の目的について話します。私は日本へ来る前に中国の大学で体育科目を教えていたので、日本で大学の一般体育教育の目的と方法がどうなっているか知りたいです。日本と中国の大学の一般体育教育の同じ点と違う点をしらべて、日本の一般的な体育教育の特長が何か知りたいです。それで大学の体育科の先生に聞いたり、大学生にインタビューをしたりしました。

では、インタビューに答えてくれた人について説明します。全部で20人にインタビューしました。男の人が9人、女の人が11人でした。教育学部が7人、工学部が4人、地域学部が2人、農学部が6人、医学部が1人でした。

では結果について説明します。まず、大学の一般的な体育教育について調査しました。

「大学の体育科目はどんな授業形式ですか。」という質問についてですが、「運動場所です」と答えた人は15人で全体の75%、「教室で体育理論を習う」と答えた人は2人で全体の10%、「体育科目を選択しない」と答えた人は3人で全体の15%でした。この結果から、一般的な体育科目は選択科目で、学生は自由に選択科目を取っています。運動場所で技能を学ぶ人は教室で体育理論を学ぶ人より多いです。大部分の学生は運動場所で技能を学ぶことが好きです。

「体育科目は天気が悪いとき何をしますか。」という質問についてですが、「体育館で運動する」と答えた

人は6人で全体30%、「教室で体育理論を習う」と答えた人は3人で全体の15%、「スポーツのビデオを見る」と答えた人は4人で全体の20%、「止める」と答えた人は4人で全体の20%でした。この結果から、体育科目は天気が悪いとき、スポーツをしなくて、勉強することが多いということが分かりました。スポーツをしなくて、体育理論を習う授業形式とスポーツのビデオを見る授業形式を続けます。

「あなたは体育科目をどう思いますか。」と「体育の選択科目をこれから取りたいと思っていますか。」という質問についてですが、「好き」と「はい」と答えた人は12人と14人で全体の60%と75%でした。この結果から、大部分の大学生は体育科目が好きで、体育科目に興味があることが分かりました。

次に、運動全般について質問しました。「一週間に何回運動しますか。」という質問についてですが、「3回～6回」と答えた人は14人で全体の75%、「1回～2回」と答えた人は4人で全体の20%、「0回」と答えた人は2人で全体の10%でした。この結果から、大部分の大学生は自発的に運動していることが分かりました。それは、一般体育教育の目的の1つは「生涯体育」です。「生涯体育」とは生涯にわたり心身共に健康で豊かな生活を送るために、いつも運動することです。健康のためには、一週間に平均4回、1回2～3時間運動するのが、いちばんいいです。

「いつもどうやって運動しますか。」という質問についてですが、「クラブで」と答えた人は12人で全体の60%、「同好会」と答えた人は2人で全体の10%、「友達と」と答えた人は2人で全体の10%、「一人で」と答えた人は2人で全体の10%、「ほとんどしません」と答えた人は2人で全体の10%でした。この結果から、大部分の学生はスポーツをクラブと同好会でしていることが分かりました。「一週間に何回運動しますか。」という質問について「クラブで」と答えた人はほとんど「3回～6回」と答えました。

「どんなことをしましたか。」という質問についてですが、「サッカー、バレーボール、バドミントン、剣道などの答えがありました。大学ではいろいろなスポーツが広くいきわたっています。

「どんな方法でスポーツについて分かるようになりましたか。」という質問についてですが、「先生に習います」と答えた人は10人で全体の50%、「テレビを見ます」と答えた人は5人で全体の25%、「新聞を読み

ます」と答えた人は3人で全体の15%、「友達と先輩」と答えた人は6人で全体の30%、「雑誌を読みます」と答えた人は3人で全体の15%でした。この結果から、色々な方法でスポーツについて分かるようになっていますが、先生に大部分の基本的な技能と知識を教えてもらっていることが分かります。

まとめに入ります。まず、日本と中国の一般的な体育教育の共通点について説明します。

日本と中国の一般的な体育教育の目的と授業形式は同じ点が多いです。生涯にわたり心身共に健康で豊かな生活を送るために、スポーツや運動や健康に関する科学的な知識と考え方を学習します。主な授業形式は運動場で、技能を学びます。スポーツの種類はど同じですが、両国に民族のスポーツがあります。たとえば、日本は剣道があって、中国は武術があります。

次に、両国の大学の一般的な体育教育の相違点について説明します。

2つの国で体育科目の性質は違います。日本で一般的な体育科目は選択科目ですが、中国で1年から2年まで一般的な体育科目は必修科目です。そして1年から4年まで体育の選択科目が取れます。

運動全般についてですが、日本では大部分の学生はいろいろなスポーツのクラブに参加して、クラブで自由に運動しています。それで、運動する時間は十分あります。この学生はいつも運動習慣をつけやすいです。中国で大部分の学生は1人が友達と運動するので、運動の時間が不定期になり、不足しやすいです。



授業について、日本では学生の実践の時間が多いですが、中国では先生の話を受け身で聞く時間が多いです。日本でほとんど大学生はスポーツに興味があるので、選択科目をとっていました。だから学生は基本的

な技能を自発的に学んでいます。

将来、中国の大学で一般体育教育は必修科目が減って、選択科目が増えると思います。学生は色々なスポーツのクラブで運動して、先生は指導します。私はその大学の教育方法と日本の一般体育教育の特徴を混ぜて、新しい教育方法を考えたいです。この教育方法で学生にスポーツや健康に関する科学的な知識をもっと勉強しやすくしたいです。

私は日本の大学で一般的な体育教育を経験したいです。そして、将来、この経験は私が働く大学の一般体育教育を改革する参考にしたいと考えています。

これで日本の体育教育の特長について発表をおわります。ありがとうございました。

[ディスカッションの抜粋]

1) 「体育」の授業について

RC : 日本で、大学で、ええと、スポーツ、しなければなりませんか？

RB : いいえ、選択科目。

NA : 選択で。あの、体育を、教育学部だけですよね、なんか教育学部の人は、絶対、体育という、体育のジャンルから2つですよ、最低でも2つ、取らなきゃだめ。

RC : 他の専門は、しなくてもいい？

NA : でも、工学部とかそういうの無いって聞いたんですよ。なんか、いろいろなグループがあって、運動、社会、なんかあって、科学ってグループがあって、科学グループから2つ、社会系の授業から2つ、体育から2つ。

RC : 授業ですか？

一同 : 授業、授業。

太田 : あの、RBさん発表のときに、体育科目を選択しないという人は3人いましたよね、体育は選択しませんと答えた人、アンケート取ったときに、インタビューしたときに。

RB : インタビュー、ああ、インタビューしたときね、ああ、いた、うん。

太田 : それは、どこの学部ですか？

RB : うーん、教育学部7人、工学部が4人、うん・・・

太田 : そ、それは、インタビューした人ですよ？で、答えた人、専門科目はとりませんと答えた人は、どこの学部の人？

RB : ああ、農学部と、と、工学部。

太田 : じゃあ、農学部と工学部は選択しなくてもいい、
かもしませんね。

オーストラリアのRCさんにとっては、先ず、「大学
で体育をしなければならないのか」が疑問であったよ
うだ。この疑問からディスカッションが始まり、岐阜
大学でも体育科目が選択の学部もあるということが
判明していった。

2) 各国の体育授業の状況

中国

RC : 大学で、みんな、スポーツしなければなりませ
ん？ 中国で。

RB : 中国、大学で、学生に、2年生と、1年生と2
年生、一般体育、しなければなりません。

NB : そ、それは選択できますか？

RB : 選択は、うーん、あとで。

NB : いろんなスポーツ、わたしはこれを、とか。

RB : ああ、それは、できない。

一同 : うーん。

RB : 例えば、うーん、毎日、学期は、スポーツ、4
つ、あるいは、1、1限目、2つスポーツ、し
ます。

NB : 1限目？

RB : うん、1限目、うん、1限目、中国の、全部で、
9、90分は、15分は、いろいろ準備します。い
ろいろ、スポーツの。30分、ひとつ、例えば、
バスケットボール、バトミントン、わたし、教
えて、あとで、体操、体操、例えば、跳び箱、
あとで、10分、身体、いろいろな、身体時間。

NB : ウェイト・トレーニング。

RB : 目的は、身体を、丈夫になります。最後に5分、
そかつ、総括する、します。

太田 : じゃあ、90分の中でいろいろやるんですね。

RB : 2つ、うーん、スポーツは、4週、試験、あと
で試験します。

太田 : 4週間後で、試験？

RB : 試験、うん。

太田 : じゃあ、その4週間は、ええと、90分の中で、
4週間は、いつもいつもバスケットボールだっ
たらバスケットボール、その次は跳び箱だった

ら跳び箱、いつもやりますか？

RB : うん、そう、4週間終わったら、今度、試験。

太田 : 試験が終わったら、違う？

RB : 違う、スポーツ。

太田 : ああ、そうですか、おもしろいですね。

RB : うん。



NB : 女の人も、男の人も一緒に？

RB : ううん、別々、中国の大学、選択科目、ありま
す。女の、女の人、1番選択科目はエアロビク
ス。

NA : エアロビクス。

RB : うんうんうん、人気があるってことですよね？

NA : じゃあ、RBさんも、エアロビを教えますか？

RB : うん。

NB : 教えますか？

RB : ああ、大学で、うん、教えるません。うん、仕
事、仕事あとで、あとで、うん。

NB : あとで。

RB : うん、クラブ、運動クラブで、わたし。

NB : 教える？ 踊る、踊りますか？

RB : 男、男の人。

NB : ああ、そっか。

日本

NB : わたしのときは、今とカリキュラムが違うかも
しれないけれど、テニスと、1学期、前期だっ
たら前期、全部テニス、毎週テニス、あと、な
んかなあ、フィットネスってやつが あって、
知ってますか？

NA : エアロビみたいなやつ？

NB : ううん、フィットネスってやつが あって、え

えっと、3回は、12回、だいたい12回、15回ぐらいあったのかな、その中の3回はフリスビー、フリスビー、3回は水泳、3回はなんかゴルフみたいなこともしたし、なんかいろいろそういうのがありました。

太田：試験はどういうのですか？

NB：試験は、なくて、先生が総合的に見て、見ました。

一同：ふーん。

NB：試験はなかった、先生が、いつも出席してるかってことと、あと、態度、がんばって積極的にやってるかってことで判断して、テストはなかったです。

RB：一般、一般体育科目、あとで、毎年、試験がありました。

NB：はあ、えっと、どうでしたか？

NA：えっと、わたしは、バトミントンと、ジョギング、をやりました。

NB：ああ、ジョギング。

NA：で、バトミントンは、試験はなくて、あの、15回、1学期の中に15回授業があって、初めは練習で、おわりの5回のほうで、あの、トーナメントで、試合をして、たくさん勝ったら成績もいい、負けたら成績も悪い。

RB：ほう。

NA：と、その試合の結果と出席、とか、たぶん授業の態度。ネットを片付けるのをがんばったとか、そういうのもあったし、でもジョギングは出席だけ、出席してれば、ちゃんと授業に出ればいい成績になりました、あはは。

太田：で、ずっとジョギングしてんですか。

NA：ひたすらジョギングです。

一同：ははは。

NA：その90分あって、初めにちょっとストレッチ、体操して、ずっと走って。

一同：ふふふ。

太田：でも、先生は、あの、例えば、さっき理論、理論のこととか言ってましたけど、ジョギングはどのように体にいいとか、フォームがよくなるとか、理論は？

NA：少しは、ありましたけど、景色を見ながら楽しんで走りましょって。

太田：どこ走ったの？

NA：ここの大学の周辺とか、この裏の。

RB：うん。

NA：なんか細い、なんか川の近くの細い道、をずうっと走って、楽しく走りましょって。

一同：へえ。

NA：で、もし、雨が降ったら、教室で、少し保健の話、タバコは身体に良くないとか。

一同：とか。

NA：アルコールは身体によくない、とか、の話があつて。

一同：うんうん。

NA：そのくらいです。で、教育学部だったら他に体育の授業が、たくさんあります。

NB：教育学部だったら、先生になって、小学生に、教えないとだめだからね。ありました。

NE：えっと、わたしは、あの、みんなはスポーツを2つとっていたんですけど、わたしはバレーボールをとって、あとは健康科学っていう保健の理論中心の、講義中心の授業を取りました。で、バレーボールは、最初からチームを組んで、チーム成績で、毎回チームは違うんですけど、勝ち点で成績が決まっていって。で、3回休んだら不可ということで、最初から先生と約束みたいな感じで決まってる、成績が出ました。で、健康科学は、毎回の小レポート、授業の終わりに感想とあと今回学んだことについて書いて、それを提出して先生がチェックするのと、あと最後の最終試験について論文みたいなのを。

RB：おっ。

NE：論述で、とてもいやでした。

一同：はははは。

NE：はい、でも、あの、すごい、タバコのこととか、性教育とか、あと知ってて絶対得をすることだったので、すごい興味をもって勉強できたと思います。

太田：うん、NDさんは、いかがですか？

ND：わたしも、NEさんと同じで、前期はテニスをとって、後期はその健康科学っていう授業をとりました。と、テニスは、うんと、わたしもどうやって成績つけたかよくわからないんですけど、わたし小学校中学校とテニスやっていて、まあ、一応得意なほうだったし、うんと、毎回その授業にも出たし、ちゃんとやってたつ

もりだったんですけど、C だったので、未だにちょっと謎ですね。

一同：あはははは。

NB：えええ！

ND：で、健康科学は NE さんと同じで、タバコの害とか、アルコールの害とかを知ることができてよかったです。うん。

NB：うん、わたしのとき、あの、わたしの下の時代からカリキュラムが変わったんですけど、わたしのときは、1、2 年生とらなかつたらだめだった。だから、全部で 4 つ、前期、後期、前期、後期って。

NA：ああ。

NB：だから 4 つとりました。でも今は 2 つ？

NA：なんか減って、減った、らしいですね、全体的にね。

一同：ふーん。

オーストラリア

RC：オーストラリアはぜんぜん違います。

RA：ミャンマーでもぜんぜん違います。

RC：大学で、スポーツの授業ぜんぜんない、ありません。大学で、えっと、スポーツの授業ぜんぜんない、ありません。たぶん、あの、えっと、専門は、スポーツの先生だけ。

NB：ああ。

RC：と、習います。だからスポーツしなければなりません。でもほかの専門はスポーツぜんぜんしない。だから、わたしは、ええと、ああ、高校の時でたくさんスポーツはした。でも、大学、ああ、行った？ 行ったとき。

RB：しない。

RC：しない。だから、だんだん悪くなってます。

RB：RC さん、コンテンツ？

RC：テコンドー。

RB：そう、テコンドー。

RC：高校るとき、テコンドーやりました。

RB：ああ、すごい。

一同：おお。

太田：それで、スポーツをしたい人はどうしますか？

RC：自分でします。スポーツクラブがある。うん、スポーツをしたい人は、そこ。

NB：そこに、入る。

RC：ああ、うん、入る。

NB：でも、授業をもし取りたいと思っても、クレジットはない？

RC：ない。

ミャンマー

NB：ミャンマーではどうですか。

キョ：ミャンマーでも、スポーツ、スポーツの授業だけ、ない、ありません。例えば、わたしたちは、今、物理を研究していても、うん、物理だけ、あります。スポーツの授業は、うん、もし、物理の学生がスポーツしたいので、スポーツクラブがあります。バレーボール、バスケットボール、サッカー、サッカークラブあります。でも、授業のほかに、スポーツします。でも、今では、スポーツの大学があります。スポーツをしたい人は、この大学に入ります。

各国の体育の授業の様子が全員から発表され、それぞれの国の違いに驚いたようであった。学生一同は上記のような各国の体育事情の比較ができる場にいることに、興味と楽しさを見いだしたようである。発表者とのコミュニケーションは、必ずしもスムーズにいったわけではないが、それぞれが話の内容を推察して話を補足しあったり、易しい語彙に言い直したり、ジェスチャーを用いるなどの工夫をしながら、コミュニケーションを図っていった。発言の口調も徐々に日常的な会話のスタイルが用いられるようになっていった。

3) どうして体育教師になったのか 教師としての RB さんの様子

NB：あの、どうして、大学の先生になったんですか？ 子どもにスポーツを教えるではなく、大学生に教える。どうして大学の体育の先生になったんですか？

RB：ふーん、これ、卒業とき、ときは、わたし自分でいろいろか、学校、小学校、大学で連絡します。

一同：うんうんうん。

RB：これ、その大学の教師が、体育教師がいいます。

NB：ああ、雇ってくれる。

RB：そう。

NA : 大学で何年間先生をしていますか？ いつから先生をしていましたか？
RB : わたし、ああ、8年。8年。
NA : 8年間。ずっと大学ですか？
RB : そう。
NA : これから、どっか小学校とかに、中学校とかに変わる予定はありますか？
RB : ない。
RA : 国へ帰ったら大学の先生を続けますか？
RB : そう、うん。
ダン : RBさんは、オリンピックいきたいですか？
RB : ははは、もちろん、いきたいです。でも、できない。
一同 : はははは。
NE : えっと、あの、大学の先生をやり始めたときと、この頃、あの今つい最近ぐらいまで教えられてたと思うんですけど、そのときと授業の仕方とか、やっぱり変わってききましたか？ 生徒の様子も、時間ていうか時代とともに変化してくると思うんですけど、カリキュラムの、授業の仕方とかは変えましたか？
RB : うーん、はじめ、たぶん、うーん。カリキュラム、うん、2年間、2年間に、新しい教師は2年間、じつ、じつけん。
NA : 実習、実習。
RB : はい、実習。1、2年間あけて、わたし、今講師です。下。あの。
NB : 教授。
RB : うーん、あとで教師になる。うーん。
NA : ああ、まだ教師じゃないってこと。講師。
RB : うん、講師。
太田 : でも、RBさんが、一番初め先生になったとき、どういうふうに教えましたか。で、今、日本に来る前は、変わりましたか、先生のやり方？
RB : うん。
太田 : 一番初めと、そのあと。ずうっと教師やりましたね、8年。あとでは変わりましたか？
RB : うん、変わりました。
太田 : では、はじめはどういう先生でしたか。厳しい先生？ 怖い先生？
RB : 親切な先生。
一同 : あははははは。
RB : 日本に来る前は。

NB : どんな先生？
太田 : もっと優しい？
一同 : ふいふいふ。
RB : 優しい先生。
一同 : ははははは、優しい？
RB : そう優しい先生。うーん、大学生は、若い。若い人。わたし、いつも、えー、一緒に、一緒に、教えて、教えてます。楽しい、とても、楽しいです。
一同 : ふーん。
RB : あの、ああ。楽しい、かなた、かなたに、てんてん丈夫、丈夫になる。
太田 : 身体が丈夫になる？
RB : うん、身体は、わたし、大好き。この、この。
NB : 仕事が？
RB : うん、この仕事が。大好き。
NB : ふーん。ときどき、生徒を怒りますか？
RB : おこる・・・。
NB : ときどき、生徒を怒るってゆうのは、注意したり、怒ったりしますか？
RB : ちゅ・・・
NA : 怒る、怒るってわかる？ こらーって。
NB : こらー。
NA : だめーって。
NB : RBさんはそうゆうのしますか、ときどき？
RB : ときどき。
NB : ふいふいふ。



太田 : 学生はなんていいますか。
RB : はい。
太田 : はいって。はい、わかりましたって？
NB : ごめんなさいって。

RB : ごめんなさい、うーん。はい。

NB : はい。

話題は、発表者がどうして体育の教師になったのか、どんな教師なのかに及んだ。話が進むにつれ、やはりここでも個人の背景に関心が及んできて、上述のような展開になっていった。時にコミュニケーションの難しさを覚えながら、それでも語彙を変え、ジェスチャーなどを交え、お互いに協力しあいながら何とか話を通じさせようと努めた。時には、ブレイクダウンに気付きながらも、発言者の意図を確かめるのを諦めて、聞き返しが中途半端に終わってしまったり、笑いで対応してごまかすケースも見られた。この部分にはその様子が特によく示されている。

[日本人学生の感想]

わたしは、今回のプレゼンで、国によって「体育」に対する考え方やあり方がまったく違うのだなあと素直に感じました。教育方針が違うので当然だと思うのですが、やはり秦さんの(中国体育教師)の「体育は身体を丈夫にします」という発言から特にそう感じました。日本の体育において、義務教育の小学校・中学校では「体育によって身体を丈夫にする」という考え方が基盤となっていると思いますが、高等学校・大学ではそうではありません。むしろスポーツによって得られる快感を尊重していると思います。わたしは高等学校ではスポーツやダンス、ハードルなどをやりましたが、そのときもやらされるというより自分でやりたいものやっていた記憶があります。

秦さんの今回のプレゼンは日本の体育について不思議に思ったことを始点として行ったものだと思いますが、話をお互いに深めていくうちに日本と中国、それに RC さんのオーストラリア、またはミャンマーの「体育」のあり方について驚いていたようです。秦さん自身、日本の大学の「体育」を見てまだあまり日がたっていないとは思いますが、中国で「体育」を教えていた彼には珍しいことがいっぱいあったと思います。日本の「体育」のよいところ、悪いところを、秦さんなりに捉えて、彼の「体育」に生かしてほしいです。(NE)

2.1.3. 発表3「宗教と信じていることについて」

ダン ニュンさん (オーストラリア)

[発表者のスクリプト]

こんにちばみなさん。私はダンといいます。シドニー工科大学の留学生です。

私のプロジェクトワークは宗教と信じていることについてです。私はこのことに興味があるので、このテーマについて調べたいです。インターネットで調べた結果と、私の毎日の観察から、若い日本人にとって宗教は大切ではないと思いました。この考えが正しいかどうか知りたいので、25人日本の大学生にいろいろな宗教について質問をしました。それからデータを分析しました。

では、結果について説明します。まず、「どんな宗教を信じていますか」についてですが、「仏教」と答えた人が12人、「ない」が7人、「仏教と神道の両方」が5人、「神道」が1人だけでした。ほとんどの人は生まれた家が、その宗教を信じていたので、その宗教に従うと言いました。しかし、インタビューした人はみんな宗教の場所へ行くのは一年に5回以下でした。正月とお盆の時だけ、お寺と神社へ行っています。

次に、「宗教はあなたにとって大切ですか」についてですが、「いいえ」と答えた人は11人、「分からない」が7人、「はい」が4人だけでした。この結果から、一般的に、ほとんどの日本の若い人は宗教に従っていますが、宗教は日本の若い人にとって大切ではないと言うことができます。だから、私の予想は正しいと思います。

しかし、日本の若い人はたくさん信じていることを守っています。たとえば、ほとんどの人は仏教と神道を信じていなくても、ごはんにはしを立てないし、大晦日にそばを食べるし、正月に神社へおまいりに行っています。「どうしてそのことを守りますか。」という質問についてですが、18人は「マナーと習慣なので」と言いました。7人だけ「宗教的な理由がある」と言いました。

このことから、一般的にほとんどの人は、そのことは伝統的な習慣とマナーで、宗教的な習慣ではないと思っていますということが出来ます。しかし、そのことは仏教と神道の慣習です。どうして若い人はそのことが伝統的な習慣とマナーと思うか知りたいです。また、私がインターネットで調べた結果、むかし、ほと

んどの日本人は仏教と神道を信じていましたが、今は特に、若い人は宗教を信じている人は少なくなりました。どうして若い人が宗教を信じなくなったかについて話したいです。

私の考えでは、まず、仏教と神道はきびしい慣習がありません。たとえば、キリスト教徒は毎週教会に行かなければなりません、仏教と神道とはお寺と神社に行かなくてもいいです。日本人は家庭で仏教と神道の習慣を教えます。だからそれが日本の伝統的な習慣になりました。

2番目に、その人が育った環境によります。もし親が宗教をとて信じていれば、その子供も宗教を信じます。その反対に、親が宗教を信じないと子供も信じません。それに、もし親は子供にその習慣を教えても、その習慣の理由を教えないので子供は知らないのだと思います。

3番目に、最近、若い人はたくさん楽しいことがあるので、若い人は宗教がとてつまらないと思っています。たとえば、お寺や神社に行ったとしても、かれらは祈らないで、観光のために行きます。



では、まとめに入ります。最近、若い日本人は宗教にはあまり興味がありません。宗教は若い日本人にとって大切ではありません。かれらは問題が起こったときだけ宗教を信じます。いつもは宗教を信じません。また、日本人は宗教の習慣と伝統的な習慣を区別しないので、今日本の若い人は宗教の教育がありません。だから、日本人は宗教を大切にしないし、敬意を払っていないと思います。たとえば、最近、日本人お寺へ行ったり、神社へ行ったりしています。それに、結婚式は教会でします。それから、葬式はお寺でします。私にとってこれはちょっと変です。私には、宗教

も伝統的な習慣も大切です。しかし、私は宗教の習慣と伝統的な習慣を区別しています。もし宗教を信じるなら、ひとつの宗教だけ信じたほうがいいです。もし宗教がまじったら、とてもややこしいと思います。しかし、宗教を信じなかったら、宗教の大切さや、道徳の気持ちを理解できないと思います。

これで、私の発表を終わります。ありがとうございました。

[ディスカッションの抜粋]

この項では、先ず、このディスカッションを録音したはずのテープに何も残されておらず、録画も初めの様子を写した後、早めに止めてしまったため不完全な形でしか残っていないというアクシデントがあり、ディスカッションのテープ起こしが充分なものではないことを断っておきたい。発表のテーマは「宗教」という日本人には苦手と思われる内容であったが、ディスカッション自体は大いに盛り上がり、かなりの時間を超過して話が進んだ。できるだけ不足分を補いながら、その場の様子を記していきたい。

1) 日本の宗教の状況

NA : RCはクリスチャンですか？

RC : クリスチャンです。

NA : 毎週教会にいきますか？

RC : クリスチャンの学校だったので毎週教会に行きました。

NB : クリスマスとかバレンタインというのは日本では宗教ではなくてパーティー、イベントです。これは宗教ではなくてその中身を全然知りません。ウエディングを教会でやるというひとも増えてきましたがそれは宗教ではなくてかっこいいからです。

RC : クリスチャンの厳しい人にはちょっと悪いと思います。

太田 : それは日本のクリスチャンもそう思っていると思います。

NA : 日本のおじいちゃんやおばあちゃんに仏教や神道を信じている人は自分の子供が教会で式を挙げることを嫌がるということはありません。

NB : でもドレスを着て教会で写真を撮りたいという気持ちはあります。でもそれは、結婚式 会社がわざわざ式を挙げるために建てた教会です。

アミューズメントパークのようなものです。

RC :でも厳しいクリスチャンは教会はアミューズメントパークじゃないと思います。

RC :神社とお寺の違いは何ですか？

NA :生まれたときから神社と寺があって私にはどちらもなくてはならないものです。死んだ人が行くのが寺で神社は神様というイメージがあります。

「宗教と信じていることについて」がテーマだったため、発表者がなぜそのようなテーマを選んだのか、発表者自身が特定の信仰を持っているからなのかという疑問を提示することからディスカッションが始まった。そして、日本の、「宗教」的雰囲気だけを利用した結婚式の様子などに話が及んでいった。しかし、発表者には、なぜ信じてもないキリスト教式の結婚式を挙げたり、クリスマスを楽しんだりするのか状況が理解できない様子であった。日本人学生は「アミューズメントパーク」という語を用いて日本の状況を伝えていたが、一神教の信仰者にとっては受け入れられない説明のようであった。

2) 迷信について

ここでも古くから言い伝えられた、「夜、爪を切っ
てはいけない」、「ご飯に箸を立ててはいけない」など
「してはいけないこと」がいろいろ出された。日本人
学生の多くも守っている迷信はあるようだが、それは
信じているからではなく、マナーとして、または、小
さいときからそう教えられているから自然にそうし
ているということのようであった。また、守らなけれ
ば気持ちが悪い言い伝えもある反面、納得できないも
のもあることなどが出された。

NB :枕を北にして寝たらだめだという所もあればい
いという所もあります。

太田 :中国はもっとドライでしょ？ 宗教を考えない
でしょ？

RB :私は全然信じません。

NB :お葬式はどうするのですか？

RB :家でやります。

NB :どういう風に？

RB :.....



この後の録画は途絶えているが、学生は苦勞しながら RB さんから中国の葬式の仕方を聞き出した。それによると、宗教的な儀式はせずに、家に近親者や友人が集まって弔うこと(その弔い方はどのように努力しても聞き出すことができなかった)、遺骨は近くにある遺骨を収納しておくような場所(宗教的な墓所ではないようだ)に入れておくのだということがわかった。「仏教は中国から伝来したもの」と習っている日本人学生には、この RB さんの発言はびっくりする内容だったようだ。

その後、ミャンマーの RA さんからミャンマーはとても仏教徒が多く、週に何回も(ある人は毎日)パゴダに行くこと、生まれた曜日が大切でその曜日の神様をお参りすること、何をしてもパゴダに行ってお祈りしたり、お坊さんに教えを請うことなどが話された。お坊さんがとても尊敬されていて、人々は毎日果物や食事、お金などを捧げに行くこと、男性の仏教信者は一生に一度出家することなども説明された。しかし、RA さんの妹さんは、仏教が嫌いでほとんどパゴダには行かない、若い人々の中には宗教離れも見られるということだった。また、RC さんも、大学に入ってから教会には行かなくなり、家で祈っているということが話された。

次いで、RC さんから、「日本の僧侶が妻帯していることはおかしい、変だ」という疑問が出された。「おかしい、変だ」ということは、「清くない、pure ではない」ということなのかなど確認のためのやりとりが行われたが、ベトナム系である RC さんにとっては、ベトナムの僧侶のように妻帯していないことが自然で当然の姿だと思っていたので、妻帯している日本の僧

侶はとても「違う」ということを感じての発言であったようだ。

太田：日本人の若い人にとってはイスラム教やキリスト教などを熱心に信じる信仰心の強い人をどう思いますか？

NB：イスラム教とかは習慣的に規制がかかるので一緒に遊ぶときに困るときがあると思います。一緒に行動する上で習慣とか大きく違わなかったら問題を感じないと思います。日本でイスラム教だったら学校に行けないと思います。おがまなければならぬから。日本人でモルモン教の人に会ったことがあったけどその人はカフェインとかお酒を飲むことが出来ませんでした。

太田：その人をどう思いますか？

NB：そうかあ、と。

太田：そうかあだけ？

NB：それほど宗教にこだわってないから。

NB：そこまでそういう人にあつたことないから。

ND：私としては正直な気持ちを言うとひとつの宗教をそんなに熱心に信じる事が出来るのは不思議です。いかがわしい、危険だというイメージが日本人にはあるから日本人には宗教に馴染みがないんだと思います。

NB：新興宗教です。

RC：宗教も新興宗教もどちらも悪くないと思います。

NB：日本には新興宗教がたくさんあります。

RC：カルトによります。危ないのは駄目だと思います。

NB：日本人にとって宗教がなじみないのは伝統宗教とカルトが混ざっているからだと思います。だから宗教と聞いただけで危ないと感じてしまいます。

RC：例えば白い服を着ていた人たちですか。それは危なくない。

NA：でも変だよな。

この後、日本のカルト、特に「オウム真理教」についての話題に及び、全員が「それは悪いカルトだ」ということで一致した。多くの学生が、RCさんに「宗教を信じるということはどういうことなのか」という質

問をしたが、RCさんの「神様は直接答えてくれるわけじゃないけど、心が気持ちよくなります」という答えで了解したようだった。その「心の安らぎ」については、RAさんも同じ気持ちを感じているということだった。日本人学生にとっては、久しぶりに「信仰、心の平安」などの一面を考える機会となったように感じた。「信じる」ということ、またその中身がどういうものか、など深めたいことはたくさんあったのだが、そこまでは議論が発展できなかった。この会話がテープに録音されていなかったことが惜まれる。

[日本人学生の感想]

国によって宗教の考え方が全然違うことが分かって驚きました。中国の人には宗教という考えがないことも始めて知りました。私は宗教というものを危険なものだと思っていて今でもその気持ちはありますが、このディスカッションをして少し考え方が変わりました。国によって、人によって宗教というものの考え方、とらえ方が違っているのだからその違いを認めなければならぬと思いました。宗教を信じるも信じないも人それぞれでどちらが正しいわけではないと思いました。自分の宗教に対する考えというものを真剣に考えたことがなかったのでいい経験になりました。(ND)

2.1.4. 考察

ディスカッションは3つともかなり時間を超過して活発に行なわれたが、幾つかの点で反省が残る。まず、司会者はなるべく質問をしないでおこうと決めていたのだが、話題につまったり、留学生の発言が聞き取れなかった場合は、つい口を挟む結果となってしまった。内容的にも、各自の体験を次々と順番に発表するような場面もあり、純粋にディスカッションと言えるものとはならなかったと感じている。また、文中でも言及したように、テープに録音されていないなど基本的な問題もあった。しかし、これらの反省点を省いても、このグループのディスカッションは初めてのものとしては、評価できるものだったといえるのではないかという印象を持っている。その理由などにも触れながら、このディスカッションから感じたことをまとめておきたい。

このディスカッションが、スムーズにいった理由として考えられるのは、1) 発表のテーマが3つとも参加者にとって身近な話題であり発言しやすかったこ

と、2) 発表者の日本語が初級クラスの学習者としては上手であったこと、3) 日本人学生の中に、外国で生活したことのある学生や日頃からよく留学生と交流している学生がおり、留学生の話し方になれていたこと、の3点である。

1) については、大学生の生活、体育の授業、宗教とどれをとっても、各自の体験をふまえながら発言できる内容であっただけでなく、全員が、不十分なものとはいえ、外国との「比較」という楽しさに惹かれ次々に質問しあっていったように感じた。学生たちはお互いに、それぞれの違いに驚き、また、同じ点を見出しは感嘆の声をあげた。「はあ、同じなんだ」「へえ、そうなんだ」などの短いことばに、その思いが表われている。しかし、どのようなレベルで「共通の理解」がなされたのかについては、疑問が残るところである。

また、全体的に、日本人学生の日本に対する捉え方は、どちらかというとな否定的であったといえる。それは、「大学の物理のレベル」や「語学学習」に関する話題、「日本の結婚式やクリスマスはイベント」などに代表される宗教心に関する話題により強く表われていた。その点、ミャンマーの RA さんなどは、実に堂々としていて、自信を持って国の教育や宗教を紹介していたのが印象に残る。もちろん、各自の発言は、それぞれが何をどのように把握しているかを反映しているわけで、限られた情報を鵜呑みにしたものである場合も多い。しかし、全体的に日本人学生の発言には、相対的位置を探りながら自国を否定的遠慮がちに紹介し、相手にその発言を否定してもらい、結果的には肯定できる面があることを伝えたいという日本人特有の話法が現れているように感じた。このような形での話し合いは初めてという学生が多かったが、このような場を数多く経験することによって、各国に対する関心、日本に対する見直しなどが訓練されていくのだということを、何人かの学生も感じてくれたようだ。

2) は、共通語が日本語であったため、今回は、留学生の日本語力に大いに助けられたといえる。時にはコミュニケーションがスムーズにいかなかったり、ブレイクダウンを起こしたり、お互いに会話の進展を諦めてしまったりという場面もあったが、日本人学生は留学生の日本語力に驚き、「留学生はすごい！」と感じたようだ。この感じ方は、留学生と初めて話したと

いう学生ほど大きく、かなりのショックを覚えたと伝えてくれた学生もいた。そのため、その場に馴染むにつれ、留学生の背景が気になり、個人的な質問が多くなった。時にテーマから離れそうになることもあったが、「相手の状況・背景を知ればより安心して話ができる」という日本人の場の作り方を実感することにもなった。

3) も、助けられた要素の一つであった。いわゆる留学生や外国人に慣れている学生は、留学生の日本語も比較的聞き取りやすく、自分自身の日本語もコントロールしながら話すことができていたといえる。また、このように異文化との接触がある学生は、様々なトピックに興味を持ち、日本のことも客観的に把握し、伝えているように感じた。この姿勢は発言の数にも如実に表われている。

しかし、文字化されたディスカッションの内容を読み返してみると、一部の人のみで話に熱中している場面も多く、留学生だけでなく、参加者全員に対する配慮という点では課題が残る展開となっている。反面、全体を通して、全員が「比較」ということの面白さ、楽しさを味わいながら、話すことができたのではないかという実感を持っている。もちろん、各国の複雑な事情などは抜きにしたままであり、多くは表面的な比較に過ぎないのだが、このような「比較」の面白さから、留学生と話すことに慣れていくことも一つの方法ではないかと感じている。



今回は、各ディスカッションの終わりにきちんとしたまとめをすることもできなかったし、また、何よりもこのディスカッションが、発表者にとって何らかのアドバイスを与え得たのかどうか不十分な点が多いが、このディスカッションの場を通して、誰よりも貴

重なる体験をしたのは、このディスカッションに参加した日本人学生であった。「留学するなら欧米」という固定観念を持っていた日本人学生の一人は、「アジアの国も知りたくなった」と記し、他の学生たちも「これから岐阜大学にいる留学生と積極的に話してみたい」「日本人同士でもこんなに違うということを知った」「自分の国について客観的に考えることができた」などの感想を持ってくれたことが、このディスカッションの最も大きな収穫ではなかったかと思う。私自身も、この「一つの実験」をもう一度吟味し直し、今後の活動に生かしていきたいと考えている。

2.2. 2グループ

教育学部国語教育講座 山田敏弘

2グループには、タンザニア、ミャンマー、オーストラリアからの留学生3名と、教育学部学生4名が参加した。各留学生の発表のあと、教育学部国語教育講座の山田が進行役となって討論をおこなった。

2.2.1. 「日本で役に立つ動物」

カサンガ クリストファー ジャコブさん
(タンザニア)

【学習者の発表スクリプト】

みなさん、こんにちは。私はカサンガです。タンザニアから、今年の4月に日本にきました。専門は獣医学の微生物です。指導教官はF先生です。

私の考えは家畜とペットが大切だと思います。テーマは日本で役に立つ動物です。日本の役に立つ家畜とペットを調べることが目的です。日本でどのくらい動物が大切かを知るためにこのテーマを選びました。

話す順序は、1. 一般的な動物、2. 日本の家畜とペット、3. 日本の役に立つ家畜とペット、4. 日本の家畜とペット以外の動物、5. 結論です。

では、調査の説明について、説明します。

私は全部で20人の岐阜大学の日本人の学生にインタビューしました。男の人が8人、女の人が12人でした。この学生の年齢は18才から28才まででした。

では、結果について話します。

「日本でどんな家畜がいるか」という質問についてですが、牛が一番多くて、17人で、全体の85%でした。にわとりと答えた人は16人で、全体の80%で、

豚と答えた人が15人で、全体の75%でした。ほかの家畜は、馬、羊、やぎ、うずら、うさぎでした。

グラフをどうぞご覧ください。

この家畜は食べるためだと答えた人は18人で、全体の90%ですが、家畜は経済のためだと答えた人は5人だけで、全体の25%でした。

タンザニアと日本を比較すると、タンザニアは、にわとりと牛が多いですが、豚が少ないです。習慣と宗教と経済的な理由から、豚が少ないです。タンザニアの習慣では、たくさんの人は豚を食べることができません。たとえば、習慣から、子供を産むまえに、女の人は豚肉を食べることができません。タンザニアにはイスラム教徒がいますから、豚がだんだん少なくなると思います。イスラムの人は豚肉を食べてはいけませんから。それに、タンザニアの気候はとても暑くて、ぶたが住めないと思います。

ある論文によると、タンザニアの家畜は食べるための全体の60%で、経済のための全体の40%でした。

「日本でどんなペットがいますか」という質問についてですが、犬が一番多くて、19人で、全体の95%でした。ネコと答えた人は18人、90%で、ハムスター、鳥と答えた人は12人で、全体の60%でした。グラフをどうぞご覧ください。

日本でペットを飼っているのは、かわいいからや、心をいやすから、家族みたいだからという理由でした。

タンザニアでは、ペットは犬が一番多いです。これは、みはりやハンティングのために飼っています。ですから、タンザニアで、生活のために、ペットが大切です。

日本に家畜とペットのほかに動物がたくさんいます。たとえば、動物園の動物や、野生動物です。この動物は観光などの経済活動と、興味のために、飼われています。

以上の結果から、日本で大切な家畜は食べるために飼っている動物だと思います。特に牛とにわとりと豚が大切だと思います。

一番大切なペットは犬とネコで、このふたつは家族みたいに飼っている動物でした。ネコはさびしくなくなるための動物だと分かりました。

では、まとめにはいります。私の考えでは家畜とペットは生活に大切なので、日本にいなければならない

と思います。今回のインタビューは岐阜大学の 20 人の学生だけにかぎられているので、この調査をもっと多くの人にもう一度したいと思います。

以上で私の発表を終わります。ありがとうございました。

[ディスカッションの抜粋]

1) 内容について不明な点の質問「経済のため」

発表中にあった、「ある家畜が経済のためである」「経済のための家畜」という文言の意味をめぐって質問があった。

NF : 具体的に一つの経済とは何かということをお教えしてほしいです。

山田 : あのう、経済という言葉、経済活動のためだ、家畜が経済活動のためだという人が 5 人いました。そうですね？ その 5 人の人は家畜を食べるため、これは経済のためとは考えていないのですね。じゃあ、他に食べる以外で、経済活動というのは、観光のためとか、そういうことですか？

RD : はい、あのこの経済は、あの例えば、この人は、この動物は、ええと、他のお金をもらいました。でもこの動物は、飼います。この動物はお金のために飼います。経済は、食べるためには、この動物からたべものが、例えば、鶏、でもいつも鶏を食べるわけではありません。

日本語での「経済」が、「食用」以外の目的のどこまでを指すのか、ややわかりにくい面もあり、少し長く質問のやりとりが続いた。ほかに「毛や卵を売ること」や「その家畜自体を売ること」などの例があれば「経済」ということばはもう少しわかりやすいものであったかもしれない。

2) 「ペット」ということばについて

続いて「ペット」ということばの指す範囲が問題となった。

発表者の説明ではハンティングをするときの犬もペットに含まれるが、日本語として共通に理解されるペットは「愛玩動物」であり、働かせるための動物ではない。名詞によって表される概念の範囲の相違が、

理解の齟齬を生んだ 1 例である。

山田 : まあ、日本ではハンティングに犬を連れて行く人は非常に限られた人、少ない人、だと思います。だけど、その、番犬、見張りのための犬というのは見張りのためだけではないですが、ね、話し掛けたり、家族の一員として、あの一、可愛がることをしますが、あの一、RF さん、ペットという言葉は、これは、番犬とか、ハンティングのための犬とか、これも、ペットですか？

RF : ペットじゃない。

山田 : ペットじゃない？

RF : ペットじゃない。では、ペットと云ったら、どういう、あの、ペットという言葉はね、どういう動物を指すときに使うのですか？ 日本語では、少し広い意味で使っているようです。英語のペットというのは、やはり、ハンティングのために連れていくのは、ペットとは言えません。



山田 : ハンティングの時の犬は違うのですかね？ 仕事していますからね。ペットというともっと可愛い？

皆 : うん、うん。

RD : タンザニアでは、犬は見張りだから、ペットじゃない。この、犬と猫は多分ハンティングと見張りあります。

山田 : あの一、ペットという言葉が、犬は全部ペットですとすると、例えば、警察にも沢山犬がいます。泥棒が入ったときに、助ける犬がいます。警察犬という犬がいます。警察犬は警察のペッ

トですか？

皆：(笑)違います。

キーワードは意図する範囲をより正確に切り取るものでなければならない。

3) どのような家畜やペットを飼うか

イスラム圏では豚肉を食べないことなど、宗教上の禁忌について話し合われ、続いて日本で最近ペットとして買われるようになった爬虫類等についての話になった。

文化によって「ペット」が指す範囲がさらに異なることが実感できた。

4) 食肉文化について

タンザニアではキリンの肉を食べることがあるが、それは野生のものではなく家畜のキリンの肉であることなどが、日本人学生の関心をひいた。

ここがもっともいろいろな学生によって話し合われた部分であった。



山田：蛇を飼う日本人をどう思いましたか？

RD：家の中?? タンザニアで、蛇はいつも危ない。

RE：でも、タンザニアで、キリンの肉食べるでしょ!?

山田：キリンの肉ですか!?

RD：はい、

山田：食べたことありますか？

RD：はい。

山田：おいしいですか？

RD：はい、おいしい。

皆驚き

RD：この肉は、おいしい。一番高い。

皆：へえ。

RD：大切な人がきます。そのとき食べます。

山田：驚きましたね。そうですか。じゃあ、いつかね、皆でキリンの肉を食べにタンザニアに。

RD：キリンは野生動物。でも、いつも、高い。家畜のキリン、タンザニアの政府はいつも、だめと言う。キリンはいつも大切なもの。

【日本人学生の感想】

日本では、ペット、家族として、動物が生活の中にはいりこんでいるけれども、タンザニアでは、生活を供にするもの、ハンティング、見張り、番人として、いなくてはならないもの、というように、動物に対する考え方が違うところがある。食文化も色々であるが、特に、キリンを食べることに驚いた。(NG)

2.2.2. 「大学の経験」

ウィン ティダーさん(ミャンマー)

【学習者の発表スクリプト】

みなさんこんにちは！ 私はミャンマー人でウィンティダーといいます。教育学部の物理教育の研究生です。私はミャンマーで大学の教師をしていました。ですから学生に興味があります。日本人大学生は将来の仕事はどうやって選ぶかについてと、大学生の経験をどうやって使うかについて知りたいですから、このことについて調べたいと思いました。それに大学を卒業した人が大学生での経験をどうやって使っているかを知りたいですから、大学を卒業した人にインタビューをしました。

インタビューは18人の大学4年生と、15人の卒業した人に答えてもらいました。みんな日本人でした。

大学生にインタビューした質問は、

- 1) 学生の生活で何が大切ですか。大学生の経験は将来の仕事に役に立つと思いますか。
- 2) 卒業したらどんな仕事をしたいですか。
- 3) 将来したい仕事は専門と関係がありますか、の3つでした。

インタビューした大学4年生は教育学部の学生が8人、工学部の学生が4人、農学部の学生が5人、地域科学部の学生が1人でした。

では、まず大学生の結果について説明します。

質問1についてですが、大学生の生活で試験が大切だと答えた人が4人、専門がよく分かることが大切だと答えた人は6人、活動も専門も大切だと答えた人は4人でした。他に、友達と遊ぶことも大切だという答えもありました。

この答えから日本人の学生は試験だけでなく、いろいろなことに興味を持っていることが分かりました。

質問2についてですが、大学生の経験は将来の仕事に役に立つと思うと答えた人は14人、あまり思わないと答えた人は4人でした。

質問3についてですが、教育学部の学生で教師になりたいと答えた人は6人で75%でした。他の学部の学生は専門と関係がある仕事をしたいと答えた人が8人で80%でした。まだ決めていないと答えた人が4人でした。

質問2と3の答えから、ほとんどの学生が将来専門と関係がある仕事をしたいことが分かりました。

私は専門に関係がない仕事でも、大学生の生活は色々な仕事に役に立つと思います。たとえば、考え方や色々な人とのコミュニケーションのしかたや将来生きていく上でとても貴重な経験になると思います。

それにだいたい日本人の大学生は4年生になったら、将来したい仕事を見つけることができると分かりました。



ミャンマー人の大学生と日本人の大学生は大部分同じです。でも約半分の日本人学生は、自分で学費を払っているということが分かりました。ミャンマー人大学生はだいたい学費を両親からもらいます。このことから、日本人の大学生はミャンマー人の大学生より

自分で自分の人生を生きていくことができると思います。

次に、大学を卒業した人についての結果を説明します。

卒業した人にインタビューした質問は、

- 1) 学生の生活からどんな財産ができましたか。
- 2) 大学生の経験と専門の知識は今の生活に役に立ちますか。
- 3) 大学生のときのしたいと思った仕事は今の仕事と同じですか。

の3つでした。

インタビューした人は岐阜大学の教師が7人、岐阜大学の公務員が8人でした。

質問1についてですが、大学生の生活から、色々な財産ができたことが分かります。たとえば、友達や考え方や専門の知識という財産ができたことと答えました。

大学生のときできた友達は、今までとても大切な友達で、今の生活で問題があったら話していいアドバイスをもらうことができると答えました。そして専門の問題の考え方から、今の仕事に色々な問題があったらその問題はとても役に立つという答えもありました。

質問2についてですが、ほとんどの人が専門と大学生の生活は今の生活に役に立っていると答えました。専門と今の仕事は同じじゃなくても、仕事に何か関係があるとき役に立つと答えてくれました。

質問3についてですが、一年生、二年生のとき将来したい仕事がまだ決められませんでした。4年生になったら決められるとほとんどの人が答えました。

大学の教師は、みんなが大学生のときしたいと思った仕事は今の仕事と同じだと答えました。でも大学の公務員はみんながちょっと違うと答えました。同じじゃなくても今の仕事は本当に面白くて楽しいと答えました。

ですから大学生の経験はだいたい役に立つということが分かりました。

ではまとめにはいりません。大学生の経験と専門の知識は今の生活に関係があるとき、よく使うことができると思います。ほとんどの人が自分の能力と大学生の経験をいっしょに使って人生に満足しているということが分かりました。

インタビューしたとき大学院生たちは自分の専門をよく分かるように一生懸命がんばっていると答えました。ですから、その学生たちは大学生の経験と自

分の能力をいっしょに使って成功する人生を送ることができると思います。

これで私の発表を終わります。ありがとうございました。

[ディスカッションの抜粋]

1) 日本の学生の学費はだれが払うか

最初に発表内容にあった「日本人学生は学費を自分で出している」という点について質問があった。

NF : 日本の学生が学費を自分で払っている、というようなことを言われたと思うんですけど、で、ミャンマーの学生は親から出してもらっている。日本の学生はたいてい自分で出していないと思うんですけど。

RE : はい。

NF : と、その調査はどこでされたのかなと。

RE : えー、日本人では学費を自分で使って、自分で出して、うん。えー、私、インタビューした時、この学費を誰が誰にもらいましたかと、えーと、質問した時、えっと、うーん、ほとんど、うーん、ほとんどの学生は、ほとんどじゃない、えっと、まあまあ、ん、半分？ 半分ぐらいの学生が、えー、この学費を自分で出すと答えた、答えましたから。でもミャンマーで、ほとんどの学生が聞きましたら・・・私も。

山田 : REさんがさっき言ったのは、日本人の学生の約半分以上が自分で学費を払っている。

RE : はい

山田 : ということが分かったと言いました。みなさんはそうですか。自分は？

皆 : (笑)

山田 : 自分で払ってますか？ 両親？

RE : 両親が払ってます。

山田 : ハハハ(笑)

RF : 私も両親。

2) アルバイトについて

学生の方からアルバイトについてはいくつか質問が出た。質問が表面的なレベルで終わってしまい、ここでは発展していかなかったが、4)でアルバイトの話がさかんに話し合われた。

NH : ミャンマーの学生も日本人の学生と同じようにアルバイトをしないんですか？

RE : ミャンマーでアルバイト？ 少し学生は。うん。しない。

NG : アルバイトの種類は、日本の学生だったら、飲食店とかレストランとかそういうところが多いんですけど。その、どういうところでアルバイトをしているんですか？ミャンマーの学生は、どのような所でアルバイトをするんですか？ 全くしない、全然しないんですか。

RE : はい。でも、ミャンマーの... (不明:「学費」か)は日本より安いですから。しなくてもいいと思います。

3) ミャンマーの大学進学率

続いてミャンマーの大学進学率についての質問があった。

NI : ミャンマーの人で、大学に通う人は多いですか？

RE : かよう？

NI : 大学に入る人は、あの一、ミャンマーの人は多いのですか。

RE : あー、はい、多いです。

NI : ほとんどの人が大学に行かれる。

RE : はい、ほとんど、うん。



ここは大学進学のシステムが違うということが十分に理解されていなかったせいもあって、当初、ミャンマーの大学進学率のほうが日本よりも高いと理解した日本人学生が多かった。(以下の [学生の感想]

も参照のこと。)

4) ふたたびアルバイトの話

ここでは、特に学習者どうしの会話もいくつかあった。

RD : RE さん。あの、日本でたくさんの学生がアルバイトをしながら勉強している。

RE : はい。

RD : でも、この、あのー、このシステムは。RE さんの考えはどうですか？

RE : 私の？ 考え？

RD : RE さんの考えはどうですか？

RE : うーん。私にとって、アルバイトをしながら勉強したのは、ちょっと大変だと思います。でも、私、この、これを……。自分で、将来、自分で自分の人生をつくる時、とても役に立つと思います。いつも両親からお金をもらった人は将来の仕事を、決める時ちょっと大変だと思います。

5) 大学での勉強を仕事にどう活かすか

日本人学生の質問を受ける形で発表者から発展的な質問が出た。

NI : はい。卒業した人に聞いたアンケートで、あの、自分が大学の時になりたかった仕事と今ついている仕事でいたい同じ、というか、たぶん、大学の先生方に聞いたので、そういう意見が多かったかもしれないですけど。一般の企業に勤めている大人の人に、たぶん同じ質問をすると、自分がなりたかった仕事とは違った職業に就いている人が、日本では多いと思うんですけど。ミャンマーではどうですか？

RE : うん。ミャンマーも同じ。えーと。私は、えー、物理学で卒業した。でも、今、物理学の教師で、国で、この、その人はとても少ないです。専門は物理学でも、物理学部の教師の先生はとても少ない。だから、他にもある仕事に。日本も同じだと思います。でも、物理学に関係ある仕事はたくさんありますから、教師だけじゃなくて。みんな、専門に関係がある仕事と関係ない仕事は何が違うと思いますか？

これをきっかけに議論が活性化されたらよかったが、残念ながら質問の意図が十分に伝わらなかったようである。

また、大学での学問を仕事に活かす話で、「成功する」ことのとらえ方をめぐっては答え方が難しい面もあったが、さまざまな意見が出た。

RE : でも、えー、専門と関係がある仕事と関係が無い仕事はどちらが、えー、成功？ 成功すると思いますか。成功する・・・先生。

山田 : あの、えっと、うまくいくということですか。成功するっていうのは、あの、うまく、とてもよく、えー、いくということですか？

RE : うーん。はい。えー、success、successful。

山田 : うん。Successful。

RE : Which one is more successful?

英語が使われたのは、非常に少なく、この successful のところと、いくつかの単語に限られていた。ただし、「大学に行ったからといって、必ずしも人生が成功するとは言えない」という意味の表現が難しかったようで、この部分だけは英語で表現しようとしていた。

最後は進行役がまとめてしまった。



[日本人学生の感想]

ディスカッションの内容としては、大学卒業後の進路のことが話題になっていたため、私も考えることが多かったです。私は卒業後に進む道がそのまま一生を決めてしまうものではなくて、人生を変えていくこと

はできると思います。しかし、私はまだ明確な目標を持っていないので、自分の将来に向けて、一体どうしたらよいのだろうかと考えています。自分がやりたいことは“これだ”と思えるものを早く見つけたいと思っているのですが、このいい加減なままで大人になってしまうのではないかと不安もあります。働いている人の中には、自分が本当にやりたいことではない職業についている人もいます。私のこれまでの人生を振り返ってみると、選択を間違えてしまったと思うことが多々あります。しかし最後には満足いく生き方を選ぶことができれば最高だと思います。REさんの言ったサクセスフルな人生というのは一体どんな人生なのだろうかと考えてみました。お金持ちになるとか金銭的なことばかりではないと思います。他人が見れば“なんだこんな人生”というような人生でも幸せだと感じている人はいるでしょう。人生の満足度には本当に価値観の違いが現れると思います。どんな生き方がいいのか正解はありません。このテーマでもっといろいろな人の意見を聞くことができれば面白かったらいいと思います。(NH)

2.2.3. 「日本の環境保護」

ジョリーン チューさん(オーストラリア)

【学習者の発表スクリプト】

こんにちは。わたしはジョリーンです。オーストラリアのシドニーから来ました。シドニー工科大学の留学生で専門は法律と日本語です。どうぞよろしくお願ひします。

今日わたしは日本の環境保護について発表します。日本の環境に興味がありますのでこのテーマを選びました。日本では環境保護が大切になっているので、若い人が日本の環境保護についてどう思っているのかと環境保護のためにできると思うことは何か調べたいと思いました。日本人と外国人の環境保護に対する意識は違うと思うので、日本人と留学生にアンケートをしました。それで日本の意見と外国人の意見を比べました。

発表の順序ですが、まず日本人が環境保護の意見について説明します。次、留学生が環境保護の意見について説明します。それから日本人と留学生の違いを説明します。

方法ですが岐阜大学の学生と色々な国からの学生

にインタビューしました。日本人の男性 10 人と女性 10 人にインタビューしました。外国人の男性 5 人と女性 5 人にインタビューしました。いろいろな環境保護についての質問を聞きに行って来ました。違う意見を聞きたいので、色々な学部の学生に質問してみました。そして情報を集めて分析しました。

では結果について説明します。

まず「日本の環境問題の中で一番の問題は何だと思いますか」についてですが「水質汚染と森林破壊」と答えた人が 6 人ずつで一番多かったです。「大気汚染」と答えた人は 5 人でした。ほかの答えは騒音公害や地球温暖化などでした。

質問 2 の「環境のためにあなたが実際にしていることは何ですか」についてですが、ほとんどの学生は「ゴミの分別をしている」と答えました。ほかに行っていることは節水や節電やあまり車に乗らないようにすることです。一番実際にしていることはリサイクルのためにゴミを分別することだろうと思ったので、「岐阜大学でリサイクルしていることについてどう思いますか」とインタビューした人に聞きました。「よい」と答えた人が多かったです。いいと答えた人はほとんどの人が家でリサイクルしていましたが、リサイクルすることは自治体が決めていますので、その人たちはリサイクルのルールがなければ、ゴミを分別するかどうか分からないと思います。さらに岐阜大学では紙の回収をしていないので、たくさんのゴミが燃やされています。これは空気に悪いと思います。おまけにゴミを分別しているのに、最後には全部いっしょに燃やされているらしいです。この情報は学生に知られていないと思います。

「日本の環境の法律についてどう思いますか」についてですが「もっとよくできる」と答えた人は半分以上でした。「法律を知らない」と答えた人は、約 20% でした。「もっとよくできる」と答えた人は環境の法律についてあまり知らないかもしれませんが、一般的に法律はよくできているようです。ほとんど環境にかんする法律の情報は、ニュースと新聞から得られますが、まだその情報が少なく、足りないと思います。また若い人はニュースと新聞にあまり注目していないかもしれません。もし、テレビで有名な人が環境保護のキャンペーンをしたら環境保護の関心が高くなるかもしれないと思います。

つぎの「あなたにとって環境保護がどのくらい大切

ですか」についてですが、ほとんどの学生は「とても大切」か「大切」と答えました。この結果は予想したとおりでした。そこで「どうして環境を守らなければならないと思いますか」とインタビューした人に聞きました。みんな「人間が生きるため」と答えました。ほかの答えは「自然を残すため」や「未来に残すため」などがありました。

環境保護は人間が生きるために大切なので、自然環境をまもらなければならないと思っているのに「環境保護のためのデモがあったら、参加しますか」聞いたら、ちゅうちょすると答えた人が多かったです。「デモに参加しない」と答えた人が約半分以上でした。半分以下は「たぶん参加する」と答えました。その理由は「被害がありそうな場合やひまな場合だけ参加する」と答えました。

デモについてですが、日本人にとってはアピールがあまりないかもしれません。たとえばテレビで外国のデモを見ると、こわそうだと思ったり危なそうだと思ったりするからだと思います。一般的に外国人より日本人は内気で控え目だからデモが参加するのをためらっているようです。

さらに「デモは効果があると思いますか」についてですが、ほとんどのインタビューした人は「効果はあるが、少ない」と答えました。2人は「大規模なら効果があると思う」と答えました。



デモは効果が少ないという答えが多かったですから「デモのほかに何が効果があると思いますか」と学生に聞きました。いろいろな答えがありました。たとえば環境についての教育を充実させるとか、一人一人の努力とか、シンポジウムなどでした。私は環境保護の関心を高めるために、教育とメディアが一番よい方

法だと思います。小学校から環境保護の教育を続けることも大切だと思います。さらに日本の政府は環境保護を奨励するべきだと思います。

以上から、日本人の学生は環境保護は大切だと思っ
ていても、活動に消極的だということが分かりまし
た。

最後の質問「10年後日本の環境はどうなると思いま
すか」についてですが、ほとんどの学生は「悪くなる」
と答えました。約20%の人は「あまり変わらない」と
答えました。しかし、インタビューした外国人に同じ
質問をしたら、ほとんどの人は「よくなる」と答えま
した。この情報から外国人と日本人の考えが違うこと
がわかりました。

ではまとめます。このテーマはとても面白いと思
いました。岐阜大学の日本人学生と留学生にしたインタ
ビューやアンケートから、たくさん環境保護について
教えてもらいました。若い日本人は環境保護が大切だ
とっていて、日本の環境が悪くなると自覚していま
すが、活動に消極的だということが分かりました。し
かし岐阜に大きい環境問題があったら環境保護に積
極的になると思います。

これで、日本の環境保護についての発表をおわりま
す。ご清聴、ありがとうございました。ご意見や、コ
メントなど、よろしくおねがいいたします。

[ディスカッションの抜粋]

1) ゴミの分別後の処理のされ方

日本人学生から内容に関して、まず質問がでた。

山田：何かはじめに質問はありますか？

NF：“ゴミを分別しているのに最後には全部一緒に
燃やされているらしい”ということは、初めて
聞いたんですけど、どこから得た情報ですか？

RF：みんな、学生は知らないと思う。私の指導教官
のK先生が教えてくれました。はじめ聞いた
時は、わたしもびっくりしたけど、分別しても
一緒になってしまう。

これはよく知られている出来事である。ただし、実
際にはこの情報は古い面もあり、また種類によっては
回収されたものが輸出されたりして、国内の需要に追
いついていないことも報道されている。日本人学生も

留学生も、事実についてもう少し知っておくべき箇所かもしれない。

2) オーストラリアのデモについて

オーストラリアではデモがあるかという発表者からの問いかけを端緒に、やりとりがあったが、話題としてあまり発展していかなかった。

RF : もし、デモがあったら、みなさん参加しますか？

NI : RF さんが発表で言ったように、確かに怖いイメージもあるし、その日が暇で、誰かに誘われたら、行ってみようかな、と思うかもしれないけど、正直自分から進んでは参加しないとと思う。

NF : デモをやって、本当に効果があると思えないから、参加しないのでは？

NI : オーストラリアでは、ほとんどの人が参加しますか？

RF : んー・・・と思う。

NI : 町の中心でデモは行われているのですか？

RF : ...？

山田 : オーストラリアにはいろんな町がありますよね。その町の真ん中に、広場があって、そこでデモを行うのですか？

RF : デモじゃなくても、環境保護のためのコンサートやイベントが行われます。

デモをやってでも参加しない理由が追及されることはなかった。また、デモが行われる場所についても、そのことをきっかけにして、「町の中心で行われるからこそ、人が集まりやすい」などの話へと発展することも期待された。

3) 国としての環境政策について

このような留学生の発表は、留学生が日本のことについて調べたことを発表するだけになりがちであるので、留学生自身の国のことについても質問してみた。

山田 : 日本にも法律があります。例えばペットボトルなどに“リサイクルしましょう”と貼らなければなりません。だからみんな集めています。でも、海外から木を切って持って来て新しく紙を

作った方が安い。リサイクルの紙は高いですから、海外から木を持って来る。これを経済活動と言います。オーストラリアでは、海外から木を切って持って来ることを、制限していますか？

RF : ちょっと分かりません。

山田 : 安いものを作らないと、海外の商品に負けてしまう。安い紙を作らないと、中国の紙の方が売れてしまう。結局は経済が大切。経済が1番大切と考える人が多いんですよ。だから環境のためには、経済とのバランスをとらなければいけないですね。オーストラリアでは、その点どのようにがんばっているのか教えてほしいです。

RF : 日本に来てから環境に興味を持ったので、帰ったらもっと調べたいです。

他について調べると同時に自身について調べることが大切なのは、どこでも同じであろう。

4) 学校教育における環境問題

教育学部であるから、少し学校教育と環境問題を結びつけて進行役の方から問いかけてみた。

山田 : 我々が全く考えていないかというと、そうではない。調べた結果からも分かるように、教育を通して環境について考えよう、という日本人は多かったですよ。そのことについてどう思いますか？

RF : 高校生に聞いたら、高校の授業で環境についての授業はない、ということだった。小学校、中学校はあるのに、どんどんなくなっていく。高校は選択できる授業もある。

山田 : どうして大きくなるに連れて、なくなっていくと思いますか？

NG : たぶん、大学入試に関係ないからかな。

(中略)

NI : 私の知り合いの人が高校生の時に、その高校だけかもしれないけど、落ちていた空き缶を拾って集めて、何本かで1本のジュースと交換できるということを行ったら、普段ゴミを捨てているような子達が、積極的に拾っていたと聞きました。おかしいことだけど、やっぱりメリットがないと、人はなかなかやらないのかもしれない

い。

この話題については議論が盛り上がったが、ただ、やはり日本人学生が日本のリサイクルのしくみについてもっと知る必要がある。

NG : ホームレスの方って、空き缶集めてお金を稼いでいるんですね。

山田 : 確か、何キロで、100円とか・・・、こんなにいっぱい集めて100円とかですよ。

国際交流で問いかけるのは、自国のもろもろのできごとである。表面的に外国語ができることだけでは伝えられないことが多い。

5) 10年後の自国について

日本人学生から発表内容に関して質問があり、さまざまな人の考えを知る機会を得た。

NI : RFさんの発表の中で、10年後の環境について、日本人は悪くなると答える人が多くて、留学生の方はよくなると答えた方が多かったのは、とても興味深いです。わたしも“悪くなる”と答えてしまう。それは、あまり努力していないからだと思うんですが、みなさん留学生の方は、何かいいことをしていますか？なぜ、よくなると思うのですか？



RF : それは、考え方の違いかな。私達はいつも optimistic で将来をよく考える。日本人はそうじゃない。後ろを見る。

山田 : みなさん環境よくなると思いませんか。RFさん思

いますか？

RF : 思います。

山田 : REさんはどうですか？

RE : そう思います。

山田 : RDさんはどうですか？

RD : はい、よくなると思います。

山田 : それは、よくなってほしいのか、本当によくなると思うのかちょっと違うと思うけど、本当によくなると思うのかな？

RF : んー、先生は？

希望と現実を混同していないかと問いかけたが、斬り返されてしまった。

[日本人学生の感想]

私は普段、ディベートをする機会があまりないので、新鮮でした。ディベートというより、質問会になってしまった感じがしましたが、その時与えられたテーマに沿って、自分の頭の中であれこれ考えることに意義があったと思います。

私は特に、10年後の環境について日本人が悪くなると考え、留学生がよくなると答えている、その違いがとても興味深かったです。留学生の方が、はっきりとした良い方法がわからなくても、環境はよくなると前向きに考えていたので、やはり国民性の違いというものがあるのだと思いました。日本人のなかでも、もちろん考え方はそれぞれだと思うので、自分以外の人の意見を聞くことができ、再び自分の中で考え直すこともできてよかったです。普通のペースで話す聞き取りにくいようだったので、ゆっくりはっきり話すように心がけました。留学生の方と話をすることができて、とても楽しい授業でした。(NI)

2.2.4 考察

2.1.4と同様、日本人学生と留学生だけの会話では実際には間もたなかった。結果として進行役の発言が多くなってしまったことが、ディスカッションの SCRIPT を見るとよくわかる。この点は反省すべき点かもしれない。

しかし、進行役が黙っていればその分、日本人学生の発言が多くなったかということ、必ずしもそうとは言えないであろう。日本人学生が会話を続けるということがどのようなことであるかをきちんと認識し、質問

に対してどのように発展するかという談話のパターンをもっていなければ、今回のディスカッションから進行役の発言だけが空白になったものが生まれるにすぎない。

また、今回、発表者がどのような発表をするか、事前に題名のみが知らされていた。余計な先入観をもたないで参加できる点でメリットはあったが、事前に内容が知らされていれば、たとえばリサイクルについて、日本では、またこの岐阜大学の中ではどのような現状であるのかなど、調べておくことができ、結果的に話題が発展した可能性もある。情報に関しても「無い袖は振れぬ」ということが言えるのであれば、討論できるだけの基礎知識を持っておくことも、やはり言語運用能力とは別のところで考えられるべきことであろう。

留学生については、やはり1つのことばですませてしまうのではなく、複数の表現ができることの重要性を認識してもらいたい。「経済」について問題になった場合に、「経済」という語句だけを何度繰り返されても堂々巡りになってしまう。それは単に 'economy' の訳語でしかない。ほかの日本語ではどのように説明されるかも考えておくといよいのではなからうか。

2.3. 3グループ

留学生センター 宮谷敦美

3グループは、Aクラスから、オーストラリア、シリア、中国、ミャンマーの4人の留学生と、教育学部の日本人学生5名、教育学部に在籍する留学生2名(台湾人、発表1、2のみ、ミャンマー人、発表4のみ)がディスカッションに参加した。進行役は留学生センター宮谷が担当した。

2.3.1. 発表1「日本の温泉」

キティ フーさん(オーストラリア)

【発表スクリプト】

みなさん、こんにちは。私はオーストラリアから来た留学生でキティといいます。いろいろな発表を聞いて、どう思いますが。面白いですか。私は今から日本の温泉についてプレゼンテーションをします。どうぞ、よろしくをお願いします。

温泉という所は日本でとても人気があります。テレ

ビとか雑誌とか旅行会社でたくさん紹介しているのをよく見たことがありますから、私もとても行きたかったです。

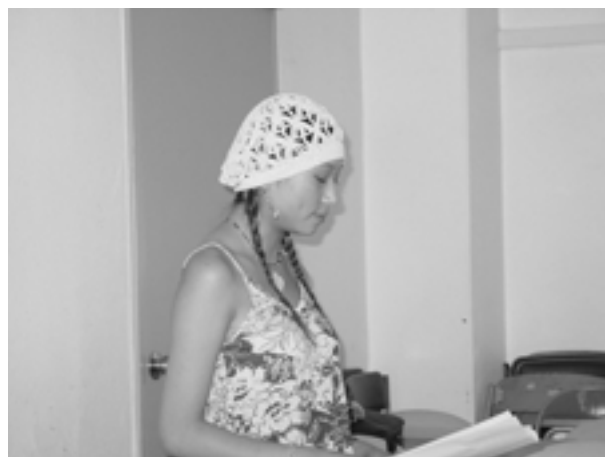
3か月前、私は下呂にいて、温泉にはじめて入りました。その時色々な疑問を感じました。ですから、温泉と日本の文化を理解するためにこのテーマを選びました。

私が日本で知り合った友達はほとんど大学生なので、調査の対象は若い人にとって温泉はどんなところかということに限定します。

調査の方法は大学でアンケートをしました。10人の男の学生と10人の女の学生に聞きました。

聞いた質問は以下の6つです、ご覧下さい。

- ・あなたは温泉が好きですか。
- ・温泉は何のために行くところですか。
- ・温泉の中でしてはいけないことがありますか、しなければならぬことがありますか。
- ・温泉に知らない人と入る場合と、知っている人と一緒に入る場合では感じが違いますか。
- ・水は清潔かどうかについて心配したことがありますか。心配だった時どうしますか。
- ・温泉に入ることは、あなたにとって何か特別な意味がありますか。



これから聞いた答えを説明します。

まず、20人中、温泉が好きだと言った人が19人でした。1人は嫌いでした。理由は温泉が熱過ぎるからです。温泉が好きな人は、温泉がリラックスと疲れを取りに行く所とか、友達と家族と楽しむために行く所とか、美容と健康のために行く所とか、自然に戻りに行く所だと答えました。

次に、温泉ではいけないことは、タオルを温泉

に入れたり、泳いだり、長くつくりすぎたり、あかすりすることです。温泉でしなければならないことは入る前かけゆと体をあらうことです。実は私がはじめて温泉に行った時、入る前にシャワーを浴びることを忘れて、温泉に入った時タオルも入れていました。本当に失礼なことです。

では、知らない人と入る場合と、知っている人と一緒に入る場合の感じについて、感じが違うと答えた人が16人でした。知っている人と温泉に入る時は、最初は恥ずかしいですが、入ったら楽しくなって、コミュニケーションがとれていいと答えました。知らない人と温泉に入る場合では、大部分の人は恥ずかしくないし、気持ちが開放されますが、疲れをとるだけになるので、つまらないと答えました。

知らない人と温泉に入る場合と、知っている人と入る場合の感じは同じだと答えたひとが4人でした。知っている場合でも、ひとりでも温泉に入るのは楽しくて、リラックスできると答えました。

では、みんなと一緒に同じお湯に入ることにについてですが、心配がある場合は清潔感のない所に入らないで、体を洗う時座る椅子を洗ったり、温泉を出る時体を洗うと言った人が7人でした。心配がありますが、気にしないで、特別に何もしないと答えた人が6人でした。全然気にしないでと言った人が7人でした。温泉を出る時、体を洗わないと言った人は2人でした。私は聞いてちょっと驚きました。その理由は温泉のお湯は皮膚にいいと言いました。

最後に温泉は個人的に特別な意味があるかどうか答えてもらいました。例えば、温泉は思い出を作ったり、友達や家族と親密になったり、裸と裸のつきあいをしたり、気分を落ち着かせるために行く所だと答えました。温泉はぜいたくな旅行のために行くところだと言った人が2人でした。

以上の結果から、温泉について色々な日本人の文化と考えを聞きました。私の考えでは、温泉というところは一般的に日本人にとって、体をあらう所じゃなくて、健康や人とコミュニケーションする所です。

最初、私は温泉について裸と清潔の疑問がありましたが、いろいろな答えをもらいましたら、日本の文化がよく分かりました。みんなルールどおりに温泉に入るの、きれいな湯が楽しめて、気持ちがよくなります。温泉では人と人の関係がよくなれます。日本の温泉は自然を経験したり、健康になったり、人間の関係

をよくするのに素晴らしい所だと思います。ですから、オーストラリアに帰る前にぜひ何回か温泉に行くつもりです。

これで、私の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【ディスカッションの抜粋】

1) ビーチと温泉で恥ずかしいと思うことの違い

宮谷：えっと、じゃあ、ここで1つトピックが出てきたから少し話しましょうか。あの、裸、と言うか肌を見せるということについて、オーストラリアだとビーチに行って、トップレス、下のパンツだけはいて上は見せるというのは平気なのね。それは男の人がいても女の人は大丈夫？ 問題じゃないと思う？ それはオーストラリアの人は平気なのね。私がヨーロッパ行ったときもそうだった。台湾はどうですか？

RL：ダメ。

宮谷：中国はどうですか？

RI：しない

宮谷：ミャンマーは？

RJ：絶対しない。

宮谷：シリアは、聞かないほうがいいね。絶対しない？

RH：女の人だけ。でも男の人はトップレス。これは大丈夫。



宮谷：女の方はビーチに行くことはありますか？

RH：ええ、あります。ピキニで。

宮谷：ピキニで。大丈夫ですか？

RH：イスラムにとってダメです。でも国にはいろいろな人がいます。ムスリムとキリスト、いろいろ

るな。ときどきムスリムでも新しい考え、でも somebody ダメです。

宮谷：ええと、今のいいですか？ ええっとシリアでは、ムスリムって言うと、大丈夫かしら。イスラム教徒のことをムスリムというのですが、ムスリムの人はもちろん、特に女の方は肌を見せてはいけないという戒律がありますから、ダメなんですけど、まあシリアで他の宗教の方は大丈夫なんですね。でもムスリムの方でも新しい考え方のひとは時々するけど、RHさんは絶対しないよね。じゃあ日本の人はどうですか。温泉で裸になるのが恥ずかしい人いますか。NJさん、大丈夫？

NJ：大丈夫です。

宮谷：ではトップレスは？ ビーチで。

NJ：絶対無理です。

宮谷：それはどうしてですか？

NJ：(沈黙)

宮谷：どちらも裸ですよ？

ここでは、温泉で裸になることが平気なのに、どうしてビーチでトップレスになることが恥ずかしいのかという点についてもっとつっこんだ議論をしたかったのだが、学生は「する、しない」ということは答えるものの、それ以上意見が出てこなかった。

2) 日本に来て恥ずかしいと思ったこと、驚いたこと

宮谷：ここまでで何かみんな話したいことある？ 私1つ聞きたいことあるんだけど、いいかしら？ 今恥ずかしいっていうことばがたくさんあったんだけど、みんなね、これは恥ずかしいと思っていることってあると思うんだけど、例えばオーストラリアだったらトップレスは恥ずかしくなくて温泉は恥ずかしいと思うんですよ？で、日本に来て、日本人がしていることで何か恥ずかしいと思ったことはありませんか。留学生の人、先に聞きますけど、RJさんわかる？

RJ：今は温泉だけ。

宮谷：RHさんは？

RH：発表の時恥ずかしいと思います。

宮谷：それはみんな恥ずかしいよ。(笑)なんか custom とか habit とか日本人の。

RH：びっくりしませんでした。全然...シリアにいた

ときすべて勉強しましたですから。今回の情報があります。

宮谷：RIさんはどう？ 日本に来て恥ずかしいと思ったことやびっくりしたことはありませんか？

RI：ううん、ありません。

宮谷：RLさんはどう？

RL：最初びっくりしたのが、女子高生のスカートが短かったこと。少しびっくりした。

宮谷：台湾はダメ？

RL：そんなに短くない。ひざまで、普通は。

宮谷：それは恥ずかしかった？

RL：恥ずかしくない。私じゃないから、ただびっくりした。

RG：私が飲み会行ったとき、先輩がみんなあそ、遊んだとき、なんか先輩が女の方の。あ、あ、あ、私がバレーのサークルに入ったとき、男の人が女の方の前で着替える。私恥ずかしくなったけどみんな普通。(1) 分かりますか。

宮谷：バレーのサークルは男の人？

RG：男の人でも女の方のいろいろいる。先輩が着替えるとき全然恥ずかしくなくて。

宮谷：女の人？

RG：男の人。ボクサーだっけ？(2) あの分かりますか。

RL：女の子の前で着替えて、平気みたい。

宮谷：それはびっくりした？ 恥ずかしい、RIさんはどうですか？

RG：NK君もみんなの前で着替えました。

宮谷：RIさんはどう？ みんなの前で着替えてパンツだけ...中国人はしません？

RG：オーストラリア人もしません。

RI：あんまりしません。

宮谷：シリア人はどうですか。男の人が女の方の前で着替える。

RH：しません。

宮谷：それはどうしてですか。宗教の理由がありますか？

RH：もちろん。宗教、イスラムに、男の、ダメなところは (3) ここからここまで。

宮谷：あっ、そうなの？ えっ、何？ おへそからひざまで？

RH：そうここはダメです。妻だけ。

宮谷：そうなの？ 知らなかった。

RH：男の方の前、女の方の前、ダメです。

宮谷：どちらもダメです。男の人の前もダメです。
じゃ、体育の授業どうやってるんだろう。

NL：こどもはどうですか。

RH：6、7歳ぐらいまでは大丈夫…。

宮谷：台湾はどう？

RL：普通はしない。

宮谷：日本人の女の人はどうですか？ 男の人が同級生とか、クラブでこう着替えてるのを見るのは恥ずかしい？

NL：学校で更衣室がないので、体育の時とかは男の子は全員教室だったので、水泳のときも、帰ってくると絶対着替えてたから、慣れた。

RG：たぶん日本の、日本で男の人がみんなボクサー、オーストラリアではみんなボクサーじゃなくて。

ディスカッションを進める上で、留学生の方が、自分の発話を理解しているかどうか確認しながら（下線(1)(2)、「分かりますか」）話をしている様子が観察された。その他、ジェスチャーを用いて言語の不足をカバーする（下線(3)「ここからここまで」）など、様々なストラテジーを用いていた。反面、日本人学生が留学生の理解が不十分であると認識して言い直した例は、このディスカッションでは1カ所のみであった。（「RGは一回温泉にいったことがあるって聞いてましたが、好きになりましたか」「えーっと、温泉は好きですか」）



【日本人学生の感想】

根本的な意識の違いが、異文化それぞれに感じられて、とても興味深いものでした。例えば、日本人が温泉を「お風呂」としてだけでなく、健康やコミュニ

ケーションの場となっているのに対し、外国では「お風呂」はあくまでもきれいにする所である、という意識の違いが、お風呂で裸はできるけれど、ビーチではできない日本人と、ビーチではトップレスでも平気なのに、お風呂は恥ずかしいという外国人の違いをつくる要因となっているのだと思います。（NM）

キティさんが一番最初のプレゼンターだったので、話し合いは宮谷先生にほとんどエスコートしてもらったような感じを、テープ起こしをして感じました。

日本特有の文化ともいえる温泉をキティさんなりに疑問に思ったことをまとめ、それをみんなで話し合う。慣れてくるとみんな自然に発言ができていたように思いました。

温泉に入る際のマナーから、オーストラリアや台湾、ミャンマー、中国、シリアの文化観を直に見ることができたのが私の中で一番の収穫だったように思います。中でも一番驚いたのが、オーストラリアではビーチでトップレスはOKなのに温泉でみんなの前で裸になるのはダメだということを聞いたことです。これには他の日本人学生も驚いているようでした。

全体的にこのプレゼン&話し合いを分析すると、キティさんの人柄と宮谷先生の人柄がよく現れたような気がします。テープ起こしの中でもありましたが、「このグループは話がずれやすい」と。（笑）でもほんのちょっとした雑談の中でも日本以外の国の人から聞くことは私にはすべて刺激的なことです。温泉という1つのトピックとっても50分近い話し合いができたのは、温泉に入ることを当たり前、普通と思っている日本人と、温泉という文化を受け入れられない人、なじみのないものだと感じている人、さまざまな考えがぶつかり、それをお互いに受け入れ、考え合うことで今回のプレゼンと話し合いが成立できたように私はそう思っています。（NN）

2.3.2. 発表2「地震について」

モハマド ナジー ジリラティーさん
（シリア）

【発表スクリプト】

みなさん、こんにちば。はじめまして、私はナジー・ジリラティーと言います。シリアの土木エンジニアで

す。最近、世界中の色々な所で、強い地震がおきました。皆さん、地震についてどう思っていますか。

さて、今日は日本の家について、話したいと思います。このアンケートで、日本の家の地震に対する強さの考え方を、調査しました。インタビューの質問は、スライドをごらんください。

まず、インタビューに答えてくれた人について、説明します。

私は全部で 25 人にインタビューしました。日本人が 16 人で、外国人が 9 人でした。年齢は 21 才から 46 才まででした。性別は男の人が 17 人で、女の人が 8 人でした。

では、結果について説明します。

質問 4 の「住んでいる建物は築何年ですか。」についてですが、「古い建物」と答えた人は 2 人でした。「まあまあ新しい建物」と答えた人は 6 人でした。「新しい建物」と答えた人は 17 人でした。

質問 5 の「住んでいる建物は何階建てですか。」についてですが、「1 階～3 階」と答えた人は 21 人でした。「4 階～6 階」と答えた人は 4 人でした。

質問 7 の「住んでいる建物は何でできていますか。」についてですが、「木」と答えた人は 9 人でした。「コンクリート」と答えた人は 12 人でした。「その他」と答えた人は 4 人でした。



このグラフから、日本の家は、まだ木で建てられているのが多いことが分かります。そして、高い建物より低い建物が好まれていると思います。でも、今回のインタビューは 25 人だけなので、結果があまり正確ではありません。もっとたくさんの調査が必要だと思います。

次に市民の考えについて説明します。

質問 8 の「大きい地震がおきたら、何をしますか。」についてですが、「家の外は安全ですから、外へ出ます」と答えた人は 16 人、「家の中は安全ですから、中にいます」と答えた人は 4 人、「家の中も危ないですが、そのままいます」と答えた人は 4 人、「普通の生活を続けます」と答えた人は 1 人でした。このことから、日本人は時間がない場合、32%の人が家にいると言いました。

質問 9 の「ニュースで 2 時間か 3 時間の後大きい地震があると聞いたら、どこへ行きますか。」についてですが、3 人だけ家にいると言いました。3 人以外は広い所に行くと言いました。私の考えでは、シリア人は時間があつたら、公園へ行くとおもいますが、時間がない場合は、70%ぐらいの人は家にいると思います。

質問 8 と質問 9 の答えから、市民は地震の時、家が安全かどうか、心配しています。

しかし、エンジニアの意見では、日本の家は地震の時、安全です。もちろん 100%安全な家はぜんぜんないですが、90%ぐらい安全な家はあります。しかし、値段は高いと思います。

土木エンジニアの考えでは、ビルが揺れることは安全の証拠ですが、住んでいる人は心配になりますから、これは難しい問題です！

私はこれから人々の意識と安全のギャップについて研究を進めたいと思います。そして、たぶん来年か、さ来年、研究でお答えできたらいいと思っています。これで私の発表を終わります。みなさん、ありがとうございました。

【ディスカッションの抜粋】

1) 発表内容に関する質疑応答

NM : もし、ニュースで 3 時間後に地震が起きたらどうしますかっていうアンケートで、日本人は広い所に行くって意見が多かったってのがさっきあって、シリアの人は多分家にいるって考えるっておっしゃってたんで、それはつまり、シリアの家は丈夫で地震に強いっていう風に考えるからなんですか？

RH : (4) アンケートから、これは、そうです。でもこれはちょっと違う。シリア人ムスリムですから考えちょっと違う。何も大丈夫。私は一番「いい」をします。その後、アッラー、神様手伝いましょう。ですから大丈夫。うちに、うちの、

うちの外同じです。私の生活はアッラーの、これはめいしだけ。神様の、神でかきました。ですから、私の、私の生活終わる時、終わりました。今、後で、わかりません。

留学生は自分の発表については積極的に発言をしていたが、注釈的な表現や部分的に相手の言っていることを否定して、自分の考えを述べる表現が使えていなかった。(例、下線(4))留学生のアンケート回答にも、もっと話す能力や適切に答える能力が必要であるという言及があった。教室では、発話順序が教師の質問に対して留学生が答えるという形がどうしても多くなってしまうが、意見や感想を述べるというタスクをもっと教室でも取り入れるような工夫をしていきたい。

【日本人学生の感想】

RHさんのプレゼンの内容を受けて、日本の地震について日本人がどのような思いを抱いているか、日本以外の国での地震についてはどうかというのが、話し合いの主な焦点だったように思います。テープ起こしをしてプリントアウトしたものを読んで、オーストラリア、ミャンマー、中国、そして飛び入りで参加くださった台湾の留学生の方たちの意見はすんなりと受け入れることができたのですが、ナジーさんの地震に対する意見はとても宗教(イスラム教)の影響が色濃いように思いました。正直なところを言わせていただくと、私はナジーさんの意見にとても違和感を感じたのは事実です。しかし、その違和感を自分なりに受け止め、自分の中の引き出しを増やすことが異文化理解へのステップだと思いました。また、ナジーさんは専門が土木関係なので建築材料の話にはとても反応していたように思います。台湾の地震のときに見つかった欠陥住宅(コンクリートの中にやかんが入っていた!)の話は私もすごく衝撃を受けました。東海地方にも近い将来大きな地震がくると数年前からずっと叫ばれていましたが、私も、私の家族も具体的な対策をいまだに立てていません。今回のプレゼンを聞いてみんなで話し合っただけで日本以外の地震の実際と、地震に対する考え方、また同じ日本人でも考え方が違う人もいて、自分自身も中身の濃い話し合いができたように思いました。(NN)

私が一番興味深いと感じたのは、地震が起きたときの最終的な行動を、宗教的思想が決定しているということでした。勿論、ナジーさんが言うように、「自分のできる限りのこと一番のこと」をしてからの話ですが、私はこのとき、初めは「そういう人たちもいる」という風にしか考えておらず、「でも私にはそんな考え方絶対無理!異文化理解って難しい・・・」と感じていました。



しかし、今回こうして振り返っているうちに、異文化理解というものは、私たちのように宗教などとはほとんど無縁の生活を送っているものとは異なった考え方をそのまま受け入れることではなくて、私たちの常識が常識ではない世界があって、極端に言えば、私たちが非常識だと感じることもまた常識である場合もあるというそのことを、わかっていることが(=理解していることが)、それに当たるのではないかということが分かってきました。

私は今、英語を勉強していますが、難しいなあと、いつも悪戦苦闘しています。しかし、言葉の壁というのは、もしかしたら一番乗り越えやすいものなのかもしれません。文化や宗教の違いは、もっと大きな障害になりうると感じました。(NJ)

2.3.3. 発表3「大学生の生活について」

王 徳永さん(中国)

【発表スクリプト】

みなさん、こんにちは! 私は王徳永といいます、中国から来ました。専門は物理学です。今Aクラスで日本語を勉強しています。

私の発表のテーマは大学生の生活についてです。

前、私も大学生でした。ですから中国の大学生の生活の状況を知っています。今、私は日本の大学で勉強していますから、日本の学生の生活の状況を知りたいです。そして中国と日本の大学生の生活は何が違うか知りたいです。ですから、このテーマを選びました。

学生の生活を知るために、生活の中の3つのことについて調べました。生活の中でこの3つのことは一番大切だと思ったので、勉強、アルバイト、クラブを選びました。日本人学生を20人にアンケートしました。

以下で私の分析した結果について説明します。

まず勉強について説明します。自分の専門が好きな学生は70%でした、好きじゃない学生は30%でした。自分の専門が好きじゃない学生は、だいたい将来自分の専門についての仕事をしたくないです。宿題が好きな学生は20%でした。好きじゃない学生は80%でした。家で勉強する学生は30%でした、家で勉強しない学生は70%でした。先生やクラスメートとの関係が良い学生は80%で、よくない学生は20%でした。



勉強について、中国と日本の状況は同じです。中国の学生も家であまり勉強しません。中国人の学生も宿題が好きじゃありません。でも、私は学生にとって勉強が一番大切だと思います。そして、先生やクラスメートとの関係がとても大切です。先生との関係がよくなかったら、勉強は大変になります。

次にアルバイトについて説明します。アルバイトをしているか、したことがある学生は90%でした。アルバイトをした学生のだいたいはアルバイトが面白くないといいました。好きじゃないといいました。でもアルバイトのおかげで、少し学生は生活が豊かになり、社会勉強にもなるといいました。アルバイトをしない学生は10%でした。アルバイトをしない学生はた

くさん勉強したいと言いました。

アルバイトは日本人の学生と中国人の学生の一番大きな違いです。中国人の学生はあまりアルバイトをしません。その理由は3つあると思います。1つ目は日本人の学生の授業料は高いこと、2つ目は日本のアルバイトのチャンスは多いこと、3つめは日本のアルバイトの給料が高いことです。

最後にクラブについて説明します。クラブに参加している学生は60%でした。参加している学生はクラブをするのがとても楽しいと言いました。クラブに参加しない学生は40%でした。参加しない理由は時間がなからだと言いました。

ほとんどの中国人の学生もクラブに参加するのが好きです。たとえばスポーツクラブ、音楽クラブ、外国語クラブなどです。中国では、スポーツクラブが好きな学生が一番多いです。

学生にとって勉強は大切です。しかし、体も大切です。いつもクラブ、たとえば、スポーツクラブに参加するのは、体にいいです。クラブに参加すると、メンバーの人と関係がよくなります。ですから、留学生にとって、日本の大学でクラブに参加するのは日本語の勉強にいいと思います。

これで大学生の生活について発表を終わります。ありがとうございます。

【ディスカッションの抜粋】

1) アルバイトについて

宮谷：アルバイトについて聞きたいんですけど、RIさんはさっき、日本人はアルバイトをしているから、社会に出たとき、大丈夫ですといいました。みなさんはアルバイトをした経験がありますか。NMさんは？

NM：接客です。・・・近くのトイザラスの・・・

宮谷：NJさんは？

NJ：旅館みたいところでやってます。接客もそうだし、布団をしいたり、いろいろ。

宮谷：NNさんは？

NN：いっぱいある。

宮谷：RGさんは？

RG：ウエイトレスとか、ホテルで部屋きれいにしたりとか。

宮谷：アルバイトをするとき、どうしてその仕事に決

めましたか。お金のためだけですか？

NK : えっと・・・大学生はバイトができるって憧れもあって。あと、そういった経験もしてみたいなって。

宮谷 : NNさんはどう？

NN : 生活のため。

宮谷 : アルバイトから、お金以外に何か得たものとかありますか？

NN : 社会勉強になった。学校では分からないことを、ほとんどバイトで学んだ。礼儀とか、接客の仕方とか、敬語の使い方とかも全部。

宮谷 : RIさんはアルバイトすることはいいと思うの？

RI : 思います。中国人の学生、アルバイトしたいけど、チャンスがない。

RG : しても給料少ないから、してもしなくても。

RJ : いろんな経験をしたほうがいいと思う。

宮谷 : RIさんは？ アルバイトしたほうがいいと思う？

RI : うん。

宮谷 : RHさん？

RH : 生活は、一番大きな大学です。



宮谷 : (5) みんなわかった？ NMさん？

NM : (6) なんとなく。

宮谷 : なんとなくじゃ駄目。いろんな国から来ていて、このクラスでは、まだよくみんな知らない人たち、バックグラウンドが違う人がいるときは、なんとなくじゃ駄目、自分の言葉でいえないと。RHさんの言いたかったことなんだと思う？

NM : 生活することそのものが、一番、大学で学ぶことのような、勉強になっている・・・。

宮谷 : ですか？

RH : はい。

このディスカッションでは、進行役（宮谷）が指した人しか発言がなかったので、進行役が下線（5）のように留学生の発言が理解できたかどうか確認したところ、（6）のような発言があった。それまで、「だいたい（分かった）」、「なんとなく（分かった）」「途中まで（分かった）」のような発言が多かったので、進行役は背景知識や文化が異なる人と話すときは、曖昧な理解のままコミュニケーションを進めてはいけなとコメントした。これは、今回の異文化理解セッションの中で参加学生に一番伝えなかったことである。

【日本人学生の感想】

私も今、大学生なので身近な話題で興味深かったです。アルバイトをしなくても、遊んでもしっかりやっていけるということに驚きました。そして、みんなアルバイトをすることは社会勉強になりいいことだと思っていることが分かりました。また、中国の学生は寮に住んでいる人が多いということは聞いたことがあったのだけれど、そんなに多いのだということを知り驚きました。（NJ）

2.3.4. 発表4「大学生になる前の生活」

ニイン イー ソーさん（ミャンマー）

【発表スクリプト】

みなさんこんにちは。私はミャンマーのソーです。今年の四月に日本へ来ました。専門は動物栄養学で、指導教官はO先生です。

私の今までの人生で大学生の生活が一番面白かったので、大学生の生活について興味があります。ですから、日本語のクラスのプロジェクトで大学生の生活について調べようと決めました。みなさんも大学に関係がある方なので、このことに興味があると思います。

学生にとって好きな専門が勉強できるように、高校生の時から一生懸命頑張るのは大切だと思います。ですから、大学生になる前の生活について調べることにしました。目的は大学生になるためにどんな準備をしたかということと、専門を選ぶときどんな理由で決めたとことを知ることです。

では、調査の内容について説明させていただきます。私は日本人大学生にインタビューを行いました。20人の大学生が答えてくれました。

これから質問と答えを説明していきたいと思いません。まず「高校生の時、授業の後で、ほかの活動をしたか」という質問についてですが、「いいえ」と答えた人が1人、「はい」と答えた人が19人でした。このことから、ほとんどの学生は何か活動しながら勉強しているということが分かりました。たぶん学生は活動をすることが好きだと思います。活動をしている人は勉強だけしている人よりストレスが少ないと思います。

では、次に「高校を卒業した後で、すぐ大学に入ったか」という質問についてですが、「はい」と答えた人が16人、「いいえ」と答えた人が4人でした。「いいえ」と答えた人たちは浪人生になりました。その後の一年間もっと勉強して大学に入ることができました。私はこれはとてもいいことだと思います。もし頭がよくない学生がすぐ大学に入ったら、勉強することがもっと難しく大変だと思います。



では、次に「大学の入学試験のためにどうやって勉強したか」という質問についてですが、自分で勉強したと答えた人が16人、塾に行ったと答えた人が2人、塾に行ったり自分で勉強したりしたと答えた人が2人でした。この結果からほとんどの学生は好きな専門を選んで、大学生になるために自分で勉強しているということが分かりました。

では、次に「学費」について説明します。大学に入る前に、学費のために貯金したと答えた人が1人だけでした。そして学費を自分で払っていると答えた人もその人だけでした。ほかの大学生は貯金しなかったの

で、学費は親が払っていると答えました。このことから、ほとんどの大学生の学費は親が払っているということが分かりました。ですから日本の大学生は学費について心配しないで勉強だけ一生懸命頑張ることができると思います。そして大学に入る前にも学費のために貯金しなくてもいいので、高校生の時も勉強を一生懸命頑張ることができました。このことは学生にとってとてもいいことだと思います。

では、つぎに「専門を選ぶこと」について説明します。好きな専門を選ぶことができたと答えた人が17人、できなかったと答えた人が3人でした。「どうしてこの専門を選んだか」という質問について好きな専門を選ぶことができたと答えた人は「興味があったから」と答えました。ほかの3人は好きな専門を選ぶことができなかったため、近い分野の専門を選んだと答えました。「この専門を決める時、自分の希望と両親の希望が同じだったか」という質問に「はい」と答えた人が19人、「いいえ」と答えた人は1人だけでした。でもその人も好きな専門を選んだと答えました。この結果から親はお子さんに自分の好きな専門を選ばせたということが分かりました。それにほとんどの学生は興味がある専門を勉強しています。興味がある専門を勉強するともっと楽しくなるし、そうすると、もっとやさしくなると思います。

では、まとめに入ります。ほとんどの日本人学生は高校生の時、授業の後で何か活動をしたり入学試験のために自分で勉強したりしています。そして専門を決めるとき、興味があったのを選びました。ですから、専門を勉強するのが面白くて大学生の生活が楽しいと思います。これで、大学生になる前の生活についての発表をおわります。ご清聴、ありがとうございました。

【ディスカッションの抜粋】

宮谷：いいですって、RJさん。で、NJさんはどうですか？

NJ：もともとは農学部に行きたくて。

宮谷：農学部に行きたかった。

NJ：はい、でも、ずっとそう思っていたんですけど、ちょっと頭がたりなくて、直前になって入れる所に行きなさいっていう。

宮谷：行きなさいと。えーと、あ、自宅生だっけ？

NJ：はい。

宮谷：ね、あーじゃあ、家の近い所がいいって、
 NJ：家から通って、しかも、浪人をしないでいける所に、しなさいって言われて、ここ選びました。
 宮谷：えーっと、じゃあ、NJさんの中で親の考えがすごく自分の進路を決める中で大きかった？
 NJ：そうですね。
 宮谷：あー。
 NJ：んーでも自分がちょっとレベルも足りなかったこともわかってるんで、まあ、別に。んー。
 宮谷：どうですか。専門の勉強は楽しいですか。
 NJ：興味があることなので、とりあえず・・楽しいってというか勉強になるな、とは。
 宮谷：お父さんとお母さんの考えが大きかった。じゃあNMさんはどうですか？



NM：えーと、私はもともとやりたかったことは大学とは全然関係の無い所で、それ専門の学校に行かなければならないものだったんですけど、それをやめて大学にきたってというのは、その専門学校の先生に、大学へ行く能力があるなら、大学にいていろんな考えを持った人と接して、で、また自分の考えも変わってきて、それでももし、やりたいことが同じことだったら、専門に大学を卒業した後で行けばいいじゃないかっていうふうに、その専門の先生に言われたんで、で、大学も考えるようになって、で、今のこの学科を選んだのは、えーと、一つって決まなくて、うちの学科7つの分野やりたいことがそれぞれあって、分かれているっていうので、まあ興味があったものがあって、そこに入って、入ってみたらまた、何がやりたいかっていうのがわかるんじゃないかと思っ

て。まだ、自分が何をやりたかっていうのが見つけてないんで、で、ここに入ったら、また考えも変わってくるだろうって思って入って、で、実際今やっていることも、もともとやりたいなんて少しも思っていなかったことだったけど、授業とかを受けてみてすごくおもしろいなって思うことができ、それで今の専門をやってるんで、そのことについては、すごい満足してます。

宮谷：じゃあ最初は自分のやりたいこととはちょっと違ったんだけど、満足してる。で、お父さんとお母さんはその大学進学するとかしない時に。
 NM：両親は、もうすべて私の意志にまかせるって言うくれたんで、専門に行ってもいいし、大学に行ってもいいしって…。

宮谷：あー、じゃあいろいろだけど、どうですか？ミャンマーではどうなんですか？自分の専門選ぶ時、あの、お父さんお母さんの考えは大きいんですか？ここで、んー、こっちは、ミャンマーではない、RJさんとこはどうでしたか？

RJ：私は高校生の時、一番興味あることは、さすが、さすが、さすが。

宮谷：数学。
 RJ：数学が一番興味がありました。でも父は私を獣医になりたいといいましたから、私はその専門を選びました。

宮谷：今、獣医の専門ですね。
 RJ：選びました。大学生の一年生に大学生の生活は楽しくない、くなかった。でも二年生になったら、私はこの専門に段々興味がありましたから大学生の生活は一番面白かった。

宮谷：じゃあ、その…私にボールが飛んできたって感じですね。RKさんはどう？

RK：んー、私は私の専門と興味が全然違う。私、高校生終わった時は私の興味が、えーっと経済教育に。

宮谷：経済。
 RK：経済教育に入りたい。

宮谷：経済の教育？
 RK：そうそう、Economics University。

宮谷：えー、じゃあ経済学部ね。
 RK：経済学部に入りたいんですけど、ん、その時私は高校終わった時は、教師もしたい、だから教

師をしたら、経済教育...ミャンマーは通信教育と学校教育がありますから経済教育は通信教育にはありません。それで私は通信教育にあった地理学を選んで勉強しました。でも私の興味と私の専門は違いました。でも私教師をしながら、えーその専門をよく頑張りました。私の父母の意見は関係無い。

宮谷：関係無い。

RK：私の、私自由に選びました。

このトピックは留学生、日本人学生双方にとって身近な話題だったので、自分の経験についてお互いに活発に発言ができた。それまでの発表では、焦点が国で括られる「文化」であったが、この卑近なトピックから全てをステレオタイプ化することの問題にも気づいた学生がいた（以下の日本人学生の感想参照）。このような形でそれぞれの中に複眼的な視点を持つことができれば、個々の異文化理解が深まるのではないかと考える。

【日本人学生の感想】

私の担当した RJ さんの発表についてですが、学部選びの時どうであったか、ということと、学費について、を主な内容としています。それぞれが自分の場合を言って終わってしまっているのが、ディスカッションという感じではないのが残念な所ですが、思ったことは、ミャンマーでは、日本人では、シリアでは、といった国の枠ではないものがあるのだな、と思いました。もちろん、国の背景が全く無いとは言いません。ある国では成績によってある程度進路が限られてしまう、ということを知りました。私の感じたことは、こういった交流の中で、異文化を知ってしまうと、その文化の中ではそれだけだと思いこんでしまうことが多いけれど、共通する部分もあれば、まったく異なる部分もある、それは文化の場合もあるし、それよりもミクロな、家庭や個人の場合もある、ということをお忘れてはならないということです。だんだん身近になってきた「異文化理解」を、捉えるうえで、とても大切なことだと思いました。(NM)

2.3.5. 考察

全体を通して、進行役である筆者の発話が討論の舵取り役に終始してしまい、学生からの自発的な発言が

少なくなってしまったことが今回の一番の反省点となった。進行役が参加者の発言が出るまで待つことができなかつたなかつたことも一因であるが、参加学生にも、今後学習を進めていかなければならない点があると思われる。

留学生の場合は、まず第一に、日本語能力の不足を補いながら、意思疎通していく能力を高めることが必要である。今回のディスカッションを通して、全体的に、知らない言葉を聞き返すストラテジー、言い換えを求めるストラテジーはうまくできていたが、自分の考えを述べる際に、それまでの話の流れを切って唐突に始めてしまったり、相手に対する配慮表現なしに相手の意見を否定してしまうような発話が散見された。今後、意見や感想を述べるというタスクをもっと教室でも取り入れていきたい。



日本人学生の場合は、発言そのものを躊躇していたり、話しながら考えをまとめていくことが苦手であるのではないかとされた。このグループに参加した留学生の一人はアンケートで「ディスカッションの時間は、日本人の学生が自分の意見を言うのをとてもためらっていて、とても退屈な雰囲気だった。先生はディスカッションをスムーズに進めようと努力はしていたけど」と回答していた。また、日本人学生からは、意見に賛同できないことや信じられないことがあったというコメントに代表されるように、学生自身の中で考えたことはたくさんあったようである。しかし、ディスカッションの中で確認したり、自分の意見（特に反論）を述べるということはほとんどなかった。発言が多ければそれは実りあるディスカッションであると短絡的に判断することはできないが、さまざまな観点から異なる考え方を出し、さらに考えを深めてい

くという訓練が必要であろう。

また、日本人学生は、ディスカッションの中で、留学生がどの程度日本語が分かるのかということにあまり配慮せず、難しい語彙や長い発話、方言のままの発話が多かった。これは外国人と日本語でコミュニケーションすることに慣れていないことが一番の要因である。また留学生が、理解できなかったことも多かったようだが、理解できなかった点について日本人学生に分かるように話してもらおうと言わなかったという問題点もある。

現在、岐阜地域においても外国人在住者が急増しており、日本語を使う場面において、相手は必ずしも「日本人」(＝日本語に不自由しない人たち)や「岐阜人」(＝岐阜方言を自由に操ることができる人たち)ではなくなってきている。この点で日本語自体の国際化が進んでいると言える。国際言語としての「日本語」を使う場合には、「言えば分かってもらえるだろう」ではなく、相手が分かっているか確かめつつ話す姿勢や、曖昧な点を明らかにしながら話を聞く姿勢が重要になってくる。

国際化といえば、「まず英語」という考え方が一般的だが日本に住む外国人が全て英語ができるわけでもない。内なる国際化においては、相手によって日本語をコントロールしながら話すスキルが今後ますます重要になってくる。そのためにも、まず母語である日本語で、自分の考えを筋道たてて表現する訓練が学部段階から必要であり、今回のような取り組みを継続していくことは意義があるのではないかと感じた。

3. ディスカッションにおける日本語母語話者の日本語の分析

教育学部国語教育講座 山田敏弘

本節では、国際言語として「日本語」を使用する際に注意しなければならない事項について、今回の異文化理解プロジェクト2グループにおける討論をもとに考察してみたい。

グループ2には、3名の留学生と4名の教育学部学生に加え、進行役として本節を執筆する山田が参加した。すでに記したように発表者である留学生3名は、それぞれ母語とする言語が異なる。日本語会話能力はかなり流暢ではあるものの、時に理解不足や理解の齟齬が生じることがある。

特にここでは、日本語母語話者が日本語で発した発話が原因となって留学生の理解不足が生じたり理解の齟齬が生じたりした場面について考察し、どのような点に注意したら異言語間コミュニケーション場面で通用する日本語になるかを考えていく。

3.1. 語彙が原因となって理解不足や理解の齟齬が生じる場合

おそらくどのような異言語間コミュニケーションにおいても、もっとも多く見られる理解不足や理解の齟齬の原因は、語彙によるものであろう。語彙は非母語話者にとって単に未知であることによって理解されないこともあるが、理解されない理由はそれだけではない。その言語の母語話者であれば当該語彙が未知のものであっても、文脈から補って理解できることも多い。そのことから考えれば文脈と語彙との結びつきが外国語であるということによって十分に得られないために理解できないことがあると考えられる。ここでは広く両者を語彙に起因する理解不足・理解齟齬と捉えておく。

長い文化をもつ言語であれば、それぞれの時代における輸入・移入あるいは内部における創造・変化により、多層的な語彙をもつ。その多層的な語彙は、それぞれ異なる性質をもつことが多い。たとえば日本語において、漢語語彙は概念的にも「高級」であり、その同音異義語の多さ、音節の長短が語の弁別に多く関与することから、日本語学習者にとって一般的に「難しい」ものと考えられている。

日本語学習においてどのような語彙が比較的、早い

段階で学習され、相対的に容易な語彙であるのか、逆に上記のような高級で難解な語彙であるかが理解されていないことによって生じる理解不足・理解齟齬が生じた例を見てみる。

NF : 家畜が経済のためになるということは、家畜が売れることで経済が活性化するということですか。

RD : ???

この場合、RDの発表内容「家畜が経済のためになる」という部分を受けて質問が行われており、理解不足が生じた理由は「家畜が売れることで経済が活性化する」というところにあると考えられる。構造としては相対的に見て単純であり、また「経済」「家畜」等の語彙も発表にあったものであることから考えると、「活性化」という初出でしかも質問のキーとなるような語彙の理解不足が、質問の意図を十分に伝えられない原因となったものと考えられる。

これは学生にだけ見られることではない。山田自身による次のような発言が留学生に理解されない場面があった。

山田 : オーストラリアでは海外から木を切ってきて新しく紙を作ることを制限していますか？ それをだめですよと法律で何か決めていますか？

RF : 制限？

このような場合、どの部分が理解されていない可能性が高いかを探り、その部分をより初期の段階で学習している可能性のある表現に置き換える必要がある。

この場合、話者である私自身は「制限」ということばに原因があると考えたが、にわかには「制限」が置き換え可能なより初期の段階で学習しているであろうことばが思い浮かばなかった。おそらく辞書的な類義語「限る」であっても、「制限」の代替表現としてはふさわしくないであろう。

そのため、次のように「制限」ということばを説明することにした。

山田 : 制限するっていうのは、たくさんあるのを、このぐらいにしましよってって、ここまでは

いいです。ここからはだめですということを制限するといえます。

入る人が、たとえば1万人しか入れません。1万人からもう1人来たら入れません。帰って下さい。で、オーストラリアでは海外から木を切って、インドネシアとか、木を切って、新しく紙を作るために持ってくることを制限していますか？ だめですよと法律で言っていますか？

語彙によってはこのように十分な説明を行うために、より初期の段階で学習しているであろう語彙を用いることが困難であり、説明が長くなる場合もある。

今回は教室での学習ではないので話題に沿った説明を試みたが、「速度制限」などからもう少し簡単に「制限」ということばだけを理解させる方法もあったかもしれない。

語彙の理解不足は漢語に多いということは、同音異義語の多さからも容易に察することができる。実際、日本語母語話者同士の会話で理解不足や理解の齟齬が生じる多くの原因は、漢字が思いつかないことによって意味がわからないことにある。

実は今回、漢語であるために理解しにくいということは、上例「活性化」に関する場面をのぞいてなかったようである。逆に次のような和語に関して、理解がされないで質問される場面が見られた。

日本人学生：ミャンマーの人で大学に通う人は多いんですか？

RE：かよう？

「通う」という動詞は、初級で学習する動詞であるが、学習者が日本語を用いる場面では、学習者の日々の体験などを話すことが多いため、「通う」のような習慣を説明する際に用いるような語が使われることが少ないようである。しかしながら、日本人学生から何気なく出てきたことからわかるように、「通う」が自然に会話に出てくることばであれば、「行く」だけではなく、「通う」のような語が用いられる会話場面も教室活動に積極的に取り入れるべきであろう。

このほか、山田自身は次のような言い換えを使った。

山田：教育を通じて

RF：？

山田：教室の中で

山田：日本の国内法で、国の中の法律で。

山田：検討されている。話し合われている。

中級での学習事項とされる複合格助詞「～を通じて」はこちらの期待に反して理解されなかったが、この例を除けば、話の中で複数の表現を留学生の疑問の声を待つまでもなく複数の語彙（表現）を併用している。このような多層的な語彙を効果的に用いていくことが必要ではないだろうか。

3.2. 文法構造の複雑さが理解不足や理解齟齬を生じる場合

単に難解な語彙が用いられているという理由ではなく、語彙自体は簡単であるか、もしくは非日本語母語話者の中で活性化されているにもかかわらず、理解不足や理解の齟齬を来す場合もある。

たとえば今回の話し合いの中では次のような場面があった。

NF：効果があると思えないとこに参加することに躊躇しちゃうんじゃないかな。

RF：もう一度言ってください。

NF：効果があることにだったら、みんな参加すると思うんですけど、行ったって効果があると思っていないのに、そこに参加しようって気にはならないんじゃないかと思うんですけど。

すでに RF 自身の発表の中に「効果」や「躊躇」ということばも出てきており、また、ほかに難解な語彙も見られないことから、これは語彙によって理解不足が生じているとは考えにくい。

ひとつは学生の発言が、通常の話したことばであったということも原因として可能性があるだろう。「しちゃうんじゃないかな」はその可能性がある部分である。

しかしこの場合、「[[効果があると思えない]とこに参加する]ことに躊躇する」という入り組んだ構造になっている点にも注意を向けてみたい。この「と

ころ」は前の文脈に出てきている「デモ」を指す。この名詞修飾構造は限定的に前の「効果があると思えない」が「ところ＝デモ」を限定しているのではなく、「効果があると思えないので、デモに参加する」という理由を表す節と実質的に読むことができる。逆に言えば、名詞修飾構造をとることによって、このような理由を表しているとは読めなくなってしまう。

理由を表す接続助詞を用いた複文で「効果があると思っていないので、デモに参加することに躊躇するのではないのでしょうか」と言えば、相対的な理解しやすさは上がると考えられる。

なお、当該学生は理解不足に気づくと上記のように発言を修正している。この場合、「効果があることになったら」は「効果があることに参加するのだったら」など、省略を極力少なくすることも、より理解しやすい方法となる。

3.3. 談話的特徴を考慮に入れた文章の展開

人間の頭はある一定の順序で示された場合に、相対的に理解しやすいものと考えられる。その一定の順序というのは、時間の順序であり、場面提示の順序である。

時間の順序というのは、出来事の生じる順序が言語として表される線条性に一致している場合、それが一致していないよりは理解しやすいというものである。細かいデータは持ち合わせてはいないが、日本語では目的を表す構文「買い物しにスーパーへ行く」よりも、「スーパーへ行って買い物をした」と言った方が、この出来事生起の順序と言語表現の線条性が一致しているため、相対的に理解しやすい。今回、このような時間の順序の複雑さによる理解不足や理解の齟齬は見られなかった。

もうひとつは場面提示と出来事展開の提示順序である。日本語では「昔々、あるところにおじいさんとおばあさんがいました」のような昔話に代表されるように、通常、時と場所をともなう存在表現から物語は始まる。つまり、場面提示を行った後で、出来事が展開していくという順序をとる。

今回、語彙的にも、また文法的にも困難とは考えられないような場面で、留学生の側が理解不足を来した場面が見られた。

NI : オーストラリアでは、ほとんどの人が参加しま

すか？

RF : う～ん、すると思う。

NG : 街の中心とかでデモがあるんですか？

RF : ?

NG : 街の中心、でデモがあるんですか？

RF : 街の中心？

語彙あるいは文法的要素に困難な点は見いださなくいたため、ほかの可能性の中の1つとして考えられるのは、やはり提示順序であろう。

次のように「存在提示(街 街の中心)」「デモ」という出来事の提示を、語彙的な「真ん中」「中心」という併用もあわせて行くことで理解不足は解決できるものと考えられる。

山田 : いろいろな街がありますね。オーストラリアにも。その街の真ん中、中心にいろいろな広場があったりしますね。広いところ。街の中でデモをすることもありますか。

理解は段階をふんで進んでいくことを忘れてはならない。とくに母語のように一度に理解できる分量が多くない外国語の場合、一度に理解しなければならぬ一文に込められた情報は、なるべく少なくしていくことも必要である。

3.4. まとめ

本節では、語彙、文法構造、提示順序の3点について、日本語母語話者の発話に対して学習者が理解不足や理解の齟齬を示した場面を分析した。今回は2グループの討論のみを対象としたため、用例が十分に得られなかった面もあるが、結果として、次のようなことが主張できる。

1. 語彙に関しては、音節構造や同音異義語の存在などから考えて、一般的に漢語よりも和語のほうが容易であると考えられることができる。しかしながら、和語であっても理解しにくい語も存在する。多様な言い換えを準備しておく必要がある。
2. 文法に関しては、なるべく埋め込み構造がなく単調な構造の文を使うようにするほうが理解しやすい。

3. 文相互の並べ方については、なるべく存在提示で聞き手に理解する場面を設定させてから、出来事の部分を述べるようにすることで、段階を踏んだ理解が可能になる。

このような日本語を簡単な日本語で言い換えることによって、日本語を母語としない人とのコミュニケーションを日本語で行う際の理解不足や理解の齟齬を相対的に減らすことができるものと考えられる。

日本語を学ぶ人が全世界で200万人を超える時代である。とかく国際的なコミュニケーションというと英語をはじめとした外国語を学ぶことばかりを考えがちな日本の教育であるが、(外国語教育の重要性は十分認めるとしても)日本語自体の国際化を考える必要があるのではないだろうか。



方法としては、本考察で示したように、日本語母語話者が語彙・文法・談話について、さまざまなレベルの日本語をコードとして有し、それぞれの難易度を認識しつつ、場面や聞き手に応じて異なった日本語を使い分けることである。

国際化時代の母語学習・母語教育は、従来の「国語」のよさを残しながらも、このような点に着目したものにならなければならない。

4. アンケート結果

異文化理解セッション終了後、日本語研修コース A クラスの学習者と異文化セッションに参加した日本人学生に自由記述式のアンケートを実施した。以下、その回答を紹介する。

4.1. 留学生に対するアンケート

留学生センター 宮谷敦美

アンケートの質問項目は、プロジェクトワーク全般と、日本人学生との異文化セッションについて質問した。プロジェクトワークについては、その過程を振り返り、発表というタスクを通して、自分の日本語でのコミュニケーション能力を学習者自身が評価し、今後どのような学習を進めていきたいか考えさせることを目的に質問項目を作成した。異文化セッションについては、初めて話をする日本人学生との会話で困難だった点と、それを解決するために学習者自身がどのような方略を用いたかという点を振り返らせることを目的に質問を作成した。質問内容を以下に挙げる。

A. プロジェクトワーク全般について

- ・あなたがプロジェクトワークで学んだことは何ですか。
- ・プロジェクトワークをするとき、クラスメートや先生にどんな手伝いをしてもらいましたか。協力がありましたか。
- ・日本人へのアンケート・インタビューでどんなことを学びましたか。
- ・プロジェクトワークをして、もっと勉強したいと思ったことはどんなことですか。
- ・プロジェクトワークで何が大変でしたか。
- ・自分のプロジェクトワークに満足していますか。
- ・プロジェクトワークについて、自由に意見を書いてください。

B. 日本人学生との異文化セッションについて

- ・人の前で発表することは、あなたにとってどんな経験でしたか。
- ・ディスカッションで発見したことや新しく気がついたことがありますか。それは、どのようなことですか。
- ・会話の中で日本語がよく分からなかった場合、あな

たはどのようにしましたか。

- ・会話の中で日本語がよく分からなかった場合、日本人やクラスメートはどのようにしましたか。
- ・ディスカッションをして、もっと勉強したいと思ったことはどんなことですか。
- ・このディスカッションプログラム(異文化セッション)について、自由に意見を書いてください。

質問は学習者が分かる簡単な日本語で記述したが、念のため配布時に教師が口頭で内容を確認した。学習者は各自の得意な言語(日本語、英語、中国語)で回答を記述した。アンケートの回収率は100%、英語、中国語の回答は日本語に翻訳してある。日本語の回答は読みやすくするために部分的に漢字表記に改めているが、文法等の誤用はそのまま表示してある。

【プロジェクトワーク全般について】

あなたがプロジェクトワークで学んだことは何ですか。

- ・日本の文化。日本人とコミュニケーションすることがよくなります。
- ・日本で役に立つ動物。
- ・日本人にインタビューしたり、発表したりすることをなりました。
- ・日本人大学生の大学生になる前の生活について調べました。大学生になるためにどうやって勉強したことと専門を選ぶときどんな理由で決めたことを学びました。
- ・日本人大学の経験。
- ・日本人大学生の今の生活で何を面白いと考えているかを調べること。日本人学生の大学生活について調べた。(1)専門の選び方(2)専門に対するの考え(3)今の生活について(4)将来の職業について
- ・私のプロジェクトは宗教についてで、これは論争的で敏感な内容だからディスカッションするには一番難しいトピックのひとつだと思う。だけど、私にとってはとても面白いトピックです。特に日本の若者の宗教に対する考え方が興味深い。
- ・日本人と交流し、勉強する機会を多く持つことが必要。日本語と文化を勉強した。
- ・プロジェクトワークの中で、日本やその他の方面の情報がよく分かり、日本への理解を一步進めることができた。また、習った日本語を使って「プロジェ

クトワーク」の文章を書くことができ、句型に対する理解が深まった。

プロジェクトワークをするとき、クラスメートや先生にどんな手伝いをしてもらいましたか。協力がありましたか。

- ・先生はプロジェクトの時間管理の手助けをしてくれたので、うまく進められた。
- ・漢字や難しい語彙の文章を読んだり訳したりするのに、M先生やその他の先生方に手伝ってもらった。クラスメートにもアイデアをもらった。日本人学生やクラスメート、先生方の協力もよかった。
- ・手伝うのがとてもよかった。先生は私にいつか直してくださいました。
- ・プロジェクトワークをするとき、先生やクラスメートのいろいろなお世話になりました。M先生とF先生に考え方やインタビューの方法や日本語で書きかたなどを教えていただきました。N先生にパソコンについて教えていただきました。クラスメートにいろいろ意見をもらいました。
- ・クラスメートや先生にいろいろ手伝いをもらいました。書き方とか、考え方とか...
- ・はい、日本語の先生方にいろいろと手伝ってもらいました。考え方、プロジェクトワークの方法、書き方話し方、そしてディスカッションの仕方。M先生とF先生が一番手伝ってくれた。コンピューターに関しては、N先生が手伝ってくれた。友達(特にRHさん、REさん、RJさん)と去年Aクラスの学生だったQさんと、鹿児島の友達にもいろいろとアドバイスをもらった。
- ・先生方がプロジェクトのほとんどを手伝ってくれた。先生方の助けなしでは、エッセイを完成させられなかったと思う。すごく感謝している。クラスメートもディスカッションのとき手伝ってくれて、さらにアイデアを出してくれた。
- ・発音が正しくないとき、先生が直してくれた。
- ・様式と語彙の面から一つ一つ直してくれた。先生方の我慢強い指導と援助のおかげで、比較的満足の行く文章を書くことができた。
- ・クラスメートと先生からたくさんの協力があった。彼らは私の考えを発展させるのと、私の発表内容を改善する手助けをしてくれた。

日本人へのアンケート・インタビューでどんなことを学びましたか。

- ・日本語でのプレゼンテーションの方法、日本の文化。日本人とコミュニケーション。
- ・ほとんどの日本人学生は環境や文化に結構よく知っていることが分かった。インタビュー中、質問にとても熱心に答えてくれて、親切だった。
- ・話し方を学びました。
- ・日本人大学生の高校生のとき勉強することや生活や気持ちなどを学びました。そして日本大学生の会話と考え方を学びました。
- ・日本人学生は将来の仕事をどうやって選ぶかと大学生の経験をどうやって使うかと大学を卒業した人が大学での経験をどうやって使っているかを調べました。
- ・インタビュー中、「専門や今の生活に対する大学生自身の気持ち」について学んだ。学生から十分な回答が得られた。
- ・日本人が宗教についてあまり考えないということプロジェクトで学んだ。信仰は日本人にとって重要ではない。日本人は確かな宗教的習慣や伝統を守っているのに、それが宗教からきている習慣だということに気づいていない。ただの日本の伝統的な習慣だと思っていた。
- ・日本人と多く交流するだけで、日本語を速く上達することができる。
- ・ほとんどの日本人大学生は喜んでアンケートに答えてくれた。とてもまじめで、熱心に書いてくれた。
- ・アンケートの日本語を英語に訳することと、漢字を認識することを練習になった。

プロジェクトワークをして、もっと勉強したいと思ったことはどんなことですか。

- ・日本語の話し方と書き方。
- ・日本での動物の重要性はたぶんこのレポートで発表した以上に経済にとって大きい。だから、様々な地域の人に答えてもらうことで、信頼性の高い情報やデータを手に入れられたと思う。そうすればそのデータは学術的にも研究目的を計画するのにももっと役にたつだろう。
- ・たくさんの人の前に話すのがちょっとやさしくなります。でもだんだんやさしくなります。
- ・もっと勉強したいと思ったこと。生活会話。いろいろ

るなことば。漢字。日本の文化。

- ・今私のプロジェクトワークでインタビューした人はあまり多くなかったですからデータはあまりよくないとおもいます。もし時間があつたら、いろいろな仕事をはたらきている人に調べたいです。
- ・プロジェクトワークで、自分の今の状態がよく分かった。文法、語い、話し方など勉強することがいっぱいある。
- ・日本人は僧や聖職者のような宗教に関する人々に対してあまり敬意を示さないように見えるから、なぜそういった態度をとるのか引き続き調査したい。これは日本の歴史と共に進めなければならないと思うから、さらに調査します。
- ・日本語をもっと勉強したいと思う。
- ・自分の日本語がまだ下手だと感じた。より多く、より深く日本人と交流しないと、逆に自分の感情を完全に表出できないと強く思った。勉強すべきものがとても多い。
- ・データをよりよく分析する方法。

プロジェクトワークで何が大変でしたか。

- ・文法
- ・適切なテーマやメッセージにするためのデータの分析や情報の要約。しかしこの難しさを通して、今後の研究に役立つテクニックや新しい語いを学ぶことができた。
- ・大変ではありませんが、時間が足りませんでした。
- ・私にとってインタビューも日本語で発表もはじめてですから、インタビューはちょっと大変でした。でも面白かったです。時間がちょっと短いですから、準備することが大変でした。
- ・私の日本語があまり上手じゃないですから、日本人にインタビューしたとき大変でした。
- ・インタビューの時、日本人学生の話がよくわからなかった。話すのがすごく速いと思う。文法まちがい、私の弱点。
- ・プロジェクトの一番難しい面は日本語で自分の考えや意見を述べること。日本語がまだ十分ではないから、伝えるのに足りる語彙がないけど、先生方が助けてくださった。
- ・少し緊張した。自分の日本語は良くないので、間違いがあるかもとばかり気にしていた。
- ・完全に明確に自分の観点を言い表すことができな

かった。

- ・日本語でディスカッションに答えること。

自分のプロジェクトワークに満足していますか。

- ・いいえ。プレゼンテーションの話し方が流ちょうではない。
- ・満足している。
- ・はい。
- ・はじめてですから間違っていました。
- ・はい、満足します。
- ・はい、満足しました。たくさんの日本人の友達ができ、短い時間で話すことができる。また、日本語でプレゼンテーションのレポートが書ける。学生の今の生活が大体わかった。
- ・自分のプロジェクトが進行していった過程にととてもうれしく思っている。手伝ってくださった先生方、ありがとうございます。
- ・満足していないが、これからもっとよくなると確信している。
- ・だいたい満足。
- ・はい。

プロジェクトワークについて、自由に意見を書いてください。

- ・とてもおもしろいが、大変だ。
- ・とてもよかった。クラスで習ったことを、特にコミュニケーションや会話において練習できる。さらに先生方以外の他の人から学ぶ機会となる。
- ・たぶん難しかった。でも、毎月ひとつをしたら、いいと思います。私は上手になりたいですから。
- ・自分で考えることができました。日本人と日本語で話すことと日本人の話すことを聞くことができました。今度の発表があつたら、今の経験を使うことができますと思います。
- ・日本人とたくさん話しましたから日本語で話すことはよくなるとおもいます。たくさんの利点を得ることができた。日本語でプロジェクトの文書を書く方法や、多くの語いや文法を知った。新しい友達もできた。そしてもっと日本語を勉強しなければならないと分かった。
- ・A クラスにとって一番よかった。プロジェクトワークで、考えや社会的なふるまい、書き、話し、読み、コンピューターのスキルが身についた。しかし、時

間が少し短かった。もしプロジェクトに 3ヶ月あったら、もっともっとデータが得られる。

- ・全体的に、このプロジェクトは A クラスのとてもよい面だと思う。私たちの日本語を伸ばすだけでなく、日本の文化や習慣についてさらに知る手助けとなる。
- ・プロジェクトワークは自分を鍛錬するよい機会だったので、大切にしたい。
- ・全体的にはとてもよかった。日本語表現能力を高める手助けをしてほしい。
- ・とてもいい経験であり、よい挑戦になった。

【日本人とのディスカッションについて】

人の前で発表することは、あなたにとってどんな経験でしたか。

- ・特に、外国語でパブリックスピーキングの練習のためにいい。
- ・プレゼンテーションで、日本語を話すことにもっと自信がつく。日本人学生や先生が熱心に聞いて理解してくれた。
- ・面白かったと思います。スピーチコンテストみたいでした。
- ・日本語で発表することがはじめてですから、発表の前に心配しました。でも発表が終わったとき、何語でも発表がだいたい同じだとおもいます。
- ・日本語で発表することははじめてですから、ときどきしました。でも私の発表についていろいろな意見をもらいました。ですから私のプロジェクトワークはもっとよくなります。そして新しい日本人のともだちももらいました。
- ・日本語でディスカッションするのは初めてだった。予想外の質問がたくさんあったけど、いい経験だったと思う。学生からいろんな考えを得た。そして、自信がついたことに一番満足している。
- ・とてもいい経験だった。プロジェクトの内容の全部を覚えることはできず、時々スクリプトを読んだけど、一番よかったことは全然緊張しなかったことだ。たぶんそんなにフォーマルなプレゼンテーションではなかったからだと思う。
- ・事前に十分な準備が必要だ。できるだけ緊張してはいけない。外国人は日本語が下手なものなので、日本人は笑うことはできない。
- ・皆まじめに自分の発表を聞いてくれた。間違っ

た分があっても、皆ずっと我慢して聞いてくれた。その態度によって私は励まされ、緊張感が和らいだ。

- ・おもしろいが、難しい。

ディスカッションで発見したことや新しく気がついたことがありますか。それは、どのようなことですか。

- ・ディスカッションの時間は、日本人の学生が自分の意見を言うのをとてもためらっていて、とても退屈な雰囲気だった。先生はディスカッションをスムーズに進めようと努力はしていたけど。
- ・いくつか新しい考えがあった。例えば、日本で狩猟用の犬や動物はたくさん役立つけど、村と都市とで変わる。質問に答えてくれた人が経済の違いや食料消費を知らないと考えられるので、彼らが答えてくれたことよりも動物による経済はもっと高いと考える。
- ・ありません。
- ・ありません。
- ・私のトピックからはずれて、日本の僧が結婚できることについて日本人がどう思っているかについてもディスカッションした。私やミャンマーの人にとってそれは少し変だから。しかし、日本人は全く普通なことだと思っていて、おもしろかった。
- ・自分の日本語がまだまだだとわかった。
- ・自分の調査内容をもっと広げられる情報を得ることができた。中国と同じでない部分を発見し、今後の参考とすることができ、自分の考えをふやし、広げることができた。

会話の中で日本語がよく分からなかった場合、あなたはどのようにしましたか。

- ・繰り返してもらうように頼む。
- ・覚えるようにして、時々ほかの参加者に聞いた。
- ・ときどき分からない言葉の意味は、文の意味から分かります。ときどき先生に聞きます。
- ・まず「もう一度おねがいします」といいました。それでも分からなかったら「英語でおねがいします」といいました。
- ・分からない日本語があったら、ここに書いてくれな

が言えないときには英語を使う。

- ・ どうしようもない。
- ・ とても簡単な言葉を探し、少し複雑な事柄を表現する。
- ・ 「すみません、ちょっとわかりません。～って意味はなんですか」と言う。

会話の中で日本語がよく分からなかった場合、日本人やクラスメートはどのようにしましたか。

- ・ 繰り返してもらおうように頼む。
- ・ その時は、先生に手伝ってもらおうよう頼んだ。
- ・ 日本人やクラスメートが簡単な言葉で説明してくれました。それでも分からなかったら英語で説明してくれました。
- ・ 日本人は答えを紙で書いてくれました。クラスメートはいっしょうに辞書でさがしました。
- ・ もちろん、英語で説明してくれた。
- ・ 日本人やクラスメートはとても親切で、言い方や方法をかえたりして、分かるまで説明しようとしてくれた。
- ・ 少し簡単で分かりやすい言葉を使い、私が自分の言いたいことが言えるよう助けてくれた。また、示されたものが私が言いたかったことかどうかを私に判断させてくれた。
- ・ よりゆっくり話し、簡単な日本語を用いた。

ディスカッションをして、もっと勉強したいと思ったことはどんなことですか。

- ・ 日本語の話し方。
- ・ 最終レポートに新しい考えを編集する以外はもう勉強はしない。けど、設定時間に対して、20人以上の回答を得るべきだったかもしれない。
- ・ いろいろなことがあります。私は A クラスですから。たとえば、たくさん日本語を話したいです。
- ・ 日本語をもっと勉強したり練習したりして、もう一度日本人とディスカッションをしたいです。
- ・ 日本語で話すことも書くことも、もっとよくなりました。
- ・ スピーキング。日本語が上手にしゃべりたい。流暢に話したい。
- ・ 日本の宗教についてもっと調べたい。例えば、日本の僧や聖職者の生活や神道信者について。
- ・ もっと速く自分の日本語能力を高めたいと思った。

そうすれば他の人たちとより深い交流や理解をすることができると思う。

- ・ 適切な日本語での答え方。

このディスカッションプログラムについて、自由に意見を書いてください。

- ・ 日本語の練習にとってもいい機会でした。先生と日本人学生に感謝します。
- ・ ディスカッションは、それなりにとてもよく、楽しかった。日本の動物の重要性をさらに学んだ。日本とタンザニアの動物の利用と重要性に関する文化を共有できた。日本人から語いや発音を学んだ。新しい日本人の友達や Y 先生と知り合うことができた。
- ・ 本当に面白かったと思います。そして一月に小さい発表はもっといいと思います。ありがとうございました。
- ・ 発表を練習することができました。ですから発表のために心配することをへることができます。日本人と日本語でディスカッションすることができるように日本語をもっと勉強することができました。もしチャンスがあったら多い日本大学生とディスカッションすることがもっといいことだとおもいます。
- ・ 最終のプレゼンテーションのいい手助けになると思う。A クラスに参加したら、以前より日本語が上手になって、日本人とコミュニケーションがとれるようになった。けど、プロジェクトワーク中でも、文法や話し方などたくさん勉強しなければならないことを知った。このプロジェクトワークはどの学生にもよく適している。日本語に関する実際のシチュエーションを知ることができる。プロジェクトワークを完成させるため、たくさんの日本人たちやクラスメート、日本語の先生に協力やアドバイス、支援、激励をしてもらい、とても感謝しています。指導やアドバイス、授業をくださったすべての日本語の先生に心から感謝の気持ちを伝えたいです。私のプロジェクトワークの作業を絶えず支援してくださった M 先生、F 先生、N 先生に深く感謝します。最後に、日本語クラスへの参加を許可していただき、支援してくださった指導教官の X 先生にもお礼を言いたいです。
- ・ ディスカッションは最終プレゼンテーションにいい手助けとなる。今日 O 先生の監督のもと、日本人学生とディスカッションをした。それで、プレゼンター

セッションへのいい経験となった。たぶん私は聴衆の前でもあがらないでしょう。

- ・日本人の宗教に対する考えを聞いて、よい経験になった。たとえば日本人の意見が私のと少し違ったとしても、どの国にもそれぞれ歴史や文化があるから、私は日本人の考えを尊重する。
- ・とてもよかった！
- ・とてもよかったと思う。日本人大学生と話し合ったとき、みな積極的に自分の状況を聞いたり話したりしてくれたので、私は落ち込む(?)ことなく、昔からの友達のように彼らと話し合うことができた。
- ・先生はとても親切ではっきりとした簡単な日本語で話してくれた。学生たちはちょっと静かだった。

4.2. 日本人学生に対するアンケート

留学生センター 太田孝子

アンケートの質問は、異文化セッションに参加する中で感じたことを記述するという一般的な質問の他、ディスカッションの中で不同意/不賛同な点があったかどうか、会話中、意志疎通のために工夫した点があるかどうかなど、日本人学生の参加の仕方や言語運用状況をチェックするための項目も加えた。アンケートはセッションが始まる前に、具体的説明なしに配付しておいたのだが、事前に配付した効果や影響などは何もみられなかった。

質問内容を以下に挙げる。

- ・あなたがディスカッションの中で新たに気づいたことや学んだことは何ですか。
- ・ディスカッションの中で、同意できないことや賛成できないことがありましたか。
- ・ディスカッションの中で留学生と日本語での意志疎通が難しい場合、どのようにしましたか。
- ・あなたが話すとき、留学生に分かるように工夫したことは何ですか。
- ・留学生と話すことは、あなたにとって、どんな経験でしたか。
- ・このディスカッションプログラムについて、自由に意見を書いてください。

アンケートはE-mailで返答してもらった。11人から回答、回収率は78.6%である。

あなたがディスカッションの中で新たに気づいたことや学んだことは何ですか。

- ・各自のテーマに留まらず、それぞれの国においての話し合いができてとても有益だった。特に、ミャンマーや中国は私にとって近くて遠い国で、基本的なことさえも知らないことだらけだと自覚した(特に中国について)。ミャンマーの大学も、日本のそれと同じように1、2年では専門科目を中心に勉強しないことについて。ミャンマーについて知っていることのほうが少ないくらい知識が乏しく、日本とは全く違う国であるように感じていたので、余計に意外に感じたのかもしれないが、このカリキュラムには自分自身も疑問を感じていたのに、ミャンマーも同じであるとは目から鱗が落ちる思いだった。

また、中国は日本のように、もしくはそれ以上に宗教信仰意識がないことにも驚かされた。歴史が古く、旧正月などに代表されるような行事も、仏教が儒教から影響を受けているものと勝手に思っていたからだ。私は台湾しか訪れたことがないので状況が異なるかもしれないが、たくさんお寺があったと記憶している。それに漢字文化自体が、宗教を象徴している...気もしていた。

こう考えてみると、私は異文化に興味があるくせに、その方向はいつもユーラシア大陸を見逃していたようだ。これからは灯台下明しになるべく、もっとアジアを勉強したい。

- ・わたしは今、3年生で、将来について考える機会が増えました。だから、大学生の今の生活をとりあげて考えたいと思います。わたしも大学には自分の専門を追究するために進学するのだと思います。今日の授業で知ったことですが、ミャンマーの大学に進学するというのはとてもエリートで、しかも高校の成績によって進学が決定されてしまい、自分で将来を選択したいなら成績を上げ、それでも限られた中で自分で選択していくことしかできないというのに驚きました。わたしたちは、勉強すれば勉強しただけ、将来の選択の幅は広がってくるし、何よりも自己決定できるということがどれだけ恵まれていることかということを改めて感じさせられました。RAさんは今やっていることはとても楽しいと言っていたし、日本で専門の勉強ができておもしろいと言っていたのですごいと思います。わたしも、教員養成課程で英語の勉強することは大変だけれども楽しい

です。自分で選んだものがそのまま将来につながれば何よりだし、NHさんが言っていたように、直接つながらなくても興味関心を満たすことができ、自分で選んだ専門と関係のないものに満足できれば大学の専門の勉強もわたしたちの自己の一部を形成するのに役立っているのではないかなと思います。

- 今日のディスカッションの中で、中国、ミャンマー、シリア、オーストラリアの人たちと話す機会があったのですが、皆さん思った以上に日本語が上手でびっくりしました。4月から日本語を勉強し始めたと聞いていたので、3ヶ月半でこんなにも上達するものなのかと感心してしまいました。様々な国の日本に対するイメージみたいなものを直に聞くことができたのがとてもよかったです。自分の国について客観的に考えることができた一日でした。
- 改めて感じたことですが、自分が今、常識だと思っていることが、世界では常識ではなかったりすることがあるのだなぁと思いました。
- ディスカッションというよりは、質問をし合ったという感じでした。その中で発見したことは、自分の意見を相手に伝えることの難しさです。あることを質問されて、自分の中で言いたいことが決まっても、100%みんなに理解してもらえるように話すのは、日本語でも難しいと思いました。
- 留学生の人たちと話す機会が今までなかったのもとてもいい経験になりました。国によって文化が違うことが改めて分かったのでよかったです。特に宗教についての考え方や習慣は国によってすごく違って驚きました。
- 留学生の方々は、日本語を勉強して、まだ数ヶ月というのに、とても上手に話されていて、正直驚きました。発見したことは、どの方も、日本に対し、とても関心を持っていて、自国についての考えも主張しながらプレゼンテーションをしていたことです。そして、失敗を気にせずに、自分の考えを伝えることについて一生懸命でいたのがよくわかりました。自分がオーストラリアに行ったときに、何度も“Don't be shy.”と言われたことを思い出しました。むしろ自分のほうがうまくディスカッションできていなかったのでは、と反省してしまいます。
- 留学生ときちんと話をするのは今回が初めてだったので、外国と日本で、同じことと違うことがあるのだなと知りました。内容はどれも興味深いもの

でした。ディスカッションは、「話し合い」ではなくて、プレゼンでわからなかったことを質問しあうといったものでした。討論にはならなかったけれど、面白かったです。ミャンマーの大学生の多くが、親に生活費を頼るといのは日本と同じだと思いました。大学のゴミが分別されずに全部一緒に捨てられるというのははじめて知りました。人に聞いた話で、本当なのかは不明だそうです。

- 留学生の方がたが日本について発表したあと、それぞれの国についてはどうか、という質問をしました。ひとつの問題を考えるディスカッションというより、聴衆者が質問をし、それに答えるという形のものでしたが、相手の国について初めてすることはたくさんありました。まずはじめに説明したミャンマー出身のREさんの発表で、日本の大学生が勉強とアルバイトの両立をしている一方、ミャンマーの大学生は、おこずかいもすべて親からもらい、アルバイトをまったくしないと言うことを聞いて驚きました。その分、勉学に勤しんでいるのでしょう。REさんは、自分の将来を自分で作る姿勢があり、よいことだ、と言っていました。一方、オーストラリアの学生は、13歳からアルバイトをしていた、と言っていました。国ぐにで、一般的と思っていることも、さまざまなのだなぁと実感しました。食文化で、タンザニアでは、キリンを食べると聞いて、とても驚きました。ディスカッションを通し、いろいろな国の習慣を知ることができました。
- RyugakuLove にきている留学生とは話す機会があるのですが、今日のようにはじめて会う人とこのような話し合いができたことはとても新鮮で楽しかったし、よい経験となりました。発見したことは、先ほども話しましたが皆さんとても日本語が上手だということです。何度もいってもらわなければならなかったときもありましたが、コミュニケーションをとるのに不便だとは感じませんでした。もう一つ、RHさんは彼自身の生活はイスラム教によるものだということを知ってとても驚きました。自分たち日本人には考えられないことだったので、新しい発見となりました。
- ディスカッションをして私たち日本人は普段宗教を意識せずに会話をしているのだということを実感しました。外国人と話すことで、いつもは意識しない

日本人としての自覚をいつも感じさせられますが、今日は特別にイスラム教徒の方のお話を聞いて考え方の違いを思い知りとても良い経験をさせていただきました。また、一方では日本人と同様国が違っても人間として感じるこの違いは思ったよりなく、恥ずかしいというのは習慣の違いではあれ、外国人はみんなオープンだという私の固定観念を覆しました。

ディスカッションの中で、同意できないことや賛成できないことがありましたか。

- ・特にありませんが、宗教についてはいろいろな意見があります。宗教を持たないことは、宗教を持っている人にはおかしいかもしれませんが、私達はこの環境で育ったので仕方ないとも言えるのではないのでしょうか。
- ・あまり賛成できないことは、宗教に対する考えです。わたしは、人はそれぞれ違うのだから、何を信仰したり信じなかったり、その信仰具合も自由で、真剣に宗教をとらえている人には失礼になるかもしれないけれど、人を批判する権利はないと思います。日本では仏教が主流だけど、枝分かれしすぎていて規律などもまったく異なるから、外国での仏教とは違うものだと思います。わたしにとってカトリックやキリストの信仰は本当に「聖」というイメージが強いです。でもそれは信仰の度合いによって違うだろうし、わたしの思い込みによってイメージを固定化してしまっている部分も多々あると思います。だからお坊さんが結婚しているのが変だと感じることも、RGさんの中でイメージが固定されてしまっているので認めることができないのではないかなあと感じました。思い込んでしまったことを改めて違うものとしてとらえることは難しいと思います。でも異文化を理解するには、さまざまな角度からとらえる力が必要となってくるのではないかと思います。
- ・ディスカッションの中で同意できないこと、賛成できなかったことは特にないですが、日本以外の学生（中国、シリア、ミャンマー）はほとんどアルバイトをしていないというのが少し信じられませんでした。
- ・特に同意できないことや賛成できなかったことはなかったけれど、文化、宗教の違いで考え方が変わってくるなあということを感じました。
- ・同意できないことや賛成できないことは、どの発表者の方にも当てはまるのですが、調査した対象がごく一部の人に限られてしまって、それをもとに分析していても、もっといろんな考えの人がいるのに...と思うときがありました。これは、調査期間があまりなかったり、仕方のないこともあると思いますが、日本人のある一面しか見ずに意見をまとめてしまっている気がしました。しかし、「それは、いろんな人がいるので...」という意見をはっきり言うと、理解してもらえたようなので、よかったです。
- ・考え方の違いだと思いますが、結婚しているお坊さんは変だという意見がありました。私は変だとは思いませんでした。
- ・特に、気になったことはありませんが、RHさんの話の中で、宗教による考え方の違いがでたときは、やはり、「異文化」での関係のとり方は、考えるべき点が多いと思いました。
- ・「大学の経験」をテーマにプレゼンがあったのですが、ここで、専門の勉強をして専門の職業につくことが、満足できる人生だと言われたのですが、私はこれは違うと思いました。大学の専門とは違う職業についても、自分が目的を持って満足のいく人生を送るほうが良いのではないかなと思うからです。
- ・賛成できないことは、日本の環境問題についてですが、日本人はデモに参加することは、消極的で、意識はあるが、実行に移さないというところです。デモという形では参加しなくとも、小、中学生のボランティア活動や、ごみの分別、私的なことですが、水の節水のために、お風呂の水は、洗濯機に使いません。デモに参加しないことで、一概に環境問題に対する消極性は指摘できないと思います。しかし、いつも働きかけていないと、人々のモラルは低下してしまうから、働きかけはもっとおこったほうがいいと思う。
- ・RGさんの話の中で、オーストラリアの人たちは日本で温泉に入ることを恥ずかしがるのに、オーストラリアのビーチではトップレスになるというのがありました。温泉は同性の人としか裸を見せ合うことしかないのに、どうして異性（男）に見られる可能性のあるビーチではトップレスになることができるのでしょうか。このことが今でも疑問に残っています。
- ・同意できないことや、賛成できないことはありませんでした。考え方の違いはあっても、それはその国

の文化の考え方なんだと思い認めていたからです。認めるという言い方をすると大げさかもしれませんが、普段留学生と関わる機会が多いので私の中で日本人と接するのと同じようにその考えを受け止めているのだと思います。

ディスカッションの中で留学生と日本語での意思疎通が難しい場合、どのようにしましたか。

- ・相手の表情や会話の流れから自分なりに推測し、決め付けて言葉に出すのではなく、うまく誘導して相手の口から言葉を引き出すように努めました。
- ・短期間でそこまで日本語を話せるというのはすごいと思います。でも、論題が難しいので、単文や単語での答え方がされていました。それでも限界があると、漢字で書いて単語の意味をわかってもらったり、簡単に言いかえを繰り返し、なんとか話が通じたように感じます。先生がより詳しい質問して下さったりしたことでも意思疎通が促進したと思います。こういうとき、国際共通語である英語がきちんと話せたらなあ切実に思います。
- ・会話をする中で理解できなかったことはほとんどありませんでしたが、私たちの日本語を留学生の人たちに伝えるときは私だけでなく、みんなははっきり大きな声で、なるべく難しい日本語はあまり使わないように配慮していたように思います。
- ・言葉を変えたりゆっくり話したりと、簡潔な日本語を心がけました。
- ・留学生との会話では、だいたいゆっくり話せば通じたので、意思疎通に困ることはありませんでしたが、相手の伝えたいことがわからない時は、わかるまで聞きました。「それは、こういうことですか?」と言い換えたりすることによってわかりやすくなったと思います。
- ・私自身はあまり留学生の人と会話することはできませんでしたが、みんな英語を使ったり身振りや手振りでも意思疎通をはかっていたと思います。
- ・ほとんどの内容は理解することができましたが、ときどきわかりにくいところがあったとき、自分なりの判断をしてしまって、「なんとなく」になってしまっていたことは、本当に反省します。文化の違いや考え方の違いも当然のことながら、一生懸命やっていたに對し、こちらがそれに見合うようにやらなければ失礼なことであると思うし、「な

んとなく」は軽率なことだったと思います。けれど、今回のディスカッションでは、本当にいろいろな考えを知ることができました。

- ・留学生の話の中でわからないことがあれば、もう一度聞いてみて、それでもわからないと先生がうまくまとめて、留学生にもわかるように質問して答えを聞いてくれました。先生に助けられることが多かったです。日本語の意味が分からないというときは英語で言ってみると何とか通じました。
- ・わからなかったときは、質問をしました。質問に答えてもらったあと、まだ私ははっきりわかりませんでした。でも議題は進んでしまいました。その後、休み時間に丁寧に教えてくれて嬉しかったです。
- ・RG が中国語で RI さんに通訳してくれました。
- ・内容はすんなりと理解できていたように思います。分からない所は質問というより、自分で一生懸命考えてしまっていたように思うのでそこはもっと聞くべきだったと、反省しています。

あなたが話すとき、留学生に分かるように工夫したことは何ですか。

- ・慣用語や遠まわし表現は避けました。かといって小学生に話すようにではなく、言い方をシンプルにしたといった感じです。これは自分が留学していたときの経験からです。シンプルでも意識次第で十分大人対大人の会話ができると思います。相手を不愉快にさせないように。
- ・ゆっくり話すようにしました。わかってもらえないと、それでわかってもらえるわけでもないのに、ボディランゲージみたいなのもしてました。母国語が違うと、論題が難しくなるにつれてますますコミュニケーションをとるのが困難になっていくと感じます。その際、たとえ自分の話があまり通じなくても、一生懸命コミュニケーションをとろうと努力することが大切だと思います。ディスカッションは指名される前に、思ったときに思ったことを正直に相手に伝えることが前提となるのですが、わたしも含めてですが日本の学生は消極的だと思います。積極的に参加しようとする姿を示すだけでも相手はその気持ちをわかってくれると思うので、これからはなるべくそのように参加したいと思います。
- ・できるだけ、はっきりとわかりやすく、難しい言葉は使わないようにしました。

- ・手を使って表現したり、とにかくゆっくりはっきりと話すように心がけました。
- ・なるべく大きな声ではっきりと発音するように心がけました。できるだけ難しい日本語は使わないようにしました。
- ・話すときには、はっきりと簡単な日本語で話すように心がけようと思いましたが、実際に話していたときは、もしかしたらわかりにくいことがあったかもしれません。
- ・留学生に質問するときは、聞き取りやすいように大きくはっきりと話すことを心がけました。それから簡単な言葉を使うようにもしました。しかし、留学生にあまり話し掛けられなかったのが残念でした。
- ・ゆっくり、はっきり話すように心がけました。先生は大きな手振りなどもつけていました。
- ・あまり意識することなく日本語を話してしまったので、反省しています。
- ・正直あまり意識していませんでした。けれど自分なりに簡単な単語を使って話そうとはしていました。また、分からないかな、と思ったときは簡単な違う言葉で言い換えてみたりしました。

留学生と話すことは、あなたにとって、どんな経験でしたか。

- ・彼らのレベルが高く、興味深い内容で、引き付けられます。一つ一つ、言葉を一生懸命に選んで話しているの、こちらも集中してしまいます。一分一秒、知識が増えて、世界が広がるのがとても嬉しいです。次にどんな言葉を発するのか、どんな意見が聞けるのかが予測できなくて、それが楽しいのです。
- ・今日、アジアの留学生が日本の大学生をどうとらえているかという厳しい事実を知りました。冷たい、関心をもってほしい、と彼らが感じているのを知って、ショックを受けると同時に、確かにその通りだと考える自分がいることに気がきました。わたしは、友達や人と話すことは好きだけれども、あまり人に自分の生活を干渉されたくない性格でもあるので、ある程度距離をおいてしまうことがあります。留学生は正直近寄りたがいます。話しかけて、拒否されたいやという臆病さがあるからです。日本人は消極的だといわれるし、人に関心をはっきり示すことは本当に少ないと思います。留学生は、日頃大学でよく見かけます。本当は話してみたい、という

のが正直なところですが、近づきたい存在です。でも、昨日のことをきっかけに友達になりたいと思います。昨日今日だったらわたしのことをまだ覚えててくれるかもしれないので、明日は無理かもしれないけれど、明後日にでも、早速留学生会館にいて突撃インタビューしてみたいと思います。留学生と話す機会があまりないのは、わたしがそう努力していないからで、やろうと思えばいつでもできるという事実を直視できました。昨日はとても楽しかったので、かなり留学生を捕まえるのは不安ですががんばってみようと思います。

- ・私にとって日本人以外の人と話すことは新鮮なことで、今日のような話し合いを以前も留学生の方々とは話す機会がなどもあったのですが、毎回新発見の連続です。今日もたくさんの驚きがありましたが、このように留学生と話すことは私にとって、とてもプラスなことだと思います。“日本”という国を考えることもできるし、自分の価値観も豊かにすることができるように思います。
- ・今回のようなプレゼンテーション形式で議論したりするのは初めてだったのですが、すごく面白いものであると感じました。私は、バイトに岐阜大学の留学生の方が何人かみえるので接する機会はあったのですが、異文化を比較しての話はあまりしたことがなかったので、すごく有意義なものとなり勉強になった気がします。
- ・私にとって留学生と話すことは、違った視点から意見を言われることによって、よい刺激を受けることができる一つの手段です。そして、楽しみでもあります。その日に知り合ったばかりでも、積極的に話してもらって、こちらも意見が言いやすかったです。
- ・違う国の文化や習慣に触れることができてもおもしろかったし、とてもいい体験になりました。
- ・オーストラリアに一度行ったとき、違う国の、違う文化をもった人たちと交流することは、とても難しいことだけれど、とても興味深いことだと知り、今回のことも、国際関係の分野を専攻している私にとっては、いい経験であったと思います。ただ、ここに留学してきている方々は、強い信念を持っている方が多いと思うので、甘い考えの自分が情けなくなるというか、申し訳ないような気にもなっていました。
- ・留学生と話すのは緊張しました。私の言っているこ

とがちゃんと通じるかなと気がかりでした。人によっては日本語が良く聞き取れない人もいたので、気をつけて話を聞くようにしました。

- ・違う文化の中で生きてきた人々の話は、とても新鮮で興味のあるものに感じます。
- ・日本人とはまったく違った習慣や文化を持った人たちなので、聞くこと見ることが新鮮なことばかりで、自分自身の性格の問題や、日本でも外国のこんな点は見習ったらいいのになあと考えさせられることがよくあります。だから、自分の視野を広げ、自分自身をもっと高めるためにも、このような機会を多く持ちたいと感じています。
- ・留学生と話すことは、私にとって特別ではありません。しかし、言葉の壁を感じないわけではありませんが、日本人と話すよりも好きです。オープンといったらそれで終わりですが、留学生は率直で、嫌いなものは嫌い、好きなものは好き、ととても素直でかざらなくていいからです。そして何より自分の考えをしっかり持っていると思います。勿論、私は日本人ですし、日本的な考えを持っているので、もっと気を使ったほうがいいと隣にいて、気をもむ事も多々ありますが、やはり、留学生と話すことは自分を意識しなおしたり、異国の文化を知ったりできてとても新鮮なものだと思います。欲を言うなら私の英語力を上達させて、もっと正確に理解し、深く話ができたらと思っています。

このディスカッションプログラムについて、自由に意見を書いてください。

- ・今日は本当に有意義な一日でした。こんな授業を受けたいと思っていた、正にそのものでした。カナダにいたとき、毎週ある discussion のクラスで、韓国人、台湾人、メキシコ人、カナダ人と意見を飛び交わせて議論していましたが、日本でもこんな機会があったらな、とずっと思っていたのです。育ったバックグラウンドが違うから、思考回路もその根拠も違って、本当に参加していて楽しいです。またこのような機会を設けてください。集中講義ではなく、毎週「異文化ディスカッション」のような授業が実現することを願っています。こんな素敵な機会をありがとうございました。
- ・ディスカッション、とても楽しかったです。少人数だからこそ、くだけて話し合えたなあと感じます。

自分の意見を話すことと、相手にわかってもらうのは別物で、それがよくわかったし苦労しました。今日先生が提示した課題ですが、突撃インタビューに対してかなり不安です。それを彼らはやって自分のプレゼンを行ったのですすごいと思いました。わたしもプレゼンをやったことがあるのですが、インタビューなどは含んでいないものだったので、今回彼らのを見てみて、まだなれない土地でそれをやりきった彼らはすごい、と思います。意欲というか、積極性がとくにわたしには足りないなあと情けなく思います。大学全体で統計をとることは困難で、限定された意見しか得られないのでそのまま固定イメージになってしまうという欠点もあるのですが、それも意見の一つだととらえることが必要だと感じました。また、ディスカッションをする際に大切なのは、論題に入る前に、アイスブレイキングをすることだと思いました。今日は、NA さんや NB さんとはもともと留学生と面識があったようなので、なんの問題もなくディスカッションに入れてよかったです。でも知らない人たちと意思を話せる機会があったのはわたしにとって刺激になったと思います。とりあえず、目先の目標は、留学生会館に突撃することです。うまくいくようにがんばります。

- ・前期の授業で留学生の方たちと話をすることはわりと慣れていたので今日のディスカッションについてもさほど抵抗感はありませんでした。いろんな国からきた人と日本のこと、祖国のこと、その他いろいろなことについて大学で話ができるなんてそうそうある機会ではありません。ですから、この講義をとってはじめて留学生との会話を体験する人、今まで以上に留学生のことを知る人、個人個人でこのディスカッションから得るものは違うと思いますが、私はその両者にとって必ずプラスになるものだと思います。今日グループ 3 で日本への留学生の様々な疑問が聞けて私も自分の国について改めて考えることができました。ありがとうございました。
- ・全体を通して、楽しくできました。いろいろな国の人が混ざっていたところがよかったです。普段は他の国についてあまり生の情報を得ることをしないので、こういう場で話し合ったことでもっと視野を広げていきたいと思うようになりました。
- ・このディスカッションプログラムは、とてもいい企画だと思います。ただ黒板に向かって話を聞いてい

るだけではなく、人と向き合って話すことによって、自分の頭を動かすことにもなるし、新たな考え方ができるようになるかもしれないし、とにかく何らかの刺激を受けることができるよい機会だと思いました。

- ・普通の講義よりも実際に話し合うことはいいことだと思います。それぞれの人の国の話も聞けるし自分の考え方も話すことができ、記憶に残る授業だったと思います。
- ・今まで、留学生と自分の国や文化などについて話す機会をとってこなかったもので、このような機会があったことはとてもいいと思います。これ一回限りではなくひとつの内容にもっと時間を取れたり、もう少し意見を言ったり聞いたりするようにコミュニケーションをはかることができれば、より充実した内容になっていくのかもしれない。自分自身についても、考えをまとめたり、知識を得たりしてから、このディベートに参加できたらよりよかったのではないかと感じました。
- ・留学生と日本人の学生が、面と向き合う場面としてはとてもよい機会だと思います。ただ今回は資料がなかったので、話し合いのときにまず内容の不明確なところの確認をしなければいけなかったのが、良くなかったと思います。レジュメなどがあると良いと思います。プレゼンなどは、同じことを専門にしている人たちが集まってやるものだけでなく、このようにあまりその分野に詳しくない人々が意見交流することは珍しいと思うのですが、もっとあって良いと思います。
- ・さまざまな国の人と話すことで、いろいろな意見が聞けて、とても楽しいです。こうしたディスカッション形式のものが、今後、いろいろな授業の中で取り入れられていくといいなあと思います。今回のものは、留学生の方の詳しい調査活動のために、できたことなので、ディスカッションをするためには、資料がないといけません。それを用意したり、準備したりするのは、とても大変だと思いますが。
- ・日本人外国人関係なく、初めて会う人ともそうですし、いままで友達として付き合いしてきた人たちとこのような話をする機会というのは、自分たち自身ではなかなか持つことがありません。なので、このよ

うな場を与えてもらい、また自分を呼んでいただけたことにとっても感謝したいです。またこのような機会があれば是非呼んでいただけたらなと思っています。今日はありがとうございました。

- ・今回のディスカッションはとても新鮮で、充実した時間でした。この様な会に参加できた事をとてうれしく思っています。欲をいうなら、もっといろんな国の人も交えてもっと多くの人数で一つの内容について考えてみる機会もあつたらいいと思います。今日はとても勉強になりました。今回このような機会を与えていただき本当にありがとうございました。またの機会を楽しみにしています！

5. まとめと課題

留学生センター 太田孝子

今回のプロジェクトは、日頃から交流の機会の少ない留学生と日本人学生の現状を改善することを目的に企画したものである。その観点から各報告を読み直してみると、今回のプロジェクトに対する学生の充足度や評価は意外に高いことが分かる。

留学生は一様に、日本語という外国語で発表することの大変さと、それをやり終えた充実感を感じており、この体験を通して、今後も日本語の学習に励んでいきたいという意見を記した者が多かった。また、日本人の発言の仕方、発言の内容などから、日本の文化的側面も感じていることが分かった。日本語でのやり取りが理解でき、プレゼンテーションに対するアドバイスを得ることができたと報告している留学生も予想以上に多かった。時間をかけてプレゼンテーションの準備をし、発表を行い、ディスカッションするという作業が、各自にとって貴重な体験となったようだ。

このような感想を持つことができた背景には、各グループが7～10名という少人数で構成され、発表しやすい自由な雰囲気の中で行われたという点が指摘できよう。留学生が時間をかけて熱心にプレゼンテーションを作り上げてきたことに加え、日本人学生も懸命に耳を傾け理解しようと努めたことが良い雰囲気を作り出したといえる。

他方、日本人学生の感想の中で多かったものは、自文化を当たり前、普通と思っていたがそれぞれの国の文化の違いを感じたというものであった。アルバイトをする事を当然と思い、僧侶の結婚に何の違和感も感じていない日本人学生にとって、アルバイトをしない他国の学生や結婚を禁じられている僧侶の話題は驚きだったようだ。それ以上に、宗教が日常生活の中に生きており、様々に作用している国から来た留学生の考え方は、彼等の理解を超えたようだ。しかし、それでも互いに認めあうことの大切さを理念の上だけでも確認したことは尊い体験だったといえる。相互にどれほどの「共通理解」ができたかは不明だが、自分の考えを相対化できたこと、異なる意見を聞いたことは日本人学生にとってよい体験になったのではないだろうか。

今回、日本人学生は留学生のプレゼンテーションを聞き、それに対して日本語でディスカッションを行う

という「楽な」役割だったのだが、日本人学生に対する課題として想定していたことは、事前の情報を与えられていない状況で、どのようにディスカッションに参加し、意見が言えるのか、留学生に対する配慮ができるのかということであった。その点を顧みると、日本人学生は熱心に発表を聞き、ディスカッションに参加したと言うことはできるが、留学生に対する配慮はほとんどできなかったと言っていいだろう。留学生に対して「ゆっくり、はっきり、大きな声で、簡単な語彙や文章で」話そうと努め、時には「見振り手振り、辞書や、英語を使って」話したと報告している学生が多かったが、各グループのテープ起こしを読み直してみると、そのような配慮が実際になされていたと思えるような場面は思いのほか少ないことが分かる。「時々分かりにくいところがあったが、自分なりの判断をしてしまって、なんとなくになってしまった」「実際に話していたときは、もしかして留学生が分かりにくいことがあったかもしれない」「あまり意識することなく日本語を話してしまった」などの意見の方が、実態を写しているように感じた。また、たとえ「ゆっくり、はっきり、大きな声で、簡単な語彙や文章で」話したとしても、英語を使ったとしても、それで真意が伝わったのかどうか、その点に関する洞察もほとんどなされず、一面的な意見を記しただけではないのかと感じるようなアンケートもあった。ましてや、自分の意見をいうことすらためらっている日本人学生の姿は、留学生にとっては驚きだったようだ。

自分の意見を伝えることや留学生の状態を考慮して日本語をコントロールしていくスキルはほとんどないというのが、日本人学生の現状だといえよう。また、数人の学生から、事前にプレゼンテーションのスク립トかレジュメがほしかったという意見が出されたが、これも、セッションの目的と照らし合わせて、どうしたらいいのか考えなければならない点の一つである。

その他、日本人学生からは、調査方法に対する疑問も出された。それは、ごく限られた少数のアンケートの対象者の意見を、日本人全体の意見であるかのようにまとめていることに対する指摘であるが、そこに留まらず、自分自身も複眼的な視点を持つことの大切さを教えられたという発展性が示されていた点は評価したい。

上記のような点をふまえ、今後は、このようなプロ

ジェクトを行っていくために、目的をより明確化していくことが課題となるだろう。どのレベルの留学生とのディスカッションを設定していくことがより有効なのか、日本人学生には事前にどこまで情報を与えておくのか、日本人学生の役割をどのように設定するのか、望ましい記録の取り方、司会者の在り方とはどのようなものか、ディスカッションで与えられたアドバイスを事後の授業の中でどのように役立てていくのか、留学生・日本人学生に対する事後の指導としては何が求められるのか、等々の検討を行ないつつ、目的の明確化をはかっていきたい。

今回の反省をふまえ、留学生・日本人学生両者の直面する課題を持ち寄りながら、しばらくは、このような実践を積み重ねていきたいと考えている。

6. 参加学生名簿

日本語研修コースAクラス

ウィン ティダ	ミャンマー
オウ トクエイ	中国
カサंगा クリストファー ジャコブ	タンザニア
キョ タイ ナンダー	ミャンマー
ニユン ダン ダム テュク	オーストラリア
ジリラティー モハマド ナジー ムスタファ	シリア
シン コウ	中国
チュー ジョリーン ペイリン	オーストラリア
ニン イー ソー	ミャンマー
フー ジュアウ キティー	オーストラリア

教育学部日本人学生

伊藤 直美	生涯教育課程 3年
尾崎 志保	学校教育(教育学)講座 4年
太田 浩司	社会教育講座 2年
加藤 いずみ	音楽教育講座 4年
加藤 栄美	生涯教育課程 3年
川崎 真由美	生涯教育課程 3年
栗本 佳奈	生涯教育課程 3年
香田 綾	国語教育講座 3年
後藤 智子	生涯教育課程 3年
近藤 恵	生涯教育課程 3年
酒井 龍彦	物理教育講座 3年
高橋 敦子	生涯教育課程 3年
中島 寛子	国語教育講座 2年
宮川 真由美	生涯教育課程 3年

教育学部留学生

タンタン エー	文部科学省教員研修留学生・ミャンマー
ハウ ギ	教育学部研究生・台湾

異文化理解プロジェクト報告書

2003年11月 発行

編 集 岐阜大学留学生センター

発 行 岐阜大学留学生センター
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL (058) 293-2142
FAX (058) 293-2143

印 刷 株式会社コームラ
